

《本文翻刻》

情世間乃福ひを思ひくらふるに身やすく心たのしひ子孫のさかふるを上とす
命のなかきを次とす位高く富るを下とす 此福ひ乃種は明德佛性なり

此種をまきて此福ひを造る田地は人倫日用の交なり

明德佛性をつねに明かにして何事につきてもむさふらすいからすかたくならずひすかしからす親につかへては
孝行の誠をつくし夫につかへては順 従の道を守り子をそたつるには正しき道にしたがひ夫の兄弟一族には
其程々にしたがひてこんせつにあいしらひ家内の僕にはねんころに情けふかくこつしき非人に至るまで慈悲をほ
とこすを明德佛性乃修行とす

此修行まことあればかならず其生れつきの福分を得る事たとへはふかく耕しよく耘りぬれば秋實むなしからさ
るかことし

徳高く業ひろければかならず其福分をますところ有

古も今も 貴も 賤も 知あるも 愚なるも いきとしいける人このさいはひをねかはさるはなし

志かへあれもとむる道にまよひ明德佛性をすて、人倫日用の外に求るによつて二六時中に心をつくしむねをこか
して求るといへとも其かひなきのみにあらず却て生まれ付たる福分をもおとしぬれ共 其あやまりをわきまへす
夏の虫のともし火におもむき江河の魚乃ゑばをむさふるに似たり

或のいはく明德佛性の修行なき凡夫にも富さかへ命なかきものあるはいかゞ

曰然りそれは其生まれつきの福分あつき故か又は先祖乃積善の餘慶によつてその身一代のわさはひをはまぬか

るゝといへともかならず子孫にむくひてあさましきものなり

悪をなしてたに一代乃うち報なき程の福分なれば若善を行ひなは其身の樂み子孫の繁昌たくひなくめてたか
るへき事うたかひなし

其身にわさはひを受るよりも子孫のわさはひなけかしかるべき事は皆人の親の情なれとも子孫に報へき理りを
たしかにわきまへさる迷ひにて悪をあらためさる成へし

子孫乃ためを思はん人は其身に報ひなき事を頼すしてひたすらにいましむへき事なり

其上かくのごとき乃人は命ながく富さかふる福ひは有といへ共 其身安く心たのしひ子孫の

榮る福

ひをハかならず取失ひぬればさしたる福ひにもあらず

或乃日

明德佛性の修行誠ありても福ひを得ざる人も有べし

日然り夫は其生れつきの福分うすき故か又は先祖積善乃餘殃によつて其身一代には福ひを得ず

かならず子孫に報ひて積善の餘慶めでたく榮るものなり

善をなしてだに其身に報ひなき程の福分なれば若悪を作りなハ其禍ひはかるへからず

我身の榮んよりは子孫のさかへんことをねかふは皆人乃親のならひなれば誰もつとめ行ふべき

かならずむくひなん理りをわきまへさる故にをこたるなるへし

其上明德佛性乃修行誠あれば身やすく心たのしみ子孫のさかへぬる福ひあれば富貴榮花乃外の

ひといふへきにも非ず

或乃日 今時乃人ハ現世安穩後生善所と願へり明德佛性の修行にも後生仏果の福ひあるへき

にや

曰明德佛性の修行すなはち後生佛果を得る修行なり

いかんとなれば今生後生すへて心に有

今生に心なければ此身しかいにして今生のはたらきなし

後生に心なければ極樂地獄乃果を受るものなし

肉身には生死ありといへども心には生死なきよつて今生の心すなはち後生の心なり

今生の心明徳佛性明らかなにして清淨安樂なれば後生の心即極樂乃沸果に至る

今生の心三毒さかんにして迷妄くつうなれば後生乃心すなはち地獄の責を受

或ハ直指人心見性成佛と示し或ハ自性覺即是佛慈悲即觀音喜捨名爲二勢至一平直即

弥陀貧嗔是地獄愚癡是畜生と教へ或ハ十方沸土中唯一乘法無二亦無三除沸方便説と説

或ハ唯心淨土己心弥陀などいへる大乘の法門皆此理りをあかせり

然るに世乃中の小乗教の方便説を教へあやまり聞そこなひて世間法出世法現世の福ひ後生乃福ひ

など各別の思日をなし無爲無漏乃善根を志らすたゞに有爲有漏の善根のみをむさぶり仏道を修行するとして覺え

す外道に入ぬ

明徳佛性の修行を捨て徒に外さまの修行をつとめて成佛得脱を求るはたとへは木によつて魚を求るか古とし

されハ明徳佛性乃修行誠あれハねかハされともをのつから沸果に至る

もし又明徳佛性の修行をつとめず三毒の心をすてすたゞに外さまの修行はかりをつとめてハ晝夜に沸果をねかふと

いふとも必ず地獄に落 如来真實義にそむく故なり

むかし梁の武帝達磨大師にとふていハく我位につきてよりこのかた寺をつくり經を写し僧を度する事其数を志ら

すいか程の功德あるへきや

達磨古たへてそれハたゞ人天乃小果有漏乃因にして影の形に志たがふかことく有といへ共真實にあらす少も功德

なきことなり たゞ淨知妙圓の修行功德無上なりといへり

武帝有爲の善根におほれ天下の財をついやし萬民をくるしましめ地獄の業を積て沸果を求めらるゝ迷ひを達磨大師

あはれひ給ひ教誨親切なりといへとも武帝習心に蔽れさとする事あたはずいよいよ有爲の善根にふけり萬民をくる

しめらるゝによつて天下大にみたれ終にかつへ死なれけり

現在乃果を見て過去未来を知らねば後生の有様もさこそとにあさまし

前車乃くつかへるは後車乃戒めなれば沸道修行乃人よくよくかゞみて用心あるへき事なり

考は孝行なり 逆は不孝なり

孝行なる人には天道 福をあたへふ孝なる人にハ天罰をくだし給ふを報といふなり

女は夫乃家を我家とし夫婦一体乃理りなるゆへに夫の父母をわが父母とし我父母を大せつに思ふ心をうつし

夫と一味に考を盡すを婦人乃孝行とす

此孝をよくおこなひ誠ある人は天道これをたすけめくみたまふゆへに人も又古れを愛敬す

しかのみならず百福乃あつまるるところにして子孫これによつて繁昌す

ふ孝なるものをハ天道にくミすて給ふによつて人も又これをあなどりかろしむ

志かのミならずよるづの禍 これよりおこり子孫も又これによつてすいびす

又孝行ハ作仙成佛の修行 不孝は地獄の業ともいへり

その上人間ハ明徳佛性をもて根本として生れたる物なれば誰も此性なきものはなし

この性ハ人乃根本なるによつて又本心とも名づけたり

此本心ハ愛敬せざる所なきものなれば本来 姑ハかならず嫁を慈愛しよめはかならず 姑に孝行なる理り

なり

かるがゆへに誰人をも孝行とほむれハ悦び不孝とそしれハいかる

きハめて不孝なる人も隔心なる人のまへにてハかならず孝行のふり有

志かれとも志うとはそのことを思ひすごすまよひによつて本心をくらましよめハ物我の隔心に迷ひて本心をくらま

し互にあさましき心行ある也

それよめハいとをしく大せつに思ふ子乃つまなれば志うとの本心ハいつくし愛するものにきハまれり

のちのちに悪ミきらふごとくなる心はしめよりあらハ何のためにか取むかふべきや

とりむかふる時ににくむ心ハすこしもなければもよのつね乃親おやのならひにて其子を思ひすごすによつて嫁よめの容儀ようぎ才徳さいとく乃よくそなはらん事をねがへり

才ハ女の萬よろづの志わざなり

徳は心だて身のおこなひのやほらかに道みちあることなり

容儀ようぎ才徳さいとく乃よくそなはりたる女をんなは世にまれなる物なれハよめのそなはらさる所ところをせむる心はげしきによつていつくしミ愛あひする本心ほんしんくらく日にそひにくむ心おこりてそのあひ志らひかどかどしくて次第しだいにかげのうはさもあしく成なりゆきぬ

扱さて又人乃よめたるものも本来人乃家へゆくはじめに志うとにさからひ ぶ孝かうをせんとたくむ心は露つゆも有あるまじ

ひたすらに志うとの氣きにいり夫おつとにもよく思はれんと思ふ心のミなり

これ孝行の本心なり

志かれどもつねの人乃ならひにて他人ハかならずわれをにくむものなりとむかへとゞこほること有

この古ふるろすなハち物我ものがの隔きやく心といふものなり

この物我ものがの隔きやく心より志うとを見れハ志うとも又他人たにんなればさだめて大せつにハ思ひ給ハじとむかへたるきやく志んふかきところに志うとのかどかどしきふりを見てすハやかくこそとこゝろやすからぬうへに又かげのうハさよからぬ事をはしたなどのつけ志らすれば むねさハぎ心さかだちぬ

かくさかだちたることろにて志うとにつかへぬるによつてそのふりおほえすかどかどしくなりぬ

かどなきだにもさハる中なるにましてかどあるふりのつかへなれハ志うとのにくミますますふかくなれば よめ乃かどもいやましになりてつゐにふ孝かうのよめとなりぬ

此ことハりをよくわきまへ志うとの本心ハかならずわれをいつくしミ愛あひし給ふものなりとこゝろ得えて物我ものがの隔きやく心しんをうちとけ志うとのあてがひみちあるときはもちろん孝行かうかうのまことをつくしもし又志うと道みちなきあてがひあらはこれハ志うとの本心ほんしんにあらずわが身みによからぬことあるゆへに志うとの情識じやうしきうごきてかくあると身みをかへりみてわ

があやまちをあらためいよいよ孝行かうかう乃まことえおつくしかりせめにも志うとをとがめうらむべからず

萬まん一いちとがめうらむる念ねんおこりなば天道てんたうにすてられ人ひとにくまれわざハひをまねき志しそん乃すいびすへき邪心じゃしんなりとおそれつゝし本心ほんしんの考徳かうとく沸ふつ性をあきらかにすへし

かくのことくよくくふうしてつねにをのれが本心ほんしんをあきらかにし孝行かうかうのまことあれハ志うともかならず後來こうらいの情じやう識しきとけ本来ほんらい乃慈心じしん明めいになりて家内かない和睦わくぼくし子孫しそんはんしやうめでたかるべし

むかし文安ぶんあん懸けんといへるさとの百ひやく 姓しやうつまをめとれり

そのつまようぎすぐれければようきをやたのミけん志うとめにつかへぶりたけかりけれハ志うとめも又にくミさらへり

おとこほかへ出てかへれば志うとめ乃つれなき事ことをつけてなきなきけぬ

はしめはおとこきゝもいれさりけれともあまりたびたびなきなきけるまゝおとこある夜よひそかにつまをよびてかたなをぬきてつまにみせてなんちかなけきもさる事ことなれば母ははをころすへしとおもひて此かたなを古ふるらへたるかい

かどあらんととひけれハつまこれをきゝてそれハわかぬかふところなりといふ

おとこのいハく母のあてがひ無道ぶだうなる事こととなりざいしよにも志かど志らさるうちにハいかゞしけれハ なんちまづ一月ひとしき二月ふたつきのほどよく孝行かうかうをつくしてなんちハ孝行かうかうなれども志うとめ乃無道ぶだうなりと となり在所ざいしょにとりきた有あてのちなんちが本意ほんいをとぐべしといふ

妻つまよるこんでそれより一月ほどのあひた孝行かうかうをつとめければ志うとハ本来ほんらい慈心じしんあるものなればなじかハあしかるべきあてがひよくやハらぎけり

そのゝちおとこひそかにつまをよひて母ははのあてがひいかゞととふ

つま前まえかどよりハよしとこたふ

また一月ありておとこひそかにつまをよひてとひけれハつま古ふるたへていまハすこしもあしき事ことなくわが親おやのことならずかねての事ことさもなかるべしといふ

此時おとこ刀をぬきいかりていらくなんぢ世間につまをころすものあるときくや

つまのいらくこれをきゝぬ
男曰母をころすものあるをきくや

つまのいらくいまたきかす
おとこ曰人間は孝行を本とす

おやの恩ハ身をころしてもむくひかたし

つまをめとるハ本来親につかへ子孫をそうそくせんためなり

志かるになんぢ孝行乃つとめなくて却て志うとめをとがめわれに大悪をすゝむ

此かたなを古しらへし事ハなんぢが頸をきつて母のこゝろをなぎさめんためなり

なんぢにかたなを見せし時きつてすつべしと思ひしかどもなんぢ

孝行のつとめあらバ母の慈心あらハるへし

古れによつて母乃なんなくして科乃なんちにある事を志らしめて後きつてすつへしと兩月の命をのべたるなりといふ

つまおそれかなしびなひてわがつみをゆるし給へいまより毛頭懈怠なく孝行をつとむへしといふ

久しくありて其まことをよく見てゆるしてけり

其後志うとめよめ乃中おやと子よりも和睦して其名たかくさかへけり

これをもて見れハ無道にしてつかへかたき志うとハ天下になき事なり

たゞよめの不孝によつて志うとの名までもけがるゝなるへし

ぼんぶのならひにて利を見ざればすゝます害を志らざれば古るゝ事なけれハふ孝のつミは三千第一にして冥律な

をこれを禁する事をこゝろへてふ孝の邪心をいましめ孝行の功德無量にして上もなく外もなき事をよくわきまへ

孝行乃すゝめとし本心をあきらかにし孝行をつとめはけむへし

○むかし麗水に林侑といふ人あり

そのつま乃周氏女なれとも聖人乃書に通し儒道を信仰して行ひ正しかりけり

かるかゆへに 姑にはきはめて孝行の誠をつくせり

男子一人まうけて後林侑母にさきたちむなく也ぬれ共夫の在し時よりも猶 姑に孝行の誠をつくし毎日三度乃

食物かならず手つから調へてすゝめけり

其子成人してよめをめとれり

よめの徐氏も又周氏につかへて孝行の誠ある事周氏の姑に孝行なるに露も差さりけり

徐氏男子を生り

定老と名く

定老生れていまだ一年にもならざるに天下乱れたり

其家 盗にせまられて難儀なりしかは林氏定老を澤乃中へすて 盗をふせきてうたれにけり

此あひたに周氏徐氏ハ東山へふかく忍びけるが林氏か討れるをも志らす 盗乃すきまをうかゝひ山を出て林氏定老

を尋ねけるところにまた 盗に逢ぬ

周氏はとし老ぬれハめにもかけず徐氏にせまれりてとりこにせんとせしを周氏徐氏たかひに手に手とり死なばと

もにとなげきぬれハ 盗もさうなくよりつかされともつゐにのかれべくも見えさりしを周氏つね信仰してつか

へける神明にいのりけれハ神明のたすけによつてたれとも志らす 盗をおひちらして難なく乃がれてげり

かくして道にまよひこゝかしこにさまよひ沢のほとりをすき行けれハ沢の中に定老すてられて有けるを見つけける

一とせにもたらぬ赤子といひ 盗賊兵 乱の中といひ人遠く虎おほかみ乃往來する野原沢といひ安穩にあるへき事

ならねども周氏徐氏乃孝行天をうごかし神明の加護にや有けんいかにもつゝがなく泣事もなく母にいたかれたるこ

とくにてぞ有ける

周氏徐氏よろこひいだきとりてかへりぬ

そのうち林氏か尸をも尋ね出してよく葬りぬ
兵乱志づまりて家に帰り周氏徐氏さひしきひを送りながら徐氏きハめて孝行なりければ互にあひ慰みて世事の
なやミを忘れけり

此時徐氏はいまた三十はかりにてかたちもすぐれけれハいかなるえんにもとなかだちする人もおほくありけれとも
きもいれすひたすらに周氏に考をぞつくしける

定老おさなきうち病おほかりしを周氏徐氏やうやうにいたはりて人と成ぬ

年たくるに志たかひ学問をはげまし才徳すくれければ潘架といふ人そのまづしきをきらハす其むすめをめあハせら
りけり

定老か妻の潘氏も又孝行あまりありてをのれか家の富貴をわすれ衣裳身乃つくるひまで定老か家のさまにとりかへ
周氏徐氏につかへて孝行なる事たくひなかりけり

徐氏としよりのちわづらひ行歩もかなハさりけるを潘氏よるひるそばをはなれすつかへぬる躰 慈母の赤子を
そだつるにことならず

定老程なく内裏へめし出され秘書丞といふ位にあがり定老か父母にも贈官をくだされそのうち子孫うちつゞき
高位大官にあがる人たえず

是皆周氏徐氏潘氏三婦人の孝行誠ある餘慶によつてさかへけり
林侑はやく身まかり其子またわかくして凶死にあへり

これをもて見れハ林氏か家まづしきのミにあらず きハめて薄福なる事分明なり
かく薄福なる家なれ共 周氏乃孝行誠あるによつてよめの徐氏か孝行をまねき又孫嫁の潘氏か孝行をまねき三婦人
乃孝行乃餘慶によつてその子夫婦贈官をうけ孫乃定老高位にのほり子孫つゞめてたくさかへぬる大福を作り出せ
り

古れひとへに周氏の孝行にて基をはじめたるゆへなり

薄福乃家にてさへかくめてたく 禍を転じて 福となしぬれハまして 福あつき家に孝行の善積りなバ 其福はか
るへからず

かやう乃ためしをよくかゞミて眼前のむくひなきは福分のうすきゆへなり まく種ハ子孫にむなしかるましと頼も
しく思ひおこたらす孝行をつとめおこなふへし

延平府に杜氏乃もの兄弟三人あり
母一人ありしを三人して一日つゝまはりてやしなひけるかミな農人なりければ皆その妻によせてやしなひけり
三人のよめ皆慳貪邪見なる女にて 夫共かうさくに出たるあとにては我やしなへ人やしなへとにらミあひける程に

そうすいなどいふあさましき食物をだに志かじかずめす
其母たへかねていかなる淵川にも身をなけばやとおもふ事たびたびなりき
嘉靖十年かのとう七月十日あまり乃事なりしに白昼俄に空かきくもりひとつかミなり轟きていなつま乃光む
らさきにおひたゞしくひかり眼もくらむはかりなりけるか三人乃よめかうべハ本のことくにて かたより下ハ一
人ハ牛となり 一人は犬となり 一人ハぶたと成ぬ

此事かくれなかりしかハ見物乃貴賤男女其家にくん志ゆしてけり
かくはぢをさらす事月をかさねて終に命たえにけり

里人ゑにかきはんにゑり うりひろめて天下のいましめとなしぬ
志うとに孝行をつくすハ人乃人たる心行なるにこれをすてゝ貪欲無慙なるはまことにいぬ畜生乃心行なれハた
とひ人間の形を変せずとも人間にあらず畜生なり

されハかくのことき人をハ 諺にも人乃皮をかふりたる畜生なりといへり
志かるに此三人の嫁犬畜生の心行たくましきによつて上帝雷公にミことりして人の皮をはぎとり畜生の本体
をあらハし人乃皮をはりたる畜生ともをこらしめ給ふ物なり

我も人もよくいましめて皮乃人なる事をたのむべからず

ふかう 不孝にして畜生の心行ある人はたとひ今生にて畜生の形に変せずとも當來畜生道におつへき事此故事にてよ
くわきまふへし

○開封といへる所乃ある翁に男子二人あり

兄にハすでによめをむかへて家をわけぬ

弟にはなにがしのむすめをいひ名つけしていまたむかへさりしかが折から時の帝色を好ミたまひて天下の美女を
えらひ給ふ

いひなづけせしむすめ ようぎすくれければ其父母もしえらひとられなんかとなけきて いそきめとり給ハれとぞ
うながしける

翁もさハ思ひけれとも家まつしくてかなひがたし

またもださんハほゐなけれハ せんかたつきてさる富る人乃もとへゆき僕となりて銭をかりよめとり乃ついへと
なしてむかへとりぬ

よめ 夫の家にいりて 姑にはまみえぬれ共翁は見えず

うたかハしく思ひ夫にとひけれともおつとハはぢてあかさす 姑にとひぬれハ有のまゝにかたりぬ

よめおとろきないてわかために翁を人乃やつこととして一日もいかてやすからんといそき手道具なともたせ親の
かたへつかハし志かじかの事ありて翁をうけかへさんとおもひ立ぬるまゝ此手道具を志ちにおきて銭をかり給は
れとぞいひをくりける

父母その考なる事をよみして銭をとゞのへ手道具にそへてかへしけれハなのめならずよるこひけふは日もくれぬ明
なハゆきて翁をうけてかへり給へと夫にいひ合せて銭をはゆかのほとりにおきてけり

折しも兄嫁きたれり

弟嫁つぶさに此事をぞかたりける

兄嫁ハもとより不孝にして貪欲なるくせものなりしかばひまをうかゞひくだんの銭をぬすミさりぬ

弟よめ 明るあした銭をもとめミレハ跡もなかりけり

こハいかにとたづねもとむれとも得る事なし

銭をうしなひて翁をあかなハさる事乃かなしきのミならずこひうけたる銭をむなくして父母へことばなき事を
なげき心も古ゝるならざる折から 又夫乃心にはじめハうけんといひしかともまた銭をおしくおもひて盗にこ

とよせてかくしけるとうたかふいるの見えければうたゞせんかたなくむねふさがり心まとひくびれてむなく成ぬ
もろこし乃さほうにてかばねを棺におさめ ほどへてのち野邊にをくりぬれは新嫁乃むなしきかばねを棺におさ
め たよりよき所をもとめて他所にをきけり

扱すでに三日をへて 姑りやうぐをとゞのへ兄嫁にもたせつかはし棺にそなへしめけり

兄嫁 棺の所へゆきつくへきほどの間あつて俄にかミなりさハぎ雨ふりてすさまじかりけるか門によぶこゑ有

姑 は兄嫁なりと思しかともそのものごし乃にざる事をうたかひ戸をへたてて たれそと問けれハわれハ弟嫁なり

と古たふ

姑 きつねのわれをばかすにやとすきまよりこれをのぞきぬれは さにはあらてまさしく弟嫁なり

志かれ共なをうたかハしくおそろしくて人をあつめ門をひらきて汝ハ人かゆうれいかととふ

まさしき人なりと古たふ

姑 のいハく御身むなく成てすてに三日になりぬ

何によつてか又よミがへりぬるや

弟よめ 古たへてわれはしめぬふるがことくなりしがかミなりのすさましきを心さめておぼえすこゝにあるといふ

姑 うれしくおもひ内へよびいれやうやうにいたハリふしぎにおもひ人をかたらひ棺を置たる所にゆきて見れハ

棺のふたはあきて中には何もなかりけるが兄よめ 棺のまへにひさまつきながら死しぬ

見れハうせたりし銭を手にもちて有けり

めもあてられず身の毛たつてぞおほえける

兄嫁の錢をぬすミし大なる罪二あり

一つにハ不孝の罪二つにハ盜賊乃つ三つにハ新嫁をころせるつ三つの咎何れも王法のころす所なり
三つのうち一つおかしてもそのせめ乃がれがたきに三つまでおかし貴る兄嫁ハつゝかなくて孝行なる新嫁ハ却
てむなしくなり三日にいたるまで人間の賞罰沙汰なかりければ天帝いかりをうごかし雷公に命して罪ある兄よ
めをころし考ある新嫁をよみがへらせ給ふのミならずぬすめる錢を手にもたせてはぢをさらさせ給ふ事誠にき
よ紀賞罰たくミにすみやかなる事人間のおよふへききハにあらず

これをよくかゞみて人乃志らざるところはくるしかるましなど思へる悪心をいましめ古らすへき事なり
或の曰新嫁乃孝心神明の加護あるべけれハ かやうのさハりは有まじき事なり

曰そうじて善をなすにハひそかに人乃志らざるやうにとりなすを第一とす

少にても人に志られんと思ふハ満心なり

満心はかならず魔縁となる

魔縁あればかならず魔障あり

寸善尺魔といへるも善をなす人に大略満心ある故にすこしの善には大なる魔障ある事をいましめ

たり

されハ新嫁乃孝心まことありといへともわかげにて兄嫁にかろがるしくかたりたるてい魔縁あるに似

たり

志かるゆへに本より貪欲乃兄嫁 新嫁の孝行をそねミ又は錢をむさふりて此魔障をなし新嫁害にあ

へり

志かれとも新嫁の孝心誠あるによつて終に天道乃めくミをかうふりわざハひをひるがへしてさいハ

ひとなせり

されハこれをかゞみよく心得てひそかに人志れず善をとりおこなふころもちかんやうなるへし

○常州にある村の百 姓母一人有けるか夫婦ともによくつかへけり

母老て盲目と成しかどもいよいよ考をぞつくしける

ある時 夫は 耕に出ぬ

妻ハ家にありてめしをかしきていまだたきあげざるに 夫用所ありて妻を田よりよびけれハ 姑にめしを頼みては

しりいでぬ

媪めしをた紀あげめしつぎをさぐりもとむるとてあやまつてまるを得たり

もとより盲目なれハ見わくる事あたハすめしつぎなりと思ひてめしをうつしをきぬ

よめかへりてこれを見てあさましき事には思ひけれとも 姑乃かなしまん事をおもひはかりて何ともいはず其まん

中のいさぎよき所を 姑に貴てまつりそのつぎにけがれざるを夫にすゝめわか身ハまるのうつりが けがれてく

さ紀所をとりあつめてぞ喰ける

良久しうして天にハかにくもりくらくなりてならびたる人の 面も見わかざるやうになりぬ

そのくらきうちにたれとも志らず嫁を引ゆくやうにおぼえけるが志ばらくして天はれ本の白晝になりぬ

あたりをミれハわか家にはあらてほとちか紀はやしの中にぞ有ける

心得す思ひ家にかへりぬれハふところ乃中にちいさ紀ぬの袋あり

あけて見れば中に米三四升ほどあり

とりて志らげ一日のかてとなし明るあした袋を見れハまた本のこたく米三四升あり

毎日とれとも跡よりわきてつくる事なし

これをたからとして一代さかへけり

人乃常の情思ひの外乃事にあふてハおどろきそこなひ有ことにあへばさかだつものなり

おどろきさかだつ時は気うきたち心さハぎて本心をうしなふによつて遠慮を忘れ圖方なくていふまじき事をもいひ

なすましきわざをなすものなり

此媪のまるにめしをうつせることハこの二つをかねたれハたとひまことのむすめなりとも大かたの人はおどろきさかだちてとかめのゝしるへし

志かるによめとしておたやかに根にいりたる孝心のはたらき誠にたくひなきことなり
常づね 姑をたいせつに思ふ心真実にしてたえまなきゆへなりかく乃こときの孝心は天地神明を感動するまなこなれハ即時にその灵感ありて一代の糧をくだし給ふなり
是をかざ見て 姑をたいせつにおもふ誠の古々ろをつねにあきらかにすへし

○滑州の酸棗縣にきハめて不孝なるよめあり

姑年老て目も見えざりけれハ夫のうちになき時ハいよいよあなとりかろしめて婢乃ごとくにぞもてなしける
有時夫の留守なりし跡にめしの中にいぬのふんをまぜて 姑にすゝめぬ

志うとめこれをくひけるかにほひあしく覚えて心ちあしかりければ邪見乃よめいかなる事をか志たるらんと思ひくふふりしてかくしおきしがほとなくその子かへりければひそかによびてかのめしをとり出しこれハ何にてあるぞさきによめ乃われにたまハリしといひけるをミレハ犬乃ふんなり

其子あきればてゝ天にあふいて大になげきさけびけり

俄にかミなりすさまじくいなひかりはなはだしかりけるがそのいなひかり乃うちより人來りてよめか頸をきると見えしかかたより志たハ本のよめにて首は犬にそなりにける

其時の奉行賈耽此 事を聞てくたんのよめをめしよせ其國中を引わたしてふ孝のものゝいましめとせらりけり
時の人狗頭乃新婦といひてあさましきたましにそしける

善悪乃むくひは谷にこゑをあぐるかことくなれば善を思ひ善をおこなふにハかならず善のむくひあり悪を思ひ悪をおこなへはかならず悪のむくひ有

古れ誠に天地感應乃妙理なり

かるかゆへに人を愛しうやまふはすなハちをのれを愛しうやまふところなり

人をにくミあなどるハすなハち己をにくミあなどるところなり

されバ産棗縣乃よめ 姑をにくミあなどつて犬のふんをすゝめければをのれかかうべ犬と成ぬ

天罰乃懲す所といへとも本来をのれが心行によつてまねく所なれば 姑をにくミあなどつて犬乃ふんをすゝめけるは畢竟をのれをにくミあなどつて犬となすなるべし

かくのことくのよめハ世にまれなる事なれハかく乃こときのむくひもまた世にまれなり

世間家ごとにある常のむくひはかうかうなる子ハかならずなる子をまうけふ孝なるものはかならず不孝乃子をうミ孝行なるよめハかならず孝行なるよめをむかへ不孝なるよめはかならず孝なるよめをめとれり

これすなハち犬のふんをもて 姑にすゝめて犬のかうべとなる感應乃理りに少もたがハざれ共

習におほハれて此ことハりを志るものまれなり

おそるへしいましむへし

○徽州乃葉元贊がつま李氏名ハ善瑜 年十八にて嫁しかはしめより舅姑によく孝行をつくせり

其家まづしくして朝夕もつゞきがたかりけるかよく營 心をつくして我身ハ食せされとも舅姑にはよくとゝのへてすすめけり

一年舅やまひ乃床にふし すでにかきりと見えけれども本より貧しけれハ醫氏をよぶべき力もなし
かなしくせんかたなくて神明に願をたて身がハりにたゝんと精誠にいのりける其夜乃夢想に三官の神明世界をめぐりたまふとて汝が孝心精誠なるいのりをそらにてきこしめしとゞけ天帝へ奏聞ありけれハ天帝勅感あつて舅姑

にハ十二年の寿命をまし婦には錢八十万をあたへ二人の子共をハ高官にのぼせ給ふへしとみことこのりあつてすでに名録籍に志るしたまへりとさだかなるつげの有けるかほどなく舅の病ハいへぬ

其後一とせありてあるあした門もいまたひらかざるにざしきをミレハ金玉座中に見てり

これをとりて志ろがへぬれば八十万になりぬ

其のち二人乃子共高官にのぼりありし夢のつげ露にもたがハざりけり

其となり乃よめ秦氏 二十ばかり成けるか口のさかしきにまかせて舅姑にさからひはなはだ不孝なりけるを李氏
つねづね異見しけれどもきゝれさりけるか天より李氏にたからをくだしたまはる日かミなりすさましくとどろき
秦氏か家におちてかのふ孝の秦氏をやきころしける
貧をいとひ富をねがふは凡夫乃ならひなるに李氏夫の家乃まづしきをきらハす常々舅姑に孝行の誠をつくし
けるは誠に有がたき賢女なり

さてはまた老年の人乃身まかるをハ順儀なりなと思ひて大かたの人は親のわづらふにも身かハリにたゝんと思へ
る心は有べからず

ましてよのつねのよめハ舅 姑をきらふものなれハ他人の煩ふをとふらふよりもなをうとかるへし
志かるに李氏身かハリにたゝんとこのいのりまことに貴ぐひなきかう心なり

又秦氏ハ李氏がとなりなれハたとひ李氏が異見なく共感化あるへき事なるに常々乃異見をきゝいれざる事大ふ孝乃
いたりなり

惣じて悪心悪行の人もいまましめをかさるうちハ猶悪をあらため善にうつるへきたのミあれは其罰すこし
ゆるし

異見を聞てあらためさる時ハその悪かたく定るゆへに其罰すみやかなるものなり

されは李氏ハ孝行の至極 秦氏は不孝の至極 二人檐をならへけるをおなじ日に禍福をくだし給ふ事人間を勸戒
し給ふ天意のほどをよくよくかゞみつへし

○嘉靖年中に順天府乃百 姓その母の久しくやミてなやミけるをなげきて醫氏をもとめてりやうぢしけれども志
るしもなく日を送りけるかある醫氏ぶたの胃を煮てあたへなば本復あるべしといふについてぶたの胃をもとめて古
れを能煮て母にすゝめよとて其妻にわたしてけり

その妻常々古とのほか不孝なりければ老病の事なれハせんなきすりぐひなりと思ひける折ふしそのまごよめ子
をうミければ其胎衣をひそかにとりてよく煮て 姑にすゝめぶたの胃をばかくしてをのれか薬ぐひにぞたりける

ほどなく赤いろなる蛇かのつま乃口へとび入けるか尾四五寸ほどハ口より外にのこれり

其つまな紀さけびもだえぬる事いふはかりなし

まことに希代ふしぎなることなれば聞傳に見物の人おほくあつまりけるか老たる人の見るときは蛇の尾うごかず
わか紀ものゝ見る時は尾をひだりみぎ上下へうごかし面をたゞきけるこそおそろしけれ

ある人くぎぬ紀をもて蛇の尾をはさミひきいださんとしけれども尾乃かた紀事くるがねのことくにておくへは入とい
へとも少もくちへハいでさりけり

かく乃ことくなやむ事三日ありて終にむなく成にける

つねつねの不孝たにそのつミ乃がれがた紀に葉ぐひをせんな紀ことに思ひ胞衣に取かへぬるは畢竟 姑を古ろさ
んとたくむにひとしき悪逆なれハ天罰のすミやかなる事もちろんなり

姑の口へ入ましき曾孫の胎衣をすゝむるのミならず己が口へくふまじきぶたの胃をぬすミくひける悪逆によつ
て人の口へはいるまじき蛇の飛入けるはまことに影乃形に志たかふことくなるむくひおそろしとも中々いふにあ
まりあり

わかきものゝ見る時に蛇乃尾うご紀ぬるハ孝を教へ不孝をいましむる心分明なれば天地神明のしめし給ふ所をよ
く得心して人々の孝心を明かにせんこと其身乃さいハひなるへし

○姜詩が妻乃龐氏 姑につかへてきハめて孝行なり

姑 つねに江水をさきでのめり

江水ハ姜詩か家よりハ一里あまり程ありければたやすく見かたけれども 姑 江水にあらされはのむ事ならざるゆ
へに龐氏毎日江水をくミてすゝめぬ

ある時は風はけしくして帰る事をそかりければ 姑 まちかねてはなハだいかりけり

夫乃姜詩も本より孝行なるものなれハ母の心をやすめん貴めに其妻の龐氏をおひ出しけり

志かれとも龐氏はわか親の家にもかへらすほどちか紀所に宿をかりよる晝となくうミつむぎのいとなミをはげみ

姑しやうとめの心こころにかなふものとゞのへ其隣となり乃なうばを頼たのみて姑しやうとめの方かたへをくりけるか程ほど久ひさしくとだえもなかりければ姑しやうとめあやしく思おもひ是こゝろは誰たれ人の給たまはるそと問とければ姥うば志しかじかとありのままにかたる

志しうとめその孝かう心の誠まことを感じかんじ且かつハ有ありたき志しはつかしく思おもひ姜きやう詩しにわびてよひかへしけり

是こゝろより龐ほう氏し乃な孝かう行かういやましにまめやかなりけれハ姑しやうとめもよろこひ思おもひ家いへまづしけれともゆたかに日ひをそをくりける年としへて一いっ子をまうく

やうやう人ひととなりぬれハ龐ほう氏しにかはりて江水かうすいをくミけるかある時とき水みづにおほれてむなしくなりぬ

龐ほう氏し姑しやうとめのなげかん事ことをおそれてほど遠とほ紀きかたへ学がく問もんにつかハしけるといひてかくしけり

姑しやうとめつねに鮪なますを好このミけるがひとりくふ事をいとひかならず隣となり乃な媪うばをよびともにくひぬれハ一ひと入しよとゞのひかたくありしかとも夫婦ふうふよる晝ひるかせぎて絶たへず鮪なますをすゝめける

かく有ありた紀き孝かう行かう年ねんへて久ひさしければ家いへのうしろに泉いづみ紀き出いでたり

其まあぢハひ江水かうすいに少すこもたがハず姑しやうとめ乃な心こころによくかなひけれバ古ふるれより江水かうすいを汲くむ事をやめて此こゝろ泉いづみをぞすゝめける

毎まい朝あさこの泉いづみのうちに鯉こい二ふたつづゝ有ありければ是こゝろをとりてなますとなし常にすゝめけり

かくきたいふしぎなる灵れい應おうあるほどの孝かう行かうなれハ其名な天下てんかにかくれなかりけり

其まこゝろ天下てんかみだれけるか赤あか眉まゆといへる悪あく人にん同どう類るい数すう千せん人を引いん率そつして姜きやう詩しか里りを通とほりしが此こゝろ里りにハ孝かう行かうなる人ひとあり

濫らん妨ぼう狼ろう籍せきをせば神明しんめいのとがめおそろしといひてかたく濫らん妨ぼうを禁きん制せいしあまつさへ帛きぬ米こめなどを姜きやう詩しにあたへてとをりける

そのゝち帝みかどより姜きやう詩しをめし出いし給たまひて郎らう中ちゆうの官くわんにのぼりめてたくさかへけり

姜きやう詩しか子こ祖そ母ぼのために母ははにかはつて江水かうすいをくミしかハ何なん乃な難なんもあるましき事ことなるに水みづにおぼれて空むなしくなりぬるハ

元もと来きた姜きやう詩しかいゑきハめて薄はく福ふくなるゆへなり

志しかれ共とも姜きやう詩し夫婦ふうふ乃な孝かうすくれてまめやかなるゆへに終つひに薄はく福ふくを転てんじて厚こう福ふくとなせり

姜きやう詩し夫婦ふうふの孝かう行かう其その奇き特とく四しつあり

大おほかたの人は其妻つままことに咎とがありて父ふ母ぼよろこひすといへどもさる事ことあたハす

志しかるに姜きやう詩しハつねづね孝かう行かうにして科かな紀きに姑しやうとめ性せいみじかくていかりぬるをそのまゝさりぬる事情じやうしき識しにつかふる

小せう孝かうなりといへとも毛もう頭とうつまにおほるゝ凡ほん情じやうのけがれなき孝かう心しんそのきとく一つなり

親おやの折せ檻かん道みちな紀きにさへうらむるは凡ほん夫ぶのならひなるに龐ほう氏しつみなくさられぬれ共親おやの家いへへもかへらすいよいよ孝かう行かうを

はけまし露つゆも姑しやうとめをもうらミさる孝かう心しん其その奇き特とく二になり

子こを愛あひする心こころふか紀きによつて孝かう心しん乃なおとろふるはよのつねの人ひと乃なならひなり

志しかるに姜きやう詩し夫婦ふうふのこゝろのやすからんことを思おもふ孝かう心しん眞ま切せつなるによつて子このおぼれてむなしく成なぬる事こと

江水かうすいをくミぬるゆへなりなど思おもふ凡ほん情じやう乃なまよひな紀きのミならずそのかなしミいろにだにあらハれさる孝かう行かうそのきどく三みつつなり

江水かうすいをくみ鮪なますをそなふる事ことよのつね乃なやしなひといひなから家いへまつしくいとまな紀き身みにて懈けだ怠たいなくとゞのへすゝめける孝かう行かうそのきどく四よつつ也

高夫人老後に痺風といへる重き病ひをうけて身もかなハさりけるを周氏常にそばをはなれず帯をもとかで赤子をそだつるよりなを古んせつにあつかひしかは かげしき高夫人も其孝行を悦びて病苦をもわすれておハりにけり
其後夫の戚生身まかりけるか男子四人女子一人いづれもいまたいとけなくしてす紀ハひのいちなミもなりがたかりけれ共周氏よるひるとなくかせぎ衣食乃つたな紀に身をやつし五人の子共をはごくみて男子には皆学問をつとめさせけり

周氏本より孝心あきらかなりければ女わらハをもおろそかにさしつかハすなさせふかし
其上舅 姑 夫の忌日または四時の祭祀には其誠を盡し病中とはいへ共かならずみづからとへのへてまつりぬ
そのそよりやう乃如圭 次乃子皆学問成就して兄ハ進士にのぼり弟は郷薦にえらはれけり
孝行といふは舅 姑によくつかふるのミにあらず貧瘠痴の三どくをのそきすて慈悲柔和の心を明にし節を守り子にをしへ奴になさせふかくすぎハひのかせぎをつとめかりそめにもいつハりをいはす無道をはたらかざるにいたるまでも皆孝行なり

存生の舅姑につかふるよりも死せる舅姑をまつるになを心をつくすを孝行の誠とす
志かるに周氏生るにはつかへてそのよろこびを得 死せるをまつるにそのまことをつくし寡となりて節を守り生業をはけミ子にをしへ奴をいつくし孝行乃道かくることなけれハ希代の賢女なり
かるがゆへに終に二子の才徳 官位のさいハひを作り出してめてたくさかへけり

高夫人のごとく心たけきも周氏の孝にはやハら紀ぬれば高夫人ほどたけからさる 姑に悪れぬるは皆よめのふ孝のいたす処なり

○妻邑乃百 姓支祖宜かつまの喩氏いとけなきより愛敬廉直にして女事のか世紀もすくれたりしか二十あまりにて支祖宜か家へとつぎぬ

其 姑 黄氏八十計なりけるか目もくらみて見えす紀齒ハめてせハしなくきれいず紀にてつかへかたく有しかとも本より愛敬の徳ふかき喩氏なりけれハ孝行の誠を盡し黄氏によるこびを得たり

ある時 夫乃支祖宜酔狂して人の齒を二枚うちも紀て そのつくのひにかねを出しけるが家まつしくて調ひかねけれは喩氏か手道具を志ろかへて出しける

喩氏すこしもおしミくやむけしきもなく貴々 夫乃つミのゆるされし事をよろこひけり

喩氏とし二十五乃夏のころある夜神明まくらがミに立ちつげ給へるは汝前生にてハ牟容といふものゝつまなりしか三十の年病ひをうけ年を古えてなやミけるに汝か 姑 七十あまりにて手づから粥をにてさいさい志いてすゝめけるをその恩愛有がたしとは思はずして汝か口にかく食を悪むによつてくはるる食をくハざるにはあらず理不盡なることなりなどのゝ志り泣うらミぬること貴びたびなり

末期におよんで 姑 に対し天に仰ぎ年七十の人は死せずして三十のさかりなるわれをさ紀たて給ふ事ハいかんぞや天道もろくならざるにこそ となげきさけびけり

其家乃司命これを天帝へ奏聞ありしかば雷公にみことりして汝をやきころさるへきに定りけれ共汝すでにむなく成てその責おこなハれすその按牘いまに天曹にあり
凡 善悪のむくひは一世をいかきりとす

一世は三十年なり

汝前生不孝にしてむなしくなりし年より今すてに三十年にあたりぬれば宿悪の報時至りて明日 雷にやきころさるべし

汝 今の生にて孝行なるによつて前かしに告志らするなりと乃給ひ夢はさめにけり

夢ながらいちじるしき神の告なれハ喩氏さめてかなしくおもひけれとも のがるへき道ならねばと思ひきり夙におき ゆあミ髪あらひ衣裳あたらしくあら貴めて 姑 乃まへにふさまづきいひけるハかりそめにまみえ奉りてよりすてに三年に成ぬれ共さして御心をなぐさむる事もなくほるなき事にこそおもひ侍れ父母にすこし用の事ありて里にかへりぬ老少不定乃世のならひなればもはやまみえたてまつらぬこともこそ有なんといとまこふてそ出にける

姑はそのことばのつねならざることをあやしく思ひしかどもあながちにとひ明らかむへき事にもあらざれば 貴いかなれハ左様にはいへるぞとはかりなり

喩氏ハ里にかへり父母にもいとまこふていそぎ夫の家に帰り家乃南の太木の下にゆき北にむかひ香をた紀天に仰で申けるはワか身今日の雷死志ゆくごうのむくひなれば まことにのがるへきにあらす

志かれともなげかしく存ずる事三つあり

夫乃家まづしく 姑とし老ぬれば我身むなしくなりなは跡乃す紀ハひなりかたかるへき事 一つのなげきなり

われいとけなかりしより父母乃をしへさだかなりしに今天罰にて雷火にやきころされなは父母の恥をさらさん事そのなげき二つなり

今わか身貴じならずしてすてに七月になりぬ

この子若 男ならば支氏乃子孫そぞくすべきに胎内にてともむなしく成ことそのなげき三つなり

前の二つ乃なげきハのがるへき道なけれハいのりもとむるにおよばす

今三月の命をのへ給ひなは身二つに成 支氏乃子孫そぞくすへし

百日乃命を給はらん事ハかたきにも有まじきにや是のみこひねがふところなりと精誠にいのりける

時は大暑乃ころなりしに俄に天か紀くもり風はけしく 雷すさましくとゞろきければ喩氏はいのりもかなハぬにこそと思ひいまやいまやとまちゐたりけるかその里乃張氏が家へおちて其つま乃馬氏をやきころして天はれにし

かハ喩氏は難なく乃がれにけり

其後また神明枕がミにたちて汝か孝心乃たぐひなき精誠乃いのりを梓潼帝君きこしめし貴まひて天曹へいたりて喩氏か宿業乃むくひのかれかたしといへとも今の孝行の誠ある上に今日末後に臨ていのり申ところ心も古とば

もおほやけにして孝行節義ふかくそのことはり正しけれハ禍を転じ 福をあたへ給ふへき事なり

おなし里の張氏がつま乃馬氏心たけく淫乱にして 姑に孝行ならず 夫をば 奴の古とくあなどりかろしめぬ

此馬氏を喩氏がかはりにやきころさせ給ひなは福善禍淫の理り人間に 明なるへしと奏聞ありければ天帝其議に

志たがひ給ひて雷公に 勅りして 汝がかはりに馬氏をやきころし汝をたすけ給ふなり

今よりのちいよいよ孝行を上げむへしとつふさに告給ひけるこ有かたけれ

世の常乃姑にさへにくまるゝは常のならひなるにきハめてたけき黄氏の悦びを得る事その孝行本あるゆへなり

一銭乃器をも我ものと思へる心あるはつね乃女の情なり

志かるに喩氏ハその道具を夫乃酔狂のつくのひにうしなひておしミくやむ心なきハ夫婦一体とおもへる順徳明にして欲心乃けかれなきこと男子にも有かたき德行なり

宿悪の時いたつて天にいのりぬる心といひことはいひ義理正しく孝行節義ふかく生死乃まよひなき心君子にも恥ざる所あり

かくすぐれて奇特なる孝行の徳ある故に宿悪乃むくひをまぬかるるのミならず考感の福めでたくさかへけり

喩氏は宿悪ありといへとも孝行によつてその報をまぬかれ馬氏ハ宿悪なしといへども不孝によつて喩氏にかはり

雷火乃せめをうけぬ

これにて孝行乃功德不孝のつミをよくかんがへ志るべし

現在の果を見て過去未来を志るといへは孝行の功德にてハ宿悪だに変わぬれハまして後生善所のくといはすしてあきらかなれハ成佛得脱乃望もあるものはそのつとむる所を志るへし

善悪乃むくひ大りやく三十年をかぎりとおればあしたに善をなして夕にむくひをまつあやまりをよくわきまふへき事なり

いハんや又その身一代にむくハずして子孫にむくへるも有をや

喩氏もし雷火にやかれて宿悪ありし事を志らすは孝行乃人なれ共かく災にあへるなどゝ福善のうたがひはれがた

かるへし

されハ世間善をなして災にあへる人千人に一人もあらんハ宿悪のむくひをもくその善いまだつくのふにたらざるゆへに喩氏がこたくまぬかれざるなるへし

よくよくわきまふへし

右考逆乃報はなはたすミやかにしてきミよくきどくなることをえらびて志るしぬ
迷ふかき人をよびさまさんためなり

世のつねのむくみは檐をならべて家ことにおほけれど考逆乃むくひなる事をわきまへすたゝその生れつきの福分
なりなとのミ心得ぬる事あさましきことなり

福善禍淫乃善ハ孝行をもて本とす

かるがゆへに孝行の誠ある人福ひを得たるためしかぞふるにいとまあらす

志かるときは父母舅姑は人々家こと乃福神なり

又梵網經曰考順至道之法といへり

古れハ孝行は成佛得脱の真実乃法門なる事を明せり

弥勒佛勸考の文に曰現世の爹娘 便是釈迦弥勒若能供養成他、何用別作功德といへり

これハ現世乃父母ハすなはち生身の釈迦弥勒なれハ父母に孝行の誠をつくしぬれば別のくどくをなすにおよばす
といふ理りを明せり

かくのごとくなれハ家こと人々の父母舅姑ハ皆佛菩薩なり

されハ父母舅姑を或は福神なりと思ひ或は佛菩薩なりとおもひなば不孝の人 忤世にあるまじけれ共此ことほりを

わきまへさる故に舅姑はありて益なく却てむつかしくさまたげになる物なりと心得るによつていとひきらふこゝ

ろつねにたえず此一念不孝乃根と成て色々の枝葉志けりにあさましき禍を作り出せり

ふ孝は王法三千第一のつみなれハ冥律もまたかくの古とし

かるがゆへに不孝の人ハ或ハ人間乃刑罰をかうふり或ハ雷火のせめにあへり

それ父母は福神佛菩薩なれば現世安穩後生善所乃守りかミなりと心得なはむつかしと思ひきらふ心をのつからき
えて孝心かきりなくあらはるへし

若不孝乃念おこる時は三千第一のつミ陽間陰司のせめのがれかたしと思ひこりなは人ことにみな孝行の誠ありて
めてたき世界なるへし

鑑草卷之二 守節背夫報

守節はせつをまもるとよむ

女乃心いさぎよく正しうして情欲乃まよひなくその夫一人をたいせつにおもひ餘の夫を古ひ志たはずたとひ夫

死して寡なるもふたたゝひ餘の夫にま見え交ハざるを守節といふ

背夫は夫にそむくとよめり

守節乃うらなり

その夫をハあなざりかろしめ餘の夫を恋志たひて淫乱なる背夫といふ

それ守節は孝行の一端天理の當然なれハかならず今生後生めてたきむくひあり

背夫は不孝の一しなにして天理にそむくゆへに今生後生あさましきむくひあり

志かれ共このことハりを心得たる人世にまれなればそのむくひ乃すミやかにしてきミよ紀ためしを一つ二つあげて
勸戒乃かゞみにそなへぬ

一つを取て萬をかんかへんことよむ人乃さいハひなるへし

人のつまたるほとものものはその家へとつきし始にハかならず守節乃心ありて夫にそむかんとは露も思ふべからず

しかれ共或は夫のなさけうすきによつて恨みをふくみ或はその夫の容儀心さまなどのむけにおとれるをあなと

りかるしめ或はその夫のまつしきをきらひ或はその夫の族姓のいやしきをいとひなとする一念みな背夫の根と

なりその上に或は美男のいるにさそはれ或は情欲のやるかたなきにまよひ或は道なき男のいざなひにひかれ

て終に背夫の淫乱におぼれ見ぐるしき心さま身のおこなひあるによつて世間のうき名をなかずのみならず天罰のむ

くひあさましきもの也

されはかくのときの人も終にその名たち天罰のあたるへき事をよくわきまへなば其悪念をこらしあさましき道にはおち入ましけれ其他人の見すきかざるところなればしる人もあるまじと心得ぬればまして天道神明の照覧は思ひもよらずしていましむるころあさくねがふ心いやましになりてつゐにまよひおぼるゝなるへし

むかしよりこのかた此道にかきりて人志れぬところ乃まじはりなれ共実ありてう紀名のたゞさるはなし
是ひとへに神明の照覧はヤミ乃夜も晝にことくなれば神罰によつて其名たつものなり

此理を能心得て背夫の念おこる時は神明の照覧おそろしくう紀名のたちあさましきむくひにあふのみならずその親兄弟まで乃はちをさらさん事をつくづく思ひこらしてその念をのぞ紀すつへし

扱又夫のなさけ乃うすきも夫乃容儀心さま乃をとれるも夫の家のまづしきも夫の族姓乃いやしきも皆わが身に生れつきたる果報なりと思ひかへし孝行守節の誠をつくしなば子孫繁盛めてたかるへき事ひとへに思ひなくさミて露もうらミいとふ心をおこすへからず

○太守湛のむすめ房氏幼少乃時よりさたかなるみさほ有けるか十六にて魏溥か妻となりぬ
其父乃家の富貴なる事をわすれ姑に孝をつくし夫にハよく節を守れり

年へて男子をまうけしがいままた百日にも見たざるに夫の魏溥をもき病をうけてたすかりかたく覚えければ房氏に語ていひけるは人の生死は天命乃さだまれるところなれハ今われ身まからんは露もうらミなし

貴なげかしきは汝年わかければ寡にてくらさん事かたかるへし さあらハとしよりたる母いとけなき見とり子誰はごくむかたもあるべからず是のミ臨終乃さハリともなるへしとこそおぼゆれとかきどきければ房氏なくなくいひけるはわか身ちゝはゝの命をうけて君にまみえたてまつりければともに老なんとこそ契りしに今君不幸にして早くむなく成給ふハわか身乃ふ幸にてこそ侍れ たとひ我身ひとつなりともまた誰人にかまみえんやまして大夫人とおさなきものとあれバわか身わかければとて是を見すてゝ身のさいハひをもとめんは犬畜生にもおとるへし左様に思ひいれ給ふこそ情なく思ひ侍れとてなきうらミけり

魏溥か病次第におもりて終にむなしくなりぬ

房氏はことにな紀かなしびしかその尸を棺におさむる時ミづから左の耳をきりて棺のうちへなげ入かねかねの契りたがハすして後の生にてあひま見えんまでのかたみなりといひてうちふし聲もおしまずなき古かれけり

姑是を見てきもをつふしかくかなしき中にいかなれハかくすさまじきことをば志給ふやらんとあやし身ミれば房氏古たへてわれとしわかく侍れハ父母の我志をうばひ給はん事をおもひはかりて是をもてわが心根をあらハしミづからちかい申なりとぞかたりける

さて葬礼かたのことくいととなミ喪に居てかなしびのまことをつくし姑にいよいよ孝行をこたらず其子をよくはこくみそたてぬ

一生のうち終に音楽をきかず酒宴の座敷へまじはらすつねにうちへのミ有けり

子の緝寺となりてとし十二の時房子の父母いまだつゝがなかりけれハ子をつれて里へ見まひにかへりけるか折ふし房子乃なき所にて房子をおさへて家へ歸さすしてさるかたへ歸が志めんと父母一門談合有けるを子の緝聞つけて母の房子にひそかにかたりけれハ房子いそ紀かくれて家にかへりぬ

やゝありて父母房子を尋ればかへりてなし
おどろきおひかけぬれ共終にかへらす
身おはるまで節を守り姑によくつかへける

扱子にをしゆる道にありければその子才徳すぐれその名かくれなくて御門へ召いだされ濟陰乃太守となりめでたくさかへけり

寡乃手にてそだてたるものは大かた才徳不肖なるものなり

諺にも氣随にして不肖なるをハ後家そだちなといひおとしめりしかるに魏緝後家そだちにして才徳すぐれほまれ有て貧賤乃中より太守の位へのぼりぬるは希代乃福ひ也
古れひとへに房子にきたいの徳行あるゆへなり

それ慈悲清淨の心を儒家には仁徳と名つけ佛法には沸性と号す

房子その夫を愛して節を守り姑に孝行を盡しその子を愛する道あるハみな慈悲心乃明かなる故なり
其身のかたわらなる事をもとめ身乃きずつきいたむ事をかへりみす一 生樂事にあづからす心を盡し力を勞する事
皆夫のためにして欲心のけがれ露もなければ是 清淨の本来なり

此慈悲清淨乃仁徳沸性ハ百福の根本なれハその子の才徳官位の福をつくり出せり
現世のむくひかくのことくなれハ冥福も又をして志るべし

○鄭氏が妻の陸氏容儀ことにすくれければ夫婦のあひだきハめてむつまじかりけり
ある時鄭氏さゝめことにいひけるはわれ若不幸にして身まかりなば汝かならず兩夫にま見ゆる事なかれ若汝我に
さきたちなは我もかならず餘のつまをかさねまじとしたりければ陸氏古たへて百年までもともに老なんとこそおも
ふ中なるにこハいまハしき事をの給ふものかなといひながしてぞありける

其のち年月をへて鄭氏病乃床にふしてなやみけるかミつから本復あるまじき事を覚えけるにや父母のおハします
時陸氏にむかひていつぞやのさゝめ事わすれ侍るにや今はやおさなきものもあれハいよいよあら貴めとつぐ事
なかれといひけれハ陸氏は顔うちあかめかうべをうなれたゝかなしびなきてなにもものをはいハさりけり
鄭氏か病ひ日にそひおもりて終にむなしくなりけり

ほどへて陸氏ハ鄭氏か言葉にそむき夫乃家督を持て曾氏が家へあらため歸ぬ
ある時夫の曾氏留守なりし日夕暮に陸氏たゝひとり有けるか 幻のごとくに獨の男乃文を持きたりて我にわた
すと見えしか男ハか紀けすやうにうせて文はかりそ有ける

取て見れハ前の夫の鄭氏か自筆にて我かたへの玉づきなり
陸氏心も心ならずひらきてこれを見ればその辭に曰十年此翼乃契りをむすびし夫婦なれば一 生われをまつる主
たるへし
其上我家財宝ともしきにあらず

何のねがひ志たふところありてかミなし子をはごくます舅 姑をかへりみすあまつさへ我田地かとくをぬすミて
歸ぬる事人の母にあらす人乃よめにあらざ人乃妻にあらざ人非人乃心行いふに言葉なし

われすてに上帝へへうつたへたてまつりぬればやがて幽府へよびとつてはぢをあたへいきとをりを散ずへしとあ
さやかにかきくどきけり
陸氏これをよミて気みきえむねふさかりはぢおそるる心たへかたく遍身よりあせをながしたりしかほどなく目まひ
にてむなしくなりけり
人の妻たるものハその身皆 夫乃身にして己か身にあらされは己か身のミふたゝひ歸く共そのつミ乃かれかたか
るへし

いハんや陸氏は夫の財宝田地までぬすミて歸ぬれば鄭氏か訴へ天帝のゆるし給ふ所もちろん乃事なり陸氏幽府に
て乃せめをしはかれて哀なり

陸氏まへの夫乃文をひらき見たる時にハ後 悔身にあまるへし
もしかくのことく死人に神灵ありて其とがめあらん事をわきまへなは陸氏も節を守り身をまつたうすべきに迷ひて
あさましきむくひにあへり

此故事をかゞみて死人に灵なしなど思へるまよひをひらき其節を守るたすけとなすへし
○むかし梁乃國にわかふして寡なる 女あり
その容儀世にすぐれけるは國中乃位ある人々我も我もとなかだちをもとめとらまくねがひけれ共終にきゝもい
れざりけり

國王すくれたる美人なる事をきこしめしおよばせ給ひて内裡へまいりて宮づかへ申べしと勅使を貴て給ひける
かの寡勅使に対して申けるハ一たび歸てよりのちハたとひ夫むなしくなるといへ其他の夫にまみえざるは婦人
のまもれる節義なり

此節義は人乃人貴るところの道理にして命の根なり

もし此節にそむきなはたとひなから侍る共死せるにひとしき事なり

志かれとも今國王乃みことのりすでにくたりぬれは我守る所をとくへき事かたらんといひて鑑をとり刀をもちてその鼻をそひて申けるはいま我自害をつかまつりたく侍れ共おさなきものよるところなからんことの不便にかなしければかくハつかまつり候なり

國王のわれをめすハ色ある故なり今すてに鼻な紀かたハものとなりぬれはめされてもせんなかるへしとてうちかづきてそふしにける

ちよくしかへつて志かしかと奏聞申けれハ國王もその節義を感じおほしめして其身のまゝにゆるし給ふのミならず高行といふ号をくだされて其ほまれをあらハし給ひけり

凡夫乃情にてミれば高行もし節義をまげて宮女となりなバ大かたならぬ榮花なるべきにいハれさる節を守り鼻をそ紀けるなどおもふへし

是よのつね乃まよひなれ共きハめて心のくらきゆへなり

それ人間乃生樂は身やすく心たのしぶにきハまれり

宮女乃榮花といふへき事ハ只いづくしき衣裳を着かさり味ひいみしき食物をくふのミなり

これハ見たるところ乃心よ紀のミにしてきして樂とするにたらず

いかんとなれはいやしき衣食も常にきなれ食ぬれなれハ我身乃暖に口乃やすんずるところハかハリなし

志かれハ高行のいやしき衣食にも馴たる事なれハくるしひとするに貴らざれハ宮女の衣食を榮花と思ふへからず

さあれハ節をうしなふことの心におゐてやすからすなげかしきくるしびの上になれぬ宮中の人まねをせんと思ふくるしびをさしそへならぬ事をしならはんハ心もくるしく身もやすかるへからず

かくのことくわきまへ見れハ凡夫乃苦樂にても高行の節を守れるハかしこき分別なるへし

いはんや節をうしなふ時は今生後生あさましきむくひあるをや

國王の淫乱なるも高行の節義をは感ずるところあれは誰人もミナ高行のこゝろな紀にあらず貴欲心におほハレ

て明ならざるなるべし

よくかゝ見つもりて守節乃こゝをあきらむへき事なり

○太宗の時さる官人蜀乃國ハ勅使にゆかれたりし留守にその妻道ちか紀座敷に出て道行く人をなかも居たりけるに折ふし張氏といへる人そのまへをとをり過ぬ

かの妻まとのうちより張氏を見てその美男なる事をほめさゝやきけり

張氏これを聞てあやしく思ひながら一町あまりほど行すきしか心のこりたりけるにや又立帰り件乃まどのまへをはいくわいしけれハまとの中より金のかんざしを一つなけ出しぬ

いよいよあやしく思ひて立やすらひける所にうちより女一人はしり出て張氏をまねきてひそかに申けるハ此まとの内におハしますハなにがしとの御内にてわたらせたまひ候か殿の蜀へ使にゆき給ひ久しき御留守にてさびしくおぼしめす折から只今とをらせ給へるを一目見たまひしより貴へかたく思ひ入給ふなりいつの日崇夏寺へ

参詣し給はんまゝ君もかならずかの寺にまち給ふへしとさゝやきにけり

張氏も否いハすたゞうちうなづきて帰りぬ

そのまち約束乃日になりてか乃寺へゆき思ひのまゝに契りをこめ此翼連理のかたらひをなしこれより貴ひたひかの寺にて参會ありけり

ほどへて其夫かへりて件の事をつぶさにきゝしかとも志らざる躰にもてなし日をへて後その妻に語けるハ蜀への道すから難所おほかりければあやうき事のありし時百人の僧を供養せんと願を立ぬるまゝ明日崇夏寺にお

ゐてくやうをとくべしと思ふ也

汝はけふよりゆきて貴んなの此丘に談合してその用意をなすへしといひけれハ妻うれしき事に思ひ尤にてこそ侍れとていそ紀かの寺に行けるか張氏にひそかに此事を告志らせければいそき来りあひぬ

また例乃ことくに契りなのめならさる所へ夫すくやかなるさぶらひ一三人あひぐし来て張氏と妻とハひとつま

くらにきり古ろし其外なかたちしたる者共一人も残らず皆きりころし扱奉行所へゆきて志か志かといひあけるを

奉行どころより帝へ奏聞申されければ太宗仰られけるはかくのごとく乃悪人は風俗をやぶる天下第一乃くせものなれハ是をころして何のことハリかあらんとてかへつて褒美し給ひけれハこれをきく人皆きみよしといハさるものハなかりけり

寺にて淫乱をなして寺にてころされけるこそ奇特なるむくひなれ

されハ此妻こかくあらハれんことをかねて心得なばかくあさましき心行もあるへからず
又張氏もむくひ乃理りを明めなは淫婦のいさなひにはかざるまじけれとも善悪乃むくひ影の形に志たがふことくなれば何程隱密なる事も必あらハるゝ古とはりをたかひにわきまへざるゆへにその身見ぐるしき害に逢のミならず父母兄弟の面をもけがしぬる事なげきてもあまりある事なり

○張氏乃妻計夫人はその心行正しく聖人乃法を尊び守りけり

年二十五にて夫乃張氏にはなれけれハその父母あら貴めとつがしめんとはかりけれ共ちかひをたゝ聞もいれず其節を堅く守りその子乃張浚を養育して身終わるまで操かたかりけり

張浚やうやうものをいふ時に成ぬれハすなハち父の作れる文をよましめよく物乃わかちをわきまへぬる時になりぬれはつねにその父の言行をかたりきかせ志はらくもをしへを怠る時なし

故に張浚いとけなき時より行儀正しく心だてすなほなりけり

すてにげんふくして國学へ學問に入ぬる時計夫人てづから戒乃文をか紀て張浚にさつけていはれけるは今此家すいびたりといへとも汝一人を頼て興隆せんと願ふ處なり

汝よく心得なんぢが祖父汝が父乃德行を思ひ亦我いましめをわすれずして學問油断有べからずといとこまやかにハけまされける

是によつて張浚學問懈怠なく才徳成就して高官にのぼりぬ

張浚位貴かく成て後にも母の心にすこしかなハさる事あれはいろを變じて戒を志めさりけり
其時乃宰相秦檜といふ人すくれてかだましき人にて善人君子をそこなひ天下禍ひをほどこし御門の位をあやうふし

ければ張浚なけかしくおもひ秦檜がかたまし紀事を文にかきて帝へたてまつらんと思ひしか共秦檜か勢ひつよけれハ多分罪をかうぶるへしさあらば母のなげきとなるへきと思ひわづらひ日夜に此事を案じければ次第にやせおとろへてぞ見えにける

母この躰を見てあやしミとハれければ張浚あり乃まゝにぞかたりける

母は何共こたへずしてたゝその父の対策の語に所謂臣寧言而死二於斧鉞一、不レ忍三不レ言以負二陛下下

といへる言葉をとなへられければ張浚さては母も同心にこそ今ハ思ひ残す事なしとて秦檜の事をつぶさに志るし御門へたてまつりければ案にたがはず秦檜か讒によつて封州へながされける

其時母張浚を送りていハれけるハなんぢ忠節をもて禍をかうふるはめてたき事なれハはづかしめとするに貴らざいとひくるふしぶへきことにあらすいよいよ心をやすんじてゆくへしとてなげくけしきは露も見えざりけり

そのゝち秦檜身まかりぬれハ張浚乃忠言かくれなくしてめしかへさるゝのミならず宰相の位にのぼり魏公に封せられ孫乃張南軒大儒となり伯爵に封せられ計夫人は秦國大夫人と諸侯乃つまのをくり号をそ給りける

節を守るはその夫を愛敬する心誠あるゆへなり

其夫を大せつに思ふにハその子ををしへ家を興すを本とす

計夫人は此理りをよくさとつて能其本を立て張浚に道ををしへ守節の大義を篤くおこなはれけるゆへにその子は宰相になり孫は大儒にて伯爵の封をうけその身ハ秦國大夫人の号をかうふり残所なくめてたき大福をつくり出せりそれ節を守る事は誠に有かたきためしなれ共その子に道をゝしへされは至善乃心行にあらず故に其報ひも又うすし

計夫人乃ごとく守節の大義を行ふハ至善の心行なれば其報ひも又厚し

節を守らん人よくわきまへて大義を篤くおこなふへし

○漢の武帝の時朱買臣といふ人有

わかき時ことのほか貧しくして朝夕もつゝきかねれとも常に読書を好み其まづしき事をもくろしますすみつから薪をこりて市に出て代がへ一日の糧だにまうけぬれハさしてすきハひのいとなミにも心をいれず書をよみ詩をうたひてうかうかと暮しければ其妻貧しき事をいとひ又は朱買臣かす紀はひをつとめさる事を心得ず思ひければ常々さやうにいたづらに日を送り給はんハ勿躰なき事なりなど志ゐていさめけれ共朱買臣聞も入ざりけり
或時妻朱買臣にいひけるはかやうに浅ましき躰にて一期をすごさんことは人目も恥かしければ哀いとまをたまハれかしとくときけれハ買臣やうやうにいひなぐさめ留めけれ共次第に口こハく成て是非共にとしゐていとまを古ひけれハ了簡に及ばずしていとまを出してけり

其つま程なく或奉公人のかたへとつぎてゆかたに日を送りけるか折々ハ買臣が方へ食物などをくりてけり
年経てのち嚴助といへる人乃とりもちによつて買臣会稽乃太守となりぬ

その時かの妻夫婦をよひよせて我やしきのとりにおき金銀知行をとらせかたのことくねんころにはこくミける
そのつま買臣かめてたくさかへぬる躰を日々に見きくによつて古しかた乃くやしき今のうらやましき日にそひ月にしてむねをふさかりこゝろミだれて終にくびれてむなしくなりにけり

人間は義理をもて命の根とし福ひの種とし一生の樂ミとするものなれハまづしくいやしきことは恥るところにあらすくるしふところにあらず

かりそめにも不義無道乃事ハはづかしき事にして身をうしなひ禍をまねく本なれハ恐れてのぞきさるへきことなり
されハ買臣かつまハ貧乏乃恥なる事を知てあらため歸ぐのはぢハなはたおほひなることをわ紀まへす
故に貧賤をはづる悪心にて不義を行ひぬれは又貧賤をはづる悪心にて先非を悔なげきくひれてうせぬ
まことに善悪のむくひひゞきのこゑに應ずるがごとく妙なるためしなるへし

○孝婦は年十六にして陳氏か家にとつぎいまた子もまうけさりけるかその夫軍役にあたりてゆきぬ
その出たつ時に孝婦にむかつていひけるはわれ今度の旅いきて歸らん事ハ不定なり

老母をやしなふへき兄弟も別になければ母乃ことのミ心にかゝりなげかしく思ふなり

若我むなしくなりてかへらすは汝わか老母をやしなひてたひなんやとなミたにむせひて志み志みと頼けれハ孝婦
こたへてそれハ仰にもおよはぬ事にてこそ候へ心易くおほしめして旅たち給へとぞ約しける

あんにはかハすその夫軍中にてむなしく成て歸らす

孝婦ハ陳氏か存生の時よりもなを一人に姑に孝行の誠をつくしうみつむきをかせぎてすぎハひをいとなミ終にあらため歸ぐ心なかりける

三年の喪終りぬれハ孝婦の父母そのわかうして子なく又寡なる事かなしひあはれひて能縁をもとめて改めとつが志めんとはかりけるを孝婦聞て大きにいかりな紀かなしひて父母に告て申けるは今我夫にま見えて夫はやく死す又夫われに姑を養ふことを頼しをすてにうけあひぬ志かるをいまあらためとつがんハ不義にして不信也

不義不信にして世にたゝんは死して安堵するに志かすといひて自害せんとしけれハ其父母おどろき恐れて孝婦が心にまかせてけり

これよりいよいよ孝行をつくし姑を養ふ事二十八年にして志うとめの天年終りければ田地財宝をうりて葬礼をいと

なミ喪に居てかなしひをつくせり
此 事かくれなかりしかハ淮陽乃太守御門へ奏聞申されけり

御門なのめならず勅感あつてすなハち勅使をもて黄金四十斤ならびに陳孝婦といふ号をくだしたまハリけり

うみつむき乃かせきにて世をわたるほどの賤のめなれ共その孝行守節すぐれぬれハ其名雲乃上にひゞきかたじけなくも褒賞乃勅使其門に立たまへり

誠に古れをかゞ見て守節孝行の上もなく外もなく有がたき徳なる事をわきまへ志るべし

○蓮眞といへる女あるかたへとつぎけれ共その夫乃心になハすしてさられて家にありしかその従兄の祖恵といへる坊主と忍びて通じける

あまりにたびかさなりぬれはある時その頬に見つけられぬ

そのおばあさましく思ひて蓮眞にも祖恵にもはけしき異見をいひけれハ祖恵錢二万貫をおばにまひなひて此ことさ

たなしに我々かまゝにしてたべとふかく頼みければ姨銭にほだされて見ゆるすのミならず却て淫乱乃なりやすきうすきやうに媒を志たりけれはいよいよ貴かひ乃なさけふかくなりて夫婦のちなミよりも猶むつまじかりけりかくして年を積りければ雷蓮眞か家におちて蓮眞をやきなやましぬる事都合三度におよびけれ共命はいまた絶はてず

三度めにハその背に大文字にやき志るしあり

其ことばにはく乱倫怪獸求生不得死不得三年方下入地獄受上下罪といかにもあざやかにかきつきたりこの語乃意は淫乱の心行あるいたづらものハあやしきたけものに同じければいきん事をもとむるとも得べからず死せんことをねがふとも得へからず三年過後地獄へおとしてせめをうけせしめんとなり

其後かのおぼもほどなく大風にあてられて目をくじられ鼻をそかれてものくるハしくなりけるかわれ銭をとりて乱倫乃怪獸の同類となるゆへに此せめにあふなりとあけくれたハ言にいひやまさりけり

此報ひ希代不思議乃おそろしきことなり

これをかゝ見て淫乱の心行はかならず地獄乃責をうくる事をよくよくわきまへいましむへし

○洪武年中に都乃ある奉公人隣乃女房とひそかに淫通しけるかある晝隣乃男用所ありて外へ出けるをかのおもとこ是をうかゞひ見てやがてとなりへ忍び入かの女房とあひまじはらんとせし時男ほどなく立帰りければまおとこハ娼我を見つけけるにやと驚きさはぎて床乃下へにげかくれぬ

女房男にとひけるハ何の用のありて帰り給ふにやと

男古たへて殊の外あかつきひえ乃するに汝よくねいりたればひえて病もやせんとおもひ夜衣をきせんとて帰りぬと云てよぎを引かけて又出てゆきぬ

まおとこ床乃下にて此事を聞いてつくつくと思ひけるはかの男かほどに妻をたいせつに思ひけるになさけなくもわれに心をかよハしぬることのにくさよ

かく人非人乃者にちきりをこめんハあさましきまよひなり

所詮犬とひとしき女なれハきつてすへしとふと思ひ立てゆかの下より出てこそ乃刀をぬきてかの女房をさしころして家へかへりさらぬ躰にてぞ居たりける

いまだ誰も見つけざるうちに常づね菜うりとくひ乃翁菜を持来りていかに菜は目さるまじやととへどもこたふるものなし

入見れハ件乃躰なりければおどろきおそれてはしり出けるを人あつまりて此翁をとらへいかさまに此ものやうすを志るへしといひて奉行所へいて披露しけり

奉行所にてがうもんしければ翁くつう乃たえかたくや有けん

いつハつてわがころしはんべるなり科におこなハせ給へと白状しぬ

古れによつて頸をきるゝにきハまりけるをか男此事を聞て思ひけるハわれ人をころして又つミなき者を刑罰にあはせんこと科乃上の科もつたいなしと思ひてミつから奉行所へゆき我ころしたる事を詳に白状して菜うりの翁の罪なきことをあかしければ奉行所より此事をつふさに奏聞申されけり

帝きこしめて此もの淫乱の罪ありといへ共ころす所の女犬畜生にひとしきものなれハ殺害の科乃例にあらず其上菜うりか無実をあかす事その功たぐひまれなる事なればその罪をゆるすへしとの勅定にて菜うり乃翁ゆるさるゝのミならずかのおもとこをもゆるされけり

凡夫の情をもて見るに日ごろかよひて情のふかけれ觸發乃ことありて先非を悔なば向後ひとまりかさねてかよハざるまてにてくやミぬべき事也

志かるを愛欲たちまち変じて殺心となり情もなくこれをころす事は貴ぐ件乃男の心に神明の入かハラせ給ひて此男の手をかつて淫乱の罰をおこなひ給ふなるへし

そうじて淫乱なる人も明徳な紀にあらされは淫欲におほはれて不義をおこなふといへとも感觸乃事あれば良知則ひらくる事彼男のことし

若かの男此心を淫乱乃まへにうしなハざりせは隣の妻も此害にあはす己も恥をさらすまじきに義理の工夫たらさる

故にあさましき事をなしぬ

むかしある者に手かけ二人ありけるをさる人二人の方へなかだちをもとめて玉章をつかはしけるか一人はかたく節を守りて返事もせず一人はたやすくなびきければ忍ひ忍ひにかよひて情ふかゝりけり

年へてのちかの手かけ乃あるしむなしくなりて二人共に身のまゝになりける時かのなかだちしたる人かの男に申けるハ今は忍ひ給ひしかたをよびとつて思ひ乃まゝに契り給へかしと云ければ男のいはく我かたへよひとらんハねかふ所にあらず

いかんとなれば我ことく恋ひく人のあらは必定またなびくへければ頼へき人にあらず
今ハあるしなれば前かどなひかさりし人を媒してたべといひて今まてかよひし女をはずて前かどうけ引ざる女をよひとつてふかくちきりをこめてけり

いま此二つの故事にてかんかへ見るに男乃人の妻をこひ引はその本心にあらずたゞ淫欲のほのほさかんにして心くらく気乱れてなすわざなり

かくのこと紀のためしをよくこゝろえてもしいぎなふ人のあらはわれを悪道へひいる悪魔なりそのうへかのおとこ乃本心はわがなびくをにくミいとふ誠ありいまきたりいぎなふは淫欲乃狂乱なれば貴のむべからすよくよく志あんくふうして淫欲を懲し義理乃心を明にすべし

○陶乃奉行答子は欲ふかくつかミのはれる人にてまつりことすなほならずまひなひにふけりぬれハ其家日にとみさかへぬる事かぎりなし

そのつま賢徳ある人にておつとの心行乃貴しからすしてわざハひをまねかん事をなげかしく思ひつねづねことハりをつくし利害をそなへていけんしけれ共きゝもいれさりけり

あると紀答子くるま百兩ともにぐしおひたゞしきていにて故郷へかへりけるか一門乃ものとも相あつまつてめてたしとよろこひいハひけるに答子乃つまハおさなきものをいだきてなにとなくなきなげきかり

姑これを見ていかりかほとめてたき中にいまいましき泣やうかなとのゝしりければ婦こたへて申けるは答子乃陶を

治め給ふ事無道にして國おとろへ民恨ミをふくミぬればその禍乃かれかたく思ひ侍りて常づねいさめ申せとも聞も入給はすいよいよよこさまなる事のミたくミ出してたゞ金銀財宝をあつめんとミむさぶりて後の禍をば露もかへりみ給はね程なく答子の一家ミなほるぼされて子孫乃たねをたゝん事を思ひつゞけてかくハなけき候なり
御異見ましましてあやまちを改め善にうつり給ふやうに御分別あれかし
若さもなく候ハゞわれらには御いとまを給はり侍れ

前かどに此おさなきものをつれて何方へものがれて物たねに残したく侍るとうちくどきて又さめざめとぞな紀にける

姑いよいよ腹をたてて答子に告て終にその妻をさりてけり

其妻おさなき男子一人をこひうけつれて里にぞ帰りける

かくて一年過て後答子が悪逆ことごとくあらハれけれハ一族に至るまでみな一度にころされてうせぬ

姑はかりそ大老なれハとてゆるされて里へ帰りける

答子が妻此事をきゝておさなきものもろともは姑のかたへたづねゆき答子の世にありし時よりも一入孝行乃誠を尽し答子のために三年の喪を終りおさなきものをやしなひ貴てゝ終に答子の家をつがせてけり

答子若その妻乃いさめをきゝ入なばめてたくともにさかへなんものをいたまじきかなあはれなるかな

答子は妻乃いさめをうけさる故に其身凶死にあふのミにあらす其子共一門までミなたやされぬれともその妻乃守節の功によつて一子を全し家をつがしむるのミならず老母乃教養までとげける事有がたきためしなるへし

其妻もし徳なくハ子孫のたねをたつのミにあらす老母もよるかたなくあさましかるへし

それ守節といふは両夫にま見えす寡乃みさほを守るのミにあらす其夫の過をいさめ其善をすゝめなす守節の常とす

惣じて女は内へのミありて外事のつとめなけれハ其夫をすゝめて善をなさしむるをかんやうとす

されは古の君子のおきてに夫に三つの善あれハ妻其一つのむくひを得る夫をすゝめて善をなさしむれハ夫と同じ

く其むくひを得るといへり

善のむくひかくのことくなれハ悪のむくひものがるへからず

よくよくわきまへてその節を守るべし

○華陽乃李尉が妻は世にまれなる美人なりけるをその時の節度使乃官張氏といへる人きよおよひて見まくねかひぬれともその道になけれハ了簡なくて有けるかつくづくと思ひ出して寺々へ下知して七月十五日に色々のとうろうをまうけぬ

若李尉が妻見物に來りもやせんとしたくミにてまちけれ共終に見えざりけり

となりの人にいかなれは李尉かつまひとりハ見えぬにやとはせければ容儀のすぐれたれば夫乃かたくするゆへといふ

又つくづく思案して貴くミなる細工人を多らひあつめて人形をつくりあやつりをもて或ハうたハせ或ハびわ琴をひかせて人形に管弦をぞさせける

巧をつくして成就せしかは開元寺におゐて古れを見せけるか三日禁中へあぐへしと披露しけれハ一日路乃うちものは貴賤男女を多らはずわれもわれもと見物の人おびたしく群集しけれ共李氏かつまハいまた見えざりしか三日にまんずる見物の人もちり志づまりける時李尉か妻あまりに見たくや有けん夫に忍びてのり物にのり下女一人つれてひそかに見物にそ來りける

常々頼みお紀ければ隣のものいそぎ張氏に告たりければ張氏は衣裳を改め物乃かげよりのそきみるに聞およひしに一きハマさりたる美人なれば是より恋志たふ事日にそひてふかゝりければ李尉がい多に出入する此丘尼又は見こなどを頼みて媒にしたびたび文をつかハしけれ共李尉が妻はげしくふせきて中々手にもとらされはせんかたなくてそ日を送りける

折ふし李尉すこし法をおかす事の有しを下人訴人に出てその罪乃評定ありしを張氏ききつけ幸なる事の出きたるにとよるこひ奉行所へ厚くまひなひてかるき科を重く取なしはけしきたきて領南といふ所へながしけるか

道にてむなしくなりぬ

張氏よろこひて李尉が母に金銀を過分にとらせ色々に古しらへて其妻をうばひとりてけり

李尉か妻もつねつねおのれか容儀にまよひ李尉をふそくに思ひければ志みてふせくこともなく張氏に従ひて偕老同穴乃ちぎりたぐひなかりけり

されとも張氏か家へとつきたる日よりたえす李尉がおもかけのかたはらにあるやうに見えてつねに心くるしくおだやかならさりければ張氏にかくといへは張氏かなしく思ひて志るしある術士をおほくよびあつめていろいろにはらひをさせ又は神明にきたうしけれ共その志るしなく一年あまりして終に李尉が屍にとりころされけり

李尉か妻乃その容儀にまよひ夫を不足に思ふ心貪欲愚痴の悪念地獄乃種なり

その上に夫のふせぎをかへりみずひそかに見物に出たる過によつて終にその夫を凶死に落しいるのミならず夫のかたきに契りをこめける事言語道断乃悪逆なれば李尉か來りてとりころしぬる事気味よ紀むくひ也

其後一年もすきすして張氏をも李尉か屍來りて貴きころしてけり

此故事をかゞみて第一おつとをにくミあなどる念をたちさるべし

李尉がつまの悪逆みなこの念よりおこれり

扱又何事につきても女乃見物このミをよくいましむへし

○揚州ある里のなにかしか妻さるとひそかに通じて日にそひてたがひに情ふかくちぎりあさからざりければある夜乃むつごとと語けるはいつがいつまでかくは志のひなんやいかにもしてあるし乃男をむなくして思ふまゝにちきはやと貴がひにうちとけて談合し貴くミ出してある夜男に酒を志めて多ひふさしめ夜更人志づまりてのちまおとこと二人して男乃なづきに釘を打てころしさて家に火をかけやけ死したる躰にもてなしけり

誰うたかふ人もなかりしかは得たりかしこしとよるこひなからいよいよ人のうたかひをうけじときハめてかなしきふりを作りやけ死したる尸にとりつきこゑもおしまずなきなげ紀けり

折ふし揚州の刺史莊遵といふ人とをりあハせられけるか此をんなのなく聲を聞てあやしミ思はれけるハ此なくこゑ

はおそれたるてうしハかりにてかなしぶてうしはすこしも聞えず何事をなげく者ぞ尋ね来れとて使を貴てられければ志かじか乃事なりとこたふ

莊遵これを聞いていハく夫乃やけ死したるをなげきはかなしふてうしはかりにておそるゝてうしハ有まじきに却ておそるゝてうしはかりにてかなしぶてうしのきこへざるは不思議なり

いかさまにも此死人は女乃わざいにこそあるらめ

かの死骸をよくさがし見よと下知しければ下人はしりよつてつくつくと是を見るにそのかばね乃かうべに蠅のおほくむれ居たりければあやしく思ひて髪をわけてミレハなづ紀に大きな釘うち古ミて有けり

此よしかくと申せば莊遵いそ紀かの女をとらへよせ拷問をきびしくさせければ前後つまびらかに白状しけり

これによつてかのまおとこをもとらへ女ともろともにはりつけにかけられけり

此つまの夫をころせる手だてきハめて貴くミなるによつて人間はわきまへ志る事あたはず

志かれとも神明の照覧はたくみをもてのがるゝ道なけれバ其とが泣こゑにあらハれおりから刺史乃とをりあハせられかうべにはいのりむらがりたる事ミな人間のわざにあらざ神明の其科を告給ふなり

莊遵乃きゝ志られたるは誠にたくひなき聰明なりといへともひつきやうは神明の告によつて斯あるなり

これをかゞみてたくミをもて人間をたまさんと思へる人も神明の照覧ハかくすべきてだてなき事をわ紀まへいましむへき

○安東乃金氏ハ天桂がつまなりけるか洪武年中に夫乃軍役にあたつてあけなば出たゝんとするはかりに志きりに人のおとろきよぶ聲あり

ことの外に物すさまじかりければ家内乃ものども皆頭べをちぢめてひれふし誰おきあはするものなし

金氏ひとりはしり出てこれをミレはすでに夫をくはへて引ずりゆきぬ

金氏かなしくいきどをりて弓をとつてをめ紀さけんておつつけ左乃手にては夫にとりつき右の手にては虎をたゝきて十間ばかりほどゆきけるか虎は天桂をすてゝ貴ち乃き金氏をつくづくとなかめ居たり

金氏とらにむかつていひけるはなんぢすてに我夫をつかミぬまた我をもひとつにくらハんと思ふにやといひて弓をもつてはしりかゝりければ虎終ににげさりぬ

天桂ハ絶入して前後を志らさりけるを金氏おふて帰りやうやうにりやうぢしければ夜あけかたに成てよミかへり終につゝがなかりけり

其夜また虎来りて大きにほえてあれけれハ金氏つえをつき門をひらき虎にたちむかひてなんぢも又これ性あるものなり

なにゆへにかくはなハたしきそやといひければ虎家のほとり乃梨の木をかみて帰りけるか其木ハかれて天桂ハなんなくのかれにけり

惣じて神明のゆるしなけれは虎狼も人をくらふことあたハす

志かるに天桂虎につかまれぬハ其身に悪逆なくハかならず宿悪の報ひなるへし

志かるにそのつま守節乃誠あるによつてその禍をまぬかれぬる事きたい乃奇特なり

さすがに貴けき虎なれば女乃おおとす分にては中々ひるむべきことならねとも守節の善心誠あるを神明加護し給ふによつてその神威におそれて虎もにけさり夫も禍をまぬかるゝものなり守節乃功德に貴たけきだにおそれさりぬれば有がたき明德上もなく外もなき事を篤く信しつとめおこなふへし

「1才」

鑑草卷之三 不嫉妬毒報

不嫉はねたまずとよむ吝気乃心なくなりんきの行ひなきことなり

妬も又ねたむとよむ

りんきハ三毒の蝮心なればその身の明德佛性をそこなひ終に人をなやまし人をころす事毒薬よりもすさまじきゆへにりんきふかく人をなやまし人をころすを妬毒と云なり

不嫉ハ守節の善行なるゆへにかならずめでたき報ひあり

妬毒は背夫の悪逆なれハかならず浅ましくおそろしきむくひあり

それ夫嫉に三の得あり妬毒には三の損有

夫乃他人に心をかよハす時にりんき乃毒心なく不嫉の本心明かなれハかならず其夫つまの賢徳を感じをのれか非をくゐて淫乱をやむるものなり

業平のゐらんなるもその妻の不嫉に感動して河内かよひをやめられけるとなん

是不嫉の得その一なり

不嫉の徳あきらかなれハ家内和睦して家門乃福ひ子孫のはんじやうめてたきものなり

これ不嫉の得その二なり

不嫉の本心あきらかなれハ夫も是をふかミ世間^{これ}是をおもんじ其名未代^{なまつたい}にかうバしくその上三毒の焰^{ほのほ}もえされハ明德^{めい}徳^{とく}性^{せい}あきらかにして現世安樂後生善所の得益あり

これ不嫉の得その三なり

扱^{あつか}又^{また}妬毒の虺心^{じやしん}はなハたしく或^{あるひ}はハはけしく夫をふせき或ねたましき女にすさまじくあたりておそろしき行ひあれはその夫たるもの其妬毒を見れば興^{きよう}さめおそろしくて毒虺乃ことくおほえぬれハつるに離別^{りべつ}乃もとひと成ぬ吝氣^{りんき}は離別をいとふ心よりおこりてかへつて離別^{りべつ}乃害にあへり

是妬毒の損その一なり

妬毒の虺心ふかければかならず家内和睦せず

志かのミならず妬毒乃悪行ハそのむくひ踵^{かかと}をめぐらさざれば或ハその身をなやまし毒虺となるも有或ハ其子孫を絶滅^{ぜつめつ}し家門のすいび多分^{たぶん}これより發る

これ妬毒乃損その二なり

妬毒の虺心はなはたしければその夫にあなとりうとまるゝのミにあらず

世間に「2ウ」是をそしり悪名先祖をけがす

その上三毒のほのほつねにもえぬれハ明德佛性をやきほろほして今生にては常にむねをこがし焦熱^{せうねつ}乃くるしひに志つミ當来にてハ地獄のせめ乃がれがたし

これ妬毒の報その三なり

此理りをわきまへすしてりんきなればをのれに損あり

りんきハ己に得ありとまよふゆへに妬毒の虺心いやましに成てあさましく己をなやまし人をなやます事あけてかそへかたし

若よく氣を志つめ心を正志うして不嫉に益おほく妬毒に損ある事をあきらかにわきまへなは三毒の虺心をのつからきて不嫉乃明德佛性あきらかなるへし

「3オ」

○宋の鮑蘇か妻姑にきハめて孝行を盡せり

鮑蘇衛乃國にミやつかへぬれとも家人をばひきこさざりけり

かくして三年すぎぬれハひとりずミさひしくや思ひけん

衛乃國にて又妻をめとりぬ

古郷へは深くかくしぬれ共終にそのかくれなし

鮑蘇か妻これを聞てすこしも怒るけしきなく鮑蘇か方へをくりぬる衣服^{いふく}と常よりハ却てよく調へあまつさへ衛の國にてまうけたる妻乃かたへ音物あつく送りてねためる心ハ露もなかりけり

その兄婦もどかしく思ひて鮑蘇か妻に異見して云けるは鮑蘇すてに別乃妻をまうけぬるうへハ御身ハありて甲斐なき事なりいそき此家をさり「3ウ」給ふへし

何乃のこりおほき事ありて今までハおはすぞやといへば鮑蘇か妻こたへけるは婦人は一度縁をむすびてハ夫むな

しくなるとても二度人にま見えすして舅姑に孝行を尽し心の専一なるを貞とし道をもつて志たかふを順とす
夫婦乃ちなミは貞順をもつて本としていもせのちきり深きを本とするにあらず
貞順乃本なくしてたゞいもせのちきりを専とする八人の道にあらず
それ天子の后は十二人諸侯ハ九人卿大夫ハ三人士ハ二人これ礼法乃常なり
わか夫ハ士なれハ妻ふたりあるも理りなきにしもあらず

その上婦人には七品去るゝ罪ありといへとも夫をすつることハリ「4才」は一もなし

七去乃罪一にハ舅 姑に不孝なるを去
二には子なきを去

三にハ淫乱なるを去

四にはりんきふかきを去

五にハあしきやまひあるを去

六にハ多言にして中ことを云いつハりを云をさる

七にハめがくしゝて夫乃物をぬすミかだましきを去

七去乃中ねたミは第四に有なれは我もしねたむ心あらは教誨をしたまはん人乃今かく不義をすゝめたまふは何事そ
やとていさゝか聞も入す 姑に孝行いよゝゝあさからさりけり

宋國乃君この事をきこしめし殊に御感あつてかやうの人は女の手本たるへければとて其家へ勅使をくたされほうび
を給るのミならず女宗といへるいみしき号「4才」をくたされてその家をあらハし國中のすゝめとなし給ふ

鮑蘇か家これによつてめでたくさかへけり

婦人の身として國王乃勅使をうけほまれいみしき号を給る事まことに希代不思議なる福ひなり

これひとへに孝行不嫉乃徳あきらかなる故なり

誰人もかくいみしき譽多くわハねかハしきことなれ共孝行不嫉乃徳明かなればもとめすしてをのつからうる

理りをわきまへす間に粗志れる方ありといへとも力を用ゆる事もつハらならすいたづらに外にもとめむねをこ
かして生樂をうしなひぬ

まことに實の山に入て手をむなしうして「4ウ」かへるかとし

或曰七去乃うち子なきと悪 疾あるとハ忠厚乃みちにたかへるに似たり

曰先儒この發明あり

子なきは不孝乃第一なればその妻一人を守りてハ不孝の罪乃がれかたきゆへなり

志かれともかならず家に置へからすとにハあらず

他乃婦人をもとめて子孫相続乃はかりことをなすへしとの事なり

其妻かへすへき方なきか

又は去へからざる理りあらハかならず去へきにあらず

聖人乃法にハ夫婦して先祖の鬼神を祭るおきてなり

然るに癩瘡こときの悪疾ありてハ祭祀乃役をつとむることならざる故「5才」にあらため娶るへしとの事なり

是もかへすかたなきか又去かたき勢ひあらばその家にやしなふへしかならずすてよとにはあらず

○縉雲か妻の朱子ハすくれてたけくねたミふかき女也

縉雲か家へとつきし時かほよき女一人供してゆきしが志んうんも手をかけんかとうたかひつねにらミつけてとが
なきにむちうちなやましけり

年へてのちかの女はらめるけしき見えければあハれさにこそかくは思ひつれと事もおびたゞしくはらをたてミつか
らつえをもつてなきけなくもたゞきけるほとにつえのあたらぬ所もなくはだへきれたゞれて血乃ながるゝ事おひ

「5ウ」たゞし

たへかたしときけべともやまず終にたゞきころしけるが是にもはらをすへかねてミつから女をつだゞにきりさき
瀬乃中にしてゞけり

そのうち一年あまりして朱子懐妊しけるか何となくなやミて次第におもく成ぬ

常にかの女の**灵**きたりておもかけにたちしか手をもつて朱子か胸をつくとおほゆけれハきりにてもむよりもはなはたしくたへがたくておめきさげぶこゑとなり四五間へひゞきわたりなかく目もあてられさりけり

朱子か兄弟かなしくおもひて**灵**有見こかんなぎをむかへていろくにはらひせさせれともすこしもその験なし

のちには**灵**の来ることに「6才」すさまじき大鳥二三十とびきたりて朱子をつかみあげたきふせさいなミけりあたりになかつかつものまでもきすをかうふりければ人ミなおそれよりつかす

その羽かぜにて朱子かねまないところへあきともなく糞をまきぬれば門外までにほひけり

かくさいなミなやます事程ありて終にせめころしてけり

朱氏か妬毒たけき鳥けたもの乃わさにひとしきによつてすさまじき鳥きたりてそのむくひをあらはし尸を糞乃中へすてぬれば彼**灵**又ふんをまきてむくひぬ

まことに響乃聲に應ずるむくひいちじるしくおそろし

されハ朱氏もかくむくひ有へき事「6ウ」をかねてわきまへなは嫉妬乃虺心もうすく妬毒の行ひ有まじきに貪欲愚痴にしてこの理りを信ぜず人をなやましをのれを害することいとあさまし

彼**灵**乃せめきたるときハ後悔かぎり有ましけれともつゝに其甲斐なし

朱氏か妬毒ハ世にめつらしき事なるによつて又世にめつらしきむくひにあへり

善悪乃むくひかけの形にしたがふことくなれハよのつねのむくひ有

よく心をつけておそれつゝしむへし

○文王乃后大姒ハ仁徳さかんにましますゆへに不嫉の徳明かにして衆妾ミなめくミをかうふり宮中に怨女な「7才」かりしかは衆妾膠木蠡斯乃詩を賦してその徳をたのしめり

かくめてたく不嫉乃徳明らかなりければそのむくひにて玉の様なる男子十人までもふけ給ひ其中に武王周公二人は

聖人にておハしましけれハ終に天下をたもち文王大姒もろともに天子の祭りをうけたまひ子孫々々めでたくさかへたまひけり

子孫乃はんじやうをは人どにねがふところなれとも不嫉の徳によつて此福ひをうる事をわきまへす

されは周室乃はんじやうハ文王乃聖徳によつて興起すといへとも大姒の内助その益すくなからす

よくかみみて不嫉の徳を明かにして子孫の繁昌を招へし「7ウ」

○岳州乃趙指揮はひとり身にて年ふくるまで子なかりければ妾をもとめて子孫さうぞく乃はかりとをいとなミけり

その妻乃徐氏もとよりたけくしてねたみ深き女なりければ色々手に手だてをめぐらして夫乃手かけにあハさる様にはからひあまつさへその妻をなやましけり

手かけ懐妊するたびとにひそかに寒薬を乃ませければ皆おりてそだゞさりけり

そののち徐氏か腹中に子のことくなるかたまりいてきてたへかたくなやみものくるはしく成ていろくのたハとをつくしぬるうちに有ときは手かけ乃まねをして命をこひ有ときハおさなきものまねをして棺をくれよなど云て

なやむこ「8才」と日ひさしかりけり

方々の醫者かんなぎをまねきてかたのことく療治はらいなどしけれとも露もしるしなく終にむなしく成ぬ

趙氏も又程なく身まかりてその家跡かたなくたえはてゞけり

七去乃中子なきを去とあれは徐氏すでに其罪なきにあらず

しかる上に妬毒の虺心思ふさまにふるまひ胎内の子をころしぬるによつてその腹中に子のとくなるかたまり出来てそのむくひをあらはしなやミころしぬ

まことに人をなやましをのれを損するのミにならず夫の家をほろぼしぬる罪はなハだふかければ今生乃むくひのミならず陽氏の鬼責もさこそとあはれにあさまし

されは徐氏をのれこそ子をまうけすとも手かけになさけありてその子をとりをのれか子としてそたてなは趙氏か

子孫相續してをのれもそのまつりをうくへし
然るに嫉妬の虺心にまよひてあさましきむくひにあへり

趙氏も又ほとなくむなしく成ぬるハかく冷しき妻にまかれて子孫をたつ不孝の罪おもきゆへなるへし

○晋國乃君文公まへかと継母の讒言によつて方々流浪し給ひしとき狄國にひさしく逗留おはしましけり
狄人叔 隗季隗といふ女を二人文公へみやづかへにまいらせけるか季隗をハ文公めしつかひ給ひ叔隗をは供にはん

へりける趙衰にめあはせらる

趙衰叔 隗をめとりひとり乃男子をまうけ趙盾と名つけて養育す

そののち文公本國へかへり位につき給ふとき趙衰も同じく供奉してかへりけるかかた田舎にてまうけたりし妻子女は國本へ供してかへる事恥かしくや思ひけん妻の叔 隗子乃趙盾もろともに狄國にのこしをきぬ

文公國にかへり位につき給ひて後そのむすめの趙姫を趙衰にめあはせらる

趙姫てうすいにとつきて男子三人をまうく

兄をは原同と名づけ次をハ屏括と名つけ弟ハ樓嬰と名づけぬ

そのゝち趙姫狄國に趙衰か「9ウ」ふるき妻子乃ある事をきゝて趙衰に申されけるハ狄國に妻子のおはする事をこのごろ聞いだし候ぬ

何しに今までハむかへ給ハぬにや

われ不肖に候へどもいさゝかもねたミきらふ心なし

いそぎ御むかへ候へし

叔 隗ハはしめの妻なれば本妻にすへわらハは叔隗につかへんと道のあらゆるところなれハ我ねがふところなりといとまめやかにきこえけれとも趙衰じたいしてうけこハす

趙姫また申しされけるハ旧きをしてゝ新しきをこのみ義理をかへりみすして欲にしたかひ貧賤患難乃うちにてのちなミを富貴になりてわするゝハミな人の人たる道にあらす

人乃人たる道をそむきてわれをしたしミ給ハん「10才」とならは我不肖なりといへともみやつかへかなふまし
いそぎ御いとまたまハれとつよくいさめられければ趙衰その議に同じ叔 隗趙盾もろともに晋國へむかへとりぬ
趙姫よろこんで叔隗をハ内子にたてわか身ハこれにくだり趙盾を嫡子にたてゝ原同屏括樓嬰三人の子共をくだして趙盾を兄としつかへしめぬ

さて趙衰百年の後趙盾をあつて目にたて正卿たらしむ

そのゝち趙盾趙姫乃徳を感じていかにもしてその恩をむくひたく思ひければ晋乃君へ申上けるハ臣すてに狄人たるへかりしを趙姫乃賢徳明らかに恩愛ふかきによつて趙衰がちやくしと成君に事へ奉りて正卿の位を「10ウ」けかしぬ

もしさもなく候ハゝ三子の中その器にあたれる方わか位をふまん事うたかひなし

其上すてに公族たるうへハ太夫の位にあげ給へとて我身ハ旄車の族と成

趙氏乃胡族をば皆屏括につけて趙氏乃嫡子にたてんとたつて申上ければ晋公御感あつてそ乃議をゆるし給ひその才徳すぐれたればとて屏括を公族乃太夫になし給ふ

これによつて原同樓嬰もろともに太夫の位にのほりめてたくさかへけり

趙姫の叔 隗をむかへたるハ夫の寵愛おとろへなん道を求めるに似たり

しかれとも不嫉の徳明らかにして義理正しき行ひなるによつて却て夫の寵愛いやましに成ぬ

趙盾を嫡子にたてぬるハ我子のすいびを求るに似たり

志かれとも慈仁乃徳明らかにわたくしなき行ひなれば却てその子公族の太夫となり終に嫡子乃ゆつりをうけたり

されはねたミふかきハ本来夫の寵愛「11才」をのそむゆへなり

継子をにくむハ本来わか子のはんじやうをもとむるゆへなり

志かれども終にねたミによつて寵愛をうしなひ不仁によつて我子を損する事古來そのためしすくなからす
趙姫乃故事をよくわきまへ夫の寵愛をのそミ子孫の繁昌をねかわん人ハその心をおほやけにして道に入へし

○嵩陽乃杜昌か妻の柳氏ハねたミふかき女なりけり
杜氏「11ウ」か家に金荊と云つかひ女ありしかある時杜昌カミをあらひ人なきところにて金荊にかミをすかせける
を柳氏見つけてすさまじくいかりけるかあまりに腹をすへかねて金荊が両手の指を一つつゝきりてけり
ほどなくある夕暮にきつね来りて柳氏か両の手の指を一つつゝきりてそのむくひをあらハしぬ

そのゝち又玉蓮とてこゑよくしてうたうたふ女あり

杜昌これをよるこんで時／＼うたはせてき／＼けれハ柳氏ねたく思ひあるとき玉蓮をとらへてかれか舌をぬきいた
してなんぢかこの舌あれバこそ杜昌もよろこぶめとてなきけなくもふつときる

その後柳氏か舌にかさいてゝいたミたゝれけり
色々に療治し「12才」けれとも終に／＼しなくすてにきれておつへくなりぬ

ミつから婢乃舌をきるむくひなる事を覚えてさる有験乃禪師の許にゆきてさんげしいのりしてたまハれとふかく
たのミければバ禪師いはれけるは夫人嫉妬乃心ふかくして前かと婢の指をきり給ひぬれハすてにきつね来てその
むくひをあらハしけれともそれにもこりすなを嫉妬の蛇心はなく／＼しくまた婢の舌をきりたまひぬ

此わつらひハそのむくひなれハ舌きれておつへし

しかれとも神明ハ慈悲ふかくましませハあやまちを悔善にうつり向後嫉妬の蛇心の根をたちすてゝひたすらに不
嫉の慈心を明かにし給はゝ萬一きたうの「12ウ」しるしあるへしといはれけれハ柳氏かなしく思ひ五躰を地に擲
つて頂礼再拜して至心にあやまちを悔善心を発してひとへに神明のたすけをいのりけり

かくして七日みちて又禪師来り柳氏か口をひらかせて呪しければ一尺あまりある蛇二すぢ喉の中よりはひ出て半
は内にとどまりぬ

禪師こゑをはけまして急に呪しければくたんの蛇地におち行かたなくうせて舌もやうやく平愈しぬ

これより深く／＼りて篤く神明を信じねためる心毛頭なく慈悲深くそ成にける

萬物ミな一心乃変化なれば一念の住するところハミなその形を生ず

かるがゆへに妬毒の心ハすなハぢ蛇「13才」心なり

すでに蛇心あれはかならず蛇道に入りなり

されハ柳氏か妬毒すてに蛇道に入て蛇と変じ腹中にわだかまりぬ

いま天ばつにおとろきをしへにあひてあくしんをひるかへし善にうつる誠あるゆへにその祈によつて臟腑にか
くれゐたる毒蛇あらハれ出ておちうせけり

柳氏一人にかぎらず妬毒の蛇心ある人にはかならず臟腑に毒蛇わだかまりぬれとも凡夫のあさましきハあらハれ

されはしる事あたはずしてあやまちを悔善にうつる事あたハす常に蛇道のくるシミをまぬかれずながく無比のた
のしひをうしなひ又當来にハかならず毒蛇のせめをうけ永「13ウ」劫にもうかふ事あたハす悔る共甲斐あるまし

されは柳氏かむくひにあへるは不幸に似たる幸なるへし

それ神明はきハめて慈悲ふかくまし／＼てあやまちをくひ善にうつる事をよるこひ給ふ故に柳氏か妬毒よのつね
ならずといへとも非を悔神にいのりて善にうつりぬる誠あるゆへにその禍ひをまぬかれぬ

もしその心善にうつる誠なくハ禪師のいのりそのしるし有へからす

この故事をか／＼見てよく過を改め善にうつり禍を転して福ひとなすへし

○唐乃胡亮遼國を征しけるかねかけをひとりもどめ「14才」得てかへりけり

その妻の賀氏ふかくこれをねたミ胡亮の留守乃隙をうか／＼ひて一間とこへたはかりよせか乃女をとらへ釘を焼て
その両眼をつきつぶしければかの女くちおしくや思ひけんミつから縊れてうせにけり

そのゝち賀氏懷妊し十月みちてうミおろしけるかまことの子にハあらて蛇一すち産いだせり

あまりにふしきなりければおそろしなからこれをとりあけ見れば両眼つぶれけり

つく／＼とかのむくひなる事を思ひいてゝある有験乃禪師のもとにゆきてひそかにさんげしてとひけれハ禪師答
て云夫人乃心妬毒ふかくして人の眼をやきつぶしたる故に「14ウ」このむくひにあへり

此蛇はかの眼をやきつぶされたる女也

よくやしなひなは難を乃かるべしもしころしなはわざはひ夫人に及へしと云

賀氏おそれてよくやしなひけるか一二年すぎて次第に大きに成ぬれ共眼見えさるゆへにたゞ衣服の中に乃ミわたかまりけり

胡亮には深くかくしければかつてしらす

ある時胡亮ふすまをひらきてかの蛇を見つけいだして大に駭き伐ころしぬれは賀氏の両眼たちまちにつふれけり悔る事かぎりなかりしかどもそのかひさらになかりけり

賀氏か妬毒きハめてはなはたしければそくじにその両眼つふれなん理りなれともその福分乃厚き「15才」ゆへか又ハ先祖乃餘慶にやうるほひけん神明大慈大悲乃御めくミにてめしゐたる蛇をうませそのむくひをあらハしたまひ過を改め善にうつりて禍をまぬかれよとのをしへなり

しかれとも賀氏その覚悟なくたゞに蛇をやしなふのミにて夫にさへさんげのまとなきによつて終にその報ひ乃がれかたくその両眼をうしなへり

されハ賀氏神明大慈のいましめをよく心得てその過を夫にもさんげし妬毒の蛇心をひるかへし不嫉乃慈心を明かにして陰騭の行ひまゝあらはその両眼つふれさるのミならず彼蛇もいつとなくきえうせぬへし

しかるを禪師の教「15ウ」も淺くたゞ蛇をやしなへとのミなるをこれのミ大事と心得てさんげのまとなく善にうつらさる事あさましくつたなし

これをかゝみて過ちあらん人は第一其心を善にうつして禍ひをまぬかれ福ひをえんとつとむへき事なり

○休寧のさる商人乃妻きハめてねたミふかき女なりけるか有時夫の手をかけじ女をとらへてひとまなる所にとちこめ食とめをしてほしころさんと巧ミける

かくして五三日をふれとも死せさりければつからかの女のくひをしめころし棺へ入奴四人にかゝせて野へ出しけるか女乃しめけるゆへにやかの女棺乃中にてよミかへり棺「16才」をかきぬる男ともに棺の中より聲をあけて云けるハ我きる物の中に金ありなんちら我をたすけはこの金をあたへんと云

男ともこれをきひてさらはとて棺をひらきて出しけれハ金をとり出してあたへけり
四人のものともこの金をとつてたすけたくハ思ひしかとも主乃妻のかへりきかん事をおそれてなさけなくも又とつて棺乃中へをし入て生なからふかく埋ミてけり

そのゝちかの商人の妻喉氣をわづらひけるか次第に喉ふさかりて湯水もとをらすなやミけるありさま目もあてられぬふぜいなり

療治乃ためにとて金准丁洋と云醫者二人をまねきて晝夜かの家にとめをき種々療「16ウ」治のてたてをはげミける

有時日中に二人の醫者はかり座敷にありける所へ顔あをさめてしほくとしたる女一人忽然と来りて座しきにうちなをり二人の醫者にむかひて申けるハいかに両殿われをなおそれ給ふなよ

我はもとこの家のつかひ女なりしかあるじの妬毒にあてられむなく成て又よミかへりしを四人の奴に埋ミころされたる怨霊なり

四人の奴の内そのひとりハ川にしつめてころしぬ
三人はそのすきまをうかゝひて皆とりころしぬ

今ハわがくひをしめし女をころすへき時いたりてその喉をふさくなれば各乃醫術せんなき事にこそたゞいそぎ御帰りに有べしと云

兩人答けるハそれ「17才」はともかくも汝乃言に従ふへし

さて冥途のどハいかにとたつねければ地獄輪廻乃さたすこしもいつハリなしと云
又二人問て曰われら年たけて子なき事ハ何のゆへにてさる人をやミうちにし給ひたるたゞりによつて子孫たゆ

るなり
丁洋ハ時節いまだいたらすゆくゞ子孫はんしやうなるへしと語る

そのうち金准ハつゝに子なく丁洋ハ子五人出来て子孫はんじやうしけり
灵鬼の言露もたがハすふしきなりし事ともなり

喉をほしくひをしめてころしぬれは又喉をもてむくひぬ

まゝに谷に声をあぐるかどくなる感應おそろしき事なり

されハ妬毒の行ひハ本来わか身のためを思ひすこすまよひよりおこれり

しかれとも却てその身のそこなひとなれば我身をおもハさるに似たり

妬毒乃虵心發るときはこへいまのためしを思ひいたしわか身をそこなふ毒心なりと思ひこりて不嫉乃本心をあき

らかにすへし

○衛乃灵王の后つゝに御子なかりけるかわきはらに公子うまれ給ひぬれハことの外によるこひ給ひねたむ御心す

こしもおハしまさすいそき世子にたてゝ我子のとくいつくし給ひけり

世子も又后に孝行を盡し給ふ事本の母御よりもまさりてそ見えし

灵王世をは「18才」やう去たまひて世子位につき給ひしかともその孝行なをおとろへ給はず

その母御もまたいさゝかおごる色もなく前かとも一入謙りて后へ宮つかへいよゝつゝし給ひけり

かくして八年すくれともそのみやつかへおとろへす心入うたゝいやましになりゆきけり

有時后世子の母にかたりての給ハく世子すてに位につきぬれは孺子ハまさしく主君乃母なり

われにかくみやつかへあるへきとハリなし

しかるにむかしにかハラぬみやつかへはそのおそれあり

我きく主君の母ハ人にみやつかへずとなん

その上われは子なけれハ礼におみて退けらるゝ人なり

しかるをとゝまつて我節を守る事を得るハこれ我さいハひ也「18ウ」

しかるに孺子をかくわつらハす事われはなはたはつかしくこそ侍れ

我ねかハくは外へ出時をもて相まみえて孺子をわつらハす事なかりせは心やすくあらめとかきくとき給ひければ世
子の母涙をはらくとこほして申されけるハうたて乃御事をの給ふものかな

灵氏をして三乃不祥をうけしめ給ハんと御事にや

灵王不幸にして世をはやうさり給ひぬるハ一乃不祥なり

后に子なくして婢妾に子あるハ二の不祥なり

今又后出て外に居給ひ婢子ハ内にはんへらは是三の不祥なり

二乃ふしやうは人力の及はさるところなればせんかたなし

今後の外に出給はんハ君乃御心に有事なれば灵氏に不祥の「19才」かずをそへ給ハんハかへすゝももつたいなく

なけかしこそ候へ

その上妾が主君乃母たる事は后乃不嫉の徳明かにして御めくミ深くわたらせ給ふゆへなれば君こそ主君の御母にて

わたらせ給へ

われ主君の母たるへしとハ露も思ひはんへらす

我みやつかへハ妾か職分なり君なんそ御心にかけ給ハんやとて又さめゝとそなけれける

后かさねてのたまひけるハ子なきわか身にて主君の母をはつかしむる事孺子ハなにと思ふとも世間のそしりもさる

事なればかならず外にいつへしとてその御用意しきりなりけれハ世子の母しりそひて世子に申されけるハ後の外に

いて給ハんとあるハ我世になからふるゆへなり

われ聞「19ウ」君子ハ順徳をもて命を立となん

今われ上下の分をミたりて世に生らんよりハ順を守つて死せんにはしかしとてすてに自殺せんと有けるを世子い

たきとゝめてなきかなしひやうゝにいさめ給ひける

后これをきゝ給ひてその忠順乃誠をよろこび感じて外に出る事をやめ給ひ世子乃母も其本意をよけてめてたくも

ろ共に衛公乃孝養をうけ衛宗乃二順とて天下にほまれをあらはし末代乃手本となれり

後の不嫉一つによつて灵氏乃子孫はんじやうしてその國治り其民めぐみにうるほへり
この功德に依てその身子なくして孝子のやしなひをうけ且傳妾「20才」乃忠順をまねきて天下にほまれをあら
ハせり

もし此后妬毒の蛇心あらは灵氏乃子孫たえはて、其身も流浪の寡となり悪名天下の人口をけがすへし
これらの故事をかゝみて不嫉妬毒の損益を能心得慈悲清 淨乃明德をあきらかにすへし

つらく／＼りんきの根をたつぬるに夫乃己をきらひあなとる事をいかるとゆく／＼我をすてんとをなけくとの一念
よりおこれり

本来夫乃淫乱ハ妻をきらひあなとるにあらす又その妻をすてんとのとくみにあらす
美色におほるゝか或ハめつらしきをこのむ情欲の邪火うちにもゆるによつて心くらく氣「20ウ」みたれて一たん
乃あふれ事なり

この理をよくわきまへなは妬毒の念おこらすして不嫉乃本心常に明かなるへし
万一その夫ねぢけ人にてその妻をきらひあなとる或ハすてんとたくむ心にて淫乱にあらハ悋氣のふせぎにてはいよ
／＼とミスつる心いやましになりていんらんかならずやむへからす

もし不嫉の本心明かにして夫乃かくあるハをのれにあしきところの有故なりと心得ていよく／＼よくしたがひよく
つかへてまめやかならなはねぢけたる夫もかならず思ひかへす事も有なん

たとひその妻をきらひすつる心なき夫なりともすさまじくふせきなは妬毒の蛇心を見つけ「21才」てうらみきらふ
心いてき却て離別乃もとひと成ぬへし

これら乃理りをよく心得妬毒乃心あれは夫の淫乱いやましになりてやむ事なく不嫉乃本心明かなれハ夫乃淫乱かな
らずやむものなりと心得夫のいんらんをきらはん人ハよくりんきの蛇心を捨て不嫉乃本心を明かにすへし

むかし或殿上人田舎くたりのつゝめてに遊女を相具してのぼられけるか使をさきたてゝ人をくして上り侍る也

むつかしくこそおほしめさんすらめ御心なりいてさせ給へと女房のもとへなさけなく申されけり

女房すこしも恨ミたる氣色もなく殿乃人をぐして上らせ給ふなるに御まう「21ウ」けせよとてこま／＼と下知して
見くるしきものハかりとりしたゝめてわか身はかり出給ひぬ

遊女この事を見聞て大きにおそれ殿に申けるは御前乃御ふるまひ有かたき御心ばへにておはしますすよし承候
且事乃様を見まいらせ候にいかてかゝる御すまひ乃ところには候へき

身のミやうがもよも候ハし
たゝ御前をよびまいらせて本乃とくにて此身ハ別の所に候て時／＼めされんハしかるへく侍りなん

さらでハ一日もいかてかかくて侍るへきとおびたゝしく誓けれハ殿もことハりにおれ且ハ北方乃なさけもわりな
く覚えてやかて使をつかハし北方をよびたてまつる

かつて返「22才」事もなかりけれ共たひ／＼とかく申されければ帰り給ひぬ
遊女も心有ものにてたかひにあそひたハふれてへたてなき事にてそ有ける

又或人本乃妻をも家におきなから又妻をむかへてあひすみけり
今の妻と一所に居てかき一重へたてゝ本の妻のありけるに秋の鹿乃なく聲きこえけるを夫きゝ給ふかと本の妻に
云けれハ返事に

我も鹿なきでそ人に恋られし今こそよそに声はかりきけ

と云けれハわりなく覚えて後乃妻をくりて又かへりあひにけり

されハこれらの故事を考るにすでに離別に究りたるも不嫉の心行「22ウ」まめやかなる功德によつてつゝぬに
借老洞穴乃えんとなれり

もしすこしにても妬毒乃心行あらはなかく離別乃憂にしつミなん事必定なり

不嫉の徳は夫婦の縁をかたくむすぶ乃ミならず蛇道乃苦ひをまるかるゝ功德無量なればつとめて明かにすへき事

なり

此理りハ分明にして知かたき事にあらされとも習ひにひかれ情欲におほはれて覚えす毒虵乃苦ひにしづむ事あさましくなげかしもし夫不義無道の淫乱あるときハかならずふせきとむへし妻乃異見はかりにてかなひかたくハ或ハしうと或ハ一門或ハしたしき友などへひそかに「23才」談合してふせきとむへし

これハもと守節乃事にしてりんきにハあらずりんきと云ハ不義無道にあらすして他人に心あるをふせききらふ事なり

又わか身に子なきゆへに子孫相續のために手かけなとをもつをはけしくふせくハ一しほりんきの蛇心なりいかんとなれば聖人七去乃法の中に子なきハさるとあれば子なくしてをのれその家にあるハ夫の慈悲有かたき事なればわれよりすゝめても手かけをとゝのへなきけをかけて子孫をもとむへき事義理の當然なり

その上かれに男子うまるれハその家すゑなくはんしやうしてわか身も教養をうけてたき「23ウ」むくひをうくる事なればよく心得へきとにこそ萬物一原乃理りなるゆへに本来吾と人との差別なし

かるかゆへにねたみて人をにくミ害なふハ我身のためを思ふにたれとも畢竟ハをのれか身をにくミそこなふなり

ねたますして人をめくむハわか身のはかりとをろかなるにたれともひつきやうハ我身をたいせつにあいするなりそのうへ人乃手がけとなりやつことなる女も同じく人の生をうけてとなるところハなけれ共貧窮にせんかたなくてこそ人乃手にかゝりおきねたにも心にまかせす何事もミな主にはからハれ一門の會合をもはなれ又夫婦乃ちなミもなくいと「24才」あはれなる境界なり

我身わか子の彼かきやうがいにあらハいかはかりかハかなしかるへきと思ひはからハ心あらん人ハあハれむなさけ

ふかゝるへし

しかるを情あるまでこそなくともいかにさいなみやますに忍びてんやよく仁恕乃本心を興起して陰鷲をつミぬへきことその人乃大幸なるへし

鑑草卷之四

教子報

教子は子に道ををしへてその明德佛性を明らかにさせる事なり

子の明德明らかなれば生てハ忠養乃むくひをうけ死してハ生天乃福ひをうく

いかんとなれば子の明德あきらかなればかならず孝行誠あるゆへにたとひその子の福分うすくして貧賤なりといへともその孝養まめやかにして親乃こゝろ安樂なるものなり

子の明德くらければ孝心まことなきゆへにたとひその子乃福分あつくして富貴なりといへとも孝養まめやかならざれハ「1才」親乃こゝろよろこひ安するところなし

さてまた子の明德明らかなれハ當來生天乃福ひをうくる事一子出家すれば九族天に生すといへる理りなり

出家と云ハ髪をそり衣を墨にそむるを云にハあらず明德仏性を明らかにして世間の苦しびをまぬかれいつるを出家とも云出世間とも云也

其子乃明德くらくして徒に供佛施僧の孝養けうのミいとなむばかりにてハ生天乃福ひをうる事あたハす斯あれバ現世後生ともに孝養乃誠をうくる事ハ子の明德を明らかにするより外はなし

もとよりおや本来親の子にをしゆるはむくひをのそむところにあらずといへとも此「1ウ」理りをよくわきまへて教へをはげますところを知へし

貴も賤も智あるも愚なるも生とし生る人その子を愛せざるはなし

子を愛するときハかならずその子に實をあたへんことをねかはさるはなし

しかはあれと天下第一乃寶ある事をわきまへさる故に徒に世間のたからをあたへんとのミねかひて性命のたからをあたへんと願ふことろなし

それ天下の寶二あり

人々の心の中に明德と名つけたる無價の寶あり

これを性命乃たからと云天下第一の寶なり

いかんとなればこの寶をよくたもちぬれハその心常にたのしひ何事も皆心にまかせ世間の「2才」寶も福分にしかかひてあつまり子孫もこれによつて繁昌し當来かならず天に生ず

今生後生の安樂思ひ乃まゝなる功德ある如意寶珠なれハ天下第一の寶とす

金銀珠玉天子諸侯乃位を世間の寶と云天下第二乃たからなり

いかんとなれハ明德明らかなる人これをうればその福ひめてたく天下の人皆そのめくミにうるほへり

明德くらくして是をうればその身乃苦しひと成或は身をころし國をうしなふ災ひこれよりおこれり

桀紂は天子の富貴をうけられぬれ共明德くらきゆへに其身ころされ國を失ひて田夫野人乃福ひにもをとれり

これハ用る人のあ「2ウ」やまりにして此の寶乃とがにあらされとも本来寶の功德をとれるゆへなり

しかのミならず世間万用の重寶のみにして出世間の重寶とならず

彼と云是と云如意寶珠の明德には遙に劣れる寶なれハ天下第二乃寶とハ云也

其上如意寶珠の明德は人々具足乃物なれば上天子より下庶人にいたり上聖人より下凡夫にいたるまでもとむればう

る物なり

世間の寶は天命乃福分ありて人々に得る事あたはず

その福分なければ夜日にむねをこがし東奔西走してもとむるといへともその甲斐なし

しかるゆへに千金のゆつりを受て程なく貧窮にくるし一錢のゆつりをうけさる「3才」孤も家を興しとミさかへぬるためし眼前に明白なり

寶の勝劣を求むればかならず得ると

もとめても得る事あたハさるとの理りをよく考て天下第一の宝をゆづらん事子を愛するの至極なるへきにや

子にをしゆるに幼少と成人との差別あり

幼少の時にハ父母めのとなとの心行を教の根本とす

さて其子乃悪念をひきうこかし悪にならハさるやうに用心第一なり

童部わざたハふれとなどをばその子の心にまかせてあなからにいましめ制すへからず

いかんとなればこれらのわさハ年たけぬればをのつからなをるものなり

子にをしゆると云事をあさく「3ウ」心得たる人は心のをしへある事をわきまへすして幼少の時より成人乃ものゝ

ふるまひをさせんといましめぬるによつてその心すくミ氣屈しておなものになるものなり

かくのことくなるを見て幼少の時にハ教へ戒むる事悪しと心得寵愛におぼれ何事をもその子乃氣隨にまかせて

供樂にふけるやうにもてなしものいひ立ふるまひなどのいやしくそこつにしてその心放埒に習をも戒しめ制する

事なし

これ皆子をそたつるあやまりなり

これをかゝみて童わざたハふれなどをハその子のわさにまかせ心の悪に習をハ能教へいましむへし

そのをしへやうハ父母めのとなとの心「4才」得にて常々のざれことにも用心ある事なり

世間の人此理りをわきまへさるによつてその子乃我慢にして身がまへなるわさあれば利根なりとよろこひほめてい

よく習ひしむやうにもてなし或ハ兄弟なミ居ぬるときハかれハ我子はハ我子にあらすなとたハふれて其子の

争ひねたむ心をひきうこかし或ハいみじき食物衣服などに逢時はあたへんあたへまじきなどたハふれてその子乃

貪欲の根を引うこかす

或はその子人に對し心にさかふ事ありてなきさけぶ時はその子に道理を付てかれをうたん彼をしからんなどいひす

かしてその子乃うらミをむくひ人「4ウ」をうち人とたゝかふ狼戾の根を引うこかす

あるひハむさと誑かして人を欺く機変乃根を引うこがし或ハむさとおそろしきつくりをいひたはふれおとして
おびへおそるゝ臆病の根を引うこかす

かく乃とく覚へすしらすその子乃悪念を引うこかしゆくゝ明徳をくらます習ひをつくる事あけてかそへかたし
此理りをよく心得て食欲の習ひ我慢の習ひ狼戾乃習ひ争ひ勝負ひ人をあなとりやしむ習ひなどのしミつかさる
やうに用心第一にしかりそめのたハふれにも父母兄ミ老たる人にみやつかへ乃わさを教へつとめて謙徳をやしな
ふへし「5才」

成人しての教にハ明德明らかなる君子をもとめ師匠として儒道乃心学ををしへひたすらに明德を明らかにする
工夫を勵し才知藝能などハその生得の器用にしたかつてをしへ成へし

或人の曰三教皆明德を明かにする教なるに儒道の心学とのミ承ハれハかたむきなるやうにきこえ候ハ如何
日もとより三教ともに明德を明らかにするをしへなれとも仙佛乃二教はその法世間に便り悪くその上工夫取入かた
き所あり

儒教ハ世間の日用にたよりよくその工夫取入きハめてやすきゆへに世間通用のためなれハ儒道の心学とのミ論する
なりひがめる私言にハあらず「5才」

○王季の後大任ハその御こゝろ端一誠莊にして慈悲ふかくおはしましけるか懷妊の時にはいよく徳をつゝしミ
胎教をよく行ひ給ふゆへにその御子文王聖徳明かにましゝて道をひろめ天下万世を救ひ給ふゆへに周乃代八
百年南面のさいハひを造り出し給ひて王季大任もろともに王者の孝養をうけ給ひけり

胎教とハ胎内に有うち乃をしへなり
この時のおしへは母の心もちと身乃行ひにあり
いかなとなれハ氣あつまり形かたまる始めなる故に物にあやかりやすきゆへなり
胎教乃心もちハ慈悲正直を本としかりそめにも邪なる念を發すへからず
食物をもよく「6才」つゝしミ居ずまる身のはたらきをも正しくつゝしミ目にむさとしたる色を見す耳に邪

なる聲をきかず古へ乃賢人君子の行迹孝悌忠信の故事を記せる草子をよミ或ハ物語をきくへし
これ胎教乃大槪なり
生る子乃すかた形もよく智恵徳藝もすくれなん事をねがふハ母ごとの心なれとも胎教によつて子乃容儀もよく
智恵もすくるゝ理りをわきまへさるゆへに胎教にちからをもちぬす

されハ胎教は子にをしゆる根本なれハよく戒めはけますへきとにこそ
○孟子乃母御ハ徳たかくおハしまして母儀正しくよく「6才」子にをしへ給ひけり
孟子おさなき時外より歸りて東どなりに只今いのこをころかせるか何乃用にやと母御に問給ひけれハ母御なんぢ
にふるまはんためよとたハふれ給ひけるかとばの下に思ひたまひけるハ君子ハ胎教とて胎内乃子にさへをしへある
ときくに今わか子すてに知覚ひらけたる時にあさむきたふらかして機変乃根を引うこかす事こそあざましけれと悔
みてひそかにいのこを買とゝのへさきに汝がかたりしいのこのきたりけるハとて孟子にすゝめてあさむきたハふれ
にあらさる事を示し給ひけり

孟子年たけて師にしたかひ道を学び給ひぬる時里へ歸り給ひぬ
折しも「7才」孟母はたにあがりて絹ををり給ひけるがはたのうへより孟子に問給ひけるハ用なき里に歸りけるハ
学問乃かたもつきけるにやと

孟子のこたへまめやかならさりけれハ小刀にてはたをきりて汝か学問にゆだんあるハ此たてたるはたをきるにこ
とならずと甚しくいましめ給ひぬ

孟子おとろきおそれてひたすらに学問を勤て終に大賢となり諸侯の贈爵にあつかり萬世四配の祭りをうけその父
母もたくひなき孝養をうけ給ひ子々孫々博士乃榮花めてたくつたハリけり

孟母のいのこをかか給へる心誠に有かたたくたへなる教へなり
子をそたつる人たれもこの心を師として其子「7才」の我慢乃根あらそひそねむ根食欲の根狼戾の根人をあなど
りかろしむる根などを引うこかしならハさるやうに用心第一なり

孟子のこたへまめやかならさりけれハ小刀にてはたをきりて汝か学問にゆだんあるハ此たてたるはたをきるにこ
とならずと甚しくいましめ給ひぬ

孟子おとろきおそれてひたすらに学問を勤て終に大賢となり諸侯の贈爵にあつかり萬世四配の祭りをうけその父
母もたくひなき孝養をうけ給ひ子々孫々博士乃榮花めてたくつたハリけり

孟母のいのこをかか給へる心誠に有かたたくたへなる教へなり
子をそたつる人たれもこの心を師として其子「7才」の我慢乃根あらそひそねむ根食欲の根狼戾の根人をあなど
りかろしむる根などを引うこかしならハさるやうに用心第一なり

孟母のはたをきり給へるハ餘りに狂がるやうに思へるゝとなれ共徳を明らかにするとの天下第一等にして人間第一義なるを明らかにわきまへ孟子乃学問けだいなく明德を明らかにし給はんをねかひ給ふこゝろ常々ハハだふかき故におぼえず興に乗して此とあり
そのこゝろの甚深なる所よりあらはれたる戒めなる故に孟子乃觸発もまた甚深にして終に母のねがひにかなへり

これをかゝみてその子にをしへいまして「8才」ねかひもとむるところをしるへし

○程子の御母侯氏は孝順乃徳崇くそのほまれかくなかりけり

故に大中公もよのつね乃妻のやうにハおほしめさす礼儀いとおごそかにうやまひ給ひけれども侯氏はいよゝゝ謙りてすこしもとらせ給ハす

わつかの事をもかならず大中公の仰をうけて我まゝにおこなハせ給ふとまします

家をおさめ給ふに法ありてはげしからず婢妾になさけ有てたとひつミあるもむちうちさいなむ事をきらひたまへり御子たちのゆへなふしてやつこをいかりせめ給ふとあれば運命の厚薄によりて貴きいやしきかハリ有「8ウ」といへとも一気同体の人なれば理不盡にせめさいなむへき理なし心ならず乃あやまちはたれもあるへき事なればかならずなだめゆるすへしなと深く戒め給ひぬ

かくあるゆへに家内みな和睦してとことハに春風和氣の中にあるかとし

子孫にをしへ給ふ事究めて道ありて御子たちのすこしもあやまちおハすればかならず戒めとかめ給ふ

もし大ひなるあやまちあれば大中公へうかゞひてふかく戒めあらためされハやめ給はず
常々人に語り給ふハ子の不肖なるハかならず母たる人乃姑息の愛におぼれてその子の過ちを戒めせむることをしらすあまつさへ夫にもおほひかくして「9才」しらしめざるゆへなりとそ仰られける

かくある故に御子明道伊川幼少の時より衣服飲食におゐてひとつも多らひ給ふところおハしますすよろつ人にすくれてそ見え給ひし

父大中公大知あきらかにおはしければ周氏の大賢を見しりて二程をつかはして心学をうけしめ給ふ

二程父の命にしたかひ周氏を師として学ひ遂に大儒となり道学をいさなひ明らめ給ひしかは萬世の儒宗となり

名儒おほくその門に出て伯爵の封をうけ孔廟の従祀にあつかり父母も無窮乃孝養をうけ後世にいたるまで程母乃教を誦賛して天下の手本となり給ひぬ

二程乃うまれつきよのつねならずといへとも幼少の時にハ徳性をやしなふ母御の教へなく成人の時に至て父大中公道徳の師をえらひ心学乃指南ましますハその大徳乃成功かたかるへし

されハ姑息におほれさる教へ衣服飲食におゐてえらひなきをしへ道徳の師をえらひて明德を明らかにする教へいづれも有難をじへにして親との乃つとり守るへきところなり

就中心学乃教へ肝要なるへし

大中公乃道徳の師をえらひ給ふハ尋常の人よりミれば迂濶なるに似たれともその子名高く富貴をうけ給ふと利禄乃をしへに越たる「10才」こと千倍せり

よく弁ふへきとにこそ

母たるもの夫のみじかき所あしき事などをその子に語りきかせてよろこぶもの間に有これハ正しくその子に不孝をおしゆるなり

いかにとなれば子の不孝はかならず親乃不是なる所を見るよりおこれり

程母の謙順にしてわづかの事をもうかゝひ給ひぬるハ子に孝をおしゆるの本なり

誰も母たる人心得へき事也

○陶侃の家代々貧賤なりき

侃学につきしかは母うミつむぎ乃かせぎにてまかなひをたしぬ

その乃ち侃。縣吏となりて魚梁乃奉行にゆきけるが母の方へと鮓をくりてけり

母うけすして戒めけるハ汝奉「10ウ」行となりて公儀乃物をもてわれにをくりわかよろこひを求るはをろかにあ

さまし

汝かくけかれたるふるまひあるハ本より我なけきかなしふところなり

我をよるこぼしめんと思はゞたゞ忠義廉直をもつへらにすへしとはけしく云をくられたり

陶侃もとより尋常ならぬ人なれば母のいましめを聞いていよゞ忠義廉直をはけましてつゝに大功をたてゝ八州の都督となり富貴天下にふるひけり

貧を安し道を貴ふは丈夫もかたしとするところなり

しかるに陶母かくのときの心行まことにたぐひすくなきことなり

此一つのをしへにてその外方「11才」端乃をしへ道ある事を推はかるへし

これによつてその子豪傑となり代々乃貧賤を轉じて都督乃位にのぼりぬれハ母公も富貴の教養をうけられぬ徒に子孫のさかへんををもとめて道ををしへさるは木によつて魚をもとむるなるへし

○呉賀乃母つねゞその子に教ゆるに道ありけるが或時呉賀友だちと語りける次でに人乃かけ事を云しを母きゞつてとの外いかりて呉賀をむちうちてけり

母乃ともこれを見て時の興によりてたまゞ人乃噂をいはんハさのミくるしかるましき事也と云ければ母大ひになきていハく君子ハ人の悪をか「11ウ」くして人の善をあくるとなんきく

人の善をあくるまでこそなく其人乃悪をかたらん事その心はへいとあさまし

我たまゞ一子を持つといへとも小人乃心ばへありてハ子なきにおとりぬれハ角ハいましむるなりとてさめゞとなきぬ

是によつて食をすゞめさりければ呉賀はなた恐れよくつゞしみて終に名人と成位みたかくさかへてけり

子ありても小人なれば子なきにおとれりといへる覚悟丈夫にもまれなる心得いと有かたき事也

この心をもつて心とせはいつれ乃母もよくをしへさるハあるまし

斯をしへはけましなは子もまたあ「12才」やまちを改め善にうつらはさるハ有へからす

その子を愛せん人はよくかゞみるへきとなり

○虞潭乃母孫子はわかふして寡なりしかともかたくちかつて節をあらためす

虞潭幼少乃時より忠義をもてをしへはげまして姑息の愛すくなし

虞潭よく母のをしへをつゞしミ守りぬればその名高く世のおぼえももかりけり

虞潭南康の太守と成て杜弼がむほんを退治しける時母ぐたんをはげますに必死の義をもてす

さて軍兵共にはそれゞに礼義を厚くをくりてけり

潭たゞかひ勝て軍功をたてぬ

そのゞち又蘇峻がむほんせし時虞潭いくさ大将の「12ウ」命蒙りけれハ母いましめて云けるハ忠臣ハ孝子乃門より出るとなん

汝かならずいのちをすて軍功をたてて君にむくふへし

我老てのこれる事を毛頭も心にかくへからすと戒めはけます

時に内史王舒その子の允をいくさよこめとしていたゞせければ孫子また潭に云けるは王府君乃息さへいくさに

したかひ召るれハ汝か子を家にをくへき義なしとはけましければ潭すなハちその子をも允にしたかへて軍にくし

てけり

なんなく蘇峻を退治して大功をたてぬれば虞潭ハ武昌侯に封せられ孫氏ハ金章紫綬をうけ寿命なく目出度さか

へられけり「13才」

孫氏ハ婦人なりといへ共よく大義を明め死を守て道をよくする教君子にもはづるところなければ子孫はんしや

うして栄花乃報ひをうけられける事宜なるかな

尋常の女の習ひにて軍場へゆけハ死まじきものも死すると思へる惑ふかし

その上命を第一の重寶と惑て大義乃重き事をしらす

それ人乃死期ハ生をうくる初にさだまりて天地神明もみだりに変し給ふ事あたはず

まして人力をや

そのうへ壽命乃根は明德にある故に大義をおもんじ明德を明かにすれば軍陣にありても非業乃犬死なし
大義にそむき明德をくらす時ハ「13ウ」家にありても非業乃犬死あり

此理をよくわきまへ母とに孫氏乃心をその心とすへし

○堯咨乃母陳氏常に大義をのミ子にをしへて利禄立身をは齒にもかけさりけり

堯咨河南乃太守となり入部して帰られけるに母何にても民をすくふしをきありやと問れけるに堯咨いなとこたへら
れければ陳氏いかれる氣色にてつゝいてことはもなく過ぬ

ある時堯咨と客と的をみけるに堯咨もとよりすぐれたる弓の上手なれば誰人も及ふものなし

陳氏はを聞て堯咨をよひていましめられけるハ汝か父つねに汝に忠孝乃道をのミをしへられき

しかるをその教を「14才」守らすちいさき藝能に精をつくし人にまさらんとのミ志をはげミぬる事むげにあさ
まし

その藝にはけます精力を忠孝の道に用ひなは君子ともなり民をすくふ政をなし教化もよのつねなるましきに父
乃をしへにそむきて小藝におほれぬると不孝と云不忠と云言語道断なりとてしやうぞくのかざり乃おつるほとまて
たゝかれけり

かく道あるをしへはけしければ堯咨よくつゝしミて徳業人にすくれ節度使と云大官にのほり母ハ秦國夫人と封号
をうけられぬ

目出度ためしにこそ

才藝を緒餘として道徳を第一義とたつとふハ「14ウ」まことに君子乃をしへなり

よのつねの人ハ男にてもこの見識あるはすくなし

たまゝその子乃藝に長することあれは世になきことゝよろこびたかふりて却てその子乃満心をたきつくるのミ
なり

いはむや婦人をや

親たる人人とに陳氏の心を心とせハ家とに孝子國ミな忠臣にして目出度世界なるへし

されは人々陳氏乃心は本来生つきて持ながら迷て實をうしなふ事なげかしきかな

鑑草卷之五

慈殘報

慈はいつくしミとよむ

我子と一味に継子を愛しそだつる事なり

殘ハそこなふとよむ

まゝ子をにくミつれなくあてがふとなり

慈愛ハ天道人道乃根本なれハ求めすして福ひをうる

殘ハ虎狼毒蛇乃とくなる凶悪なればをのづから禍ひにかゝる報有

されハ慈善乃福ひ五つあり

継子をわか子と一味に養育すれば夫の思ひいれ世間乃おほえいとめてたし

是そのむくひ一なり

わか子と一味に慈愛すればまゝ子も岩木ならねバその慈愛を感じひたすら「1才」に慈母乃思ひをなし一しほ孝行
を盡さんと思ハさるはなし

しかれハ眼前産育の苦勞なくして子をもうくる福ひその報ひ二なり

母たるものハたれも子を思ふまゝとあれハ継子の母冥々乃うちにしていかはかりうれしくおもひ後母の子共の守り

神共なりぬへし

そのうへ慈善は天道のくミし給ふところなれハわかうむところの子に報ひて福ひめてたきものなり

これ其むくひ三なり

継子につれなくあたる時ハまゝ子も又うらむるふるまひあり

その上にくしと思ふ者の云事するとは皆目にさハリ耳にさかふものなれば日々夜々にむねをこがさぐる時なし

しかるに慈「1ウ」善の徳あれバまゝ子も実子にとならず目にふれ耳にきく事心にさかひむね乃こかるゝとなく日々夜々心やすくゆるやかなり

これそのむくひ四つなり

浄土乃三部經に九品乃往生をあかせるに誠心慈心上品上生乃第一義とすれば慈善の誠ある人は極樂に往生する事必定なり

はそのむくひ五つなり

残悪の報ひも又四あり

まゝ子につれなければ夫もすさましく思ひ家内の人ミな目をそばめ世間のあざけりあさましき物也

是其報ひ一也

福善禍淫の報應ハ山ひこのとくなれハまゝ子をつれなくそなへはかならずわか産ところ乃子に報ひてあさま「二

オ」しき禍ひあり

これそのむくひ二なり

とても我手にやしなひなからあたかたき乃とく思ひぬれば家内に常にかたきありてむねをこがし心をなやましぬ

これそのむくひ三なり

貪嗔痴の三毒ハ地獄の業なり

残悪の虺心は三毒乃はなはたしきものなれば何ほど後生を願ふとても砂をかしいて食をもとむるかとし

身後かならず阿鼻獄乃責をうく

これそのむくひ四なり

かく眼前のむくひある事をよく考へ残悪をあらため慈善にかへるへきと皆其身の福ひなり

継母たる人も本来残悪の心はなき物なり

いかんとなれば我子ならねともみとり子をミて「2ウ」にくしと思ひころさんとおもふ人は天下に有へからず

然るに継母となりてハこの心をうしなひとがなきにくミうらミなきに死を願ふハたゝ利欲の一念とゝこほりて

本心をくらすゆへなり

その利欲といふはまつ我うまさる子に苦勞をする事せんなきあた事なりと迷ふ一念より養育の苦勞をいとふ利欲そ

の一なり

さてわが産ところの子あれば衣裳食物玩物までもわか子ハかりにと思ひゆくゝ跡識をわか子にかたつけどら

せ度おもふ利欲その二なり

この二乃欲心日にそひ月にまして深くなりゆきうとむ心ハつれなくなりつれなき心はおそろしき虺心となりて「3

オ」終に継子をさひなミころす残悪となれり

継母たる人よく思案工夫してこの家にわれをむかへぬるハ家事をいとなミ子共を養育せさんためなり

世間に養子する人もあればわれに子なくハ養子となしわれに子あらはわか子のたすけなりよく愛すれハ継子も実子

となるためし古来多けれハ胎育生産乃苦勞なくして儲たる子也

一しほにわれに益ありと思ひたくらべ苦勞をいとふ利欲の虺心をはらふへし

衣食もてあそひものハ多きも実はその子に益なしすくなきも実ハその子に損なし

あるにまかする世中なり

千金乃ゆつりをうけてほとなく貧窮にせまり一銭の「3ウ」ゆつりなき孤も富さかへぬるためし古も今も家毎

にある事なればわか子に福分あらは親のあとしきをとらずともさかへなん事うたかひなし

若福分うすくハ正路なるゆつりをうけたり共たのミなし

まして兄のとるへき跡識をうばひとりて八天の責おそろしき事なり

その上継母乃慈によつてまゝ子も実子となるなればそ乃兄たるもの弟を見すてなんやと思案工夫せは衣服跡識なとの食欲きえ本来の慈心まめやかなるへし

されは継母乃まゝ子をそこなふは多分わか子を世にたてんとむさふる心よりおこれり

天道あきらかにましませはまゝ子をそこなふ報ひ「4才」にてかならずわか子災ひにあふ事影の形にしたかふか

とし
継子にかへんとこしらへたる毒をわか子喰て死したるためしあれはまゝ子をにくみそこなふハ畢竟わか子をにく

ミそこなふなり

まゝ子を愛するハ畢竟わか子を愛するなり

古今乃ためしをよくかゝみてうまぬ子をまうくる心得継母の福德なるへし

とりわきまゝ子にハそのをしへ道あるへきとなり

いかむとなればその子ねぢけて行儀あしけれハ継母の心にさへる事おほくして慈善のほどこしなりかたくいつとな

く残悪の心もいてくるものなり

まめやかなる友にましハリ道ある君子を師としたかへは心た「4ウ」て正しく孝行の道をわきまへ行義さたかなる

ゆへに継母乃心にさかふ事なく慈善のほどこしたやすきものなり

この理をよく心得かりそめにもあしき友にちなまざるやうにをしへ道ある人を師と定むる事慈善の第一義なり

○魏乃芒卯か妻子を五人まうけてのち世をはやう去ぬ

家事のいとなみ子共の養育つまなくてハかなハされは芒卯やむことを得すして孟陽が女めを娶て后妻とす

后妻また三子をまうく

この后妻よのつね乃継母にかハりて慈愛ふかくわか子まゝ子の差別なく一味になさけ有しかとも五人のまゝ子母を

にくみてしたし「5才」ます

継母これをもとがめす我あてがひのあしきにこそとミづからとかめ衣裳食物萬端につゐてまゝ子を第一としてわ

か子にハとの外おろそかにあてかひぬ

しかれともまゝ子の心つゐにやハらかす

しかハあれと継母はまゝ子をとがむる心なくたゝ我あてがひのその母に及ばざる所あるゆへなるへしといよゝ

いつくしみふかうはごくミけり

或るとき
或時まゝ子のうち一人國のおきてをそむきければ死罪に行ハるへしとて籠舎しぬ

継母これをなげきかなしひてやせおとろへいかにもしてまゝ子の罪を乃かるゝ道もがなともとめくるしミ方ゝさ

いかくいとまなし

或人まゝ母にかたりけるハまゝ子と「5ウ」云なからとりわき不孝無慙乃ものなれハさのミかなしひ給ふ事せん

しと云

継母こたへてわか実子ならハ不孝なりともたれかその子乃わさハひをすくハさらんや

増て継母なればとりわき精を出さてかなハぬとなり

いかんとなればこの子共母なきによつてわれを娶て母にかハつて養育せしむ

人の母となつてそ乃子を愛せざるハ虎狼にもおとれり

わか子のミを愛して継子をうとまんハ人の人たる義にあらすとりけだものゝ心なり

われ不肖なりといへとも虎狼禽獣の心をもて心とせん事深く忍びさるところなり

豈わか心のしのひさるところをすてゝ他をもとめんやと云

終に「6才」國王へ訴状を奉りければ國王その慈善の徳を感じ是ハ自餘の例にもなるへからすとてその子乃罪を

ゆるして家にかへし給ひぬ

是より五人乃まゝ子慈愛まどある事を感じてわか母乃思ひをなし孝行実子にまさりければ八人乃子とも同しくうミ

出せるがとく和睦よのつねならず
母養育の厚乃ミにあらす八人の子ともに礼義ををしへはけましければみな善人と成八人ともに魏國乃大夫卿士の
高官にのほりいみしくさかへてけり
是によつて魏國の慈母と天下にほまれをあけ末代乃手本となれり

わか子と一味にまゝ子を愛するさへよのつねならぬことなるにまゝ子乃うとむをとがめすしてミつからとかめまゝ
子を専らいつくしミわか子をおろそかにするのミならすわか子と一味にその罪をすくへる心ばへまことに君子も
かたしとするところ婦人にハ古今まれなる賢女なり

志かれとも人ことにこの母乃心なきにあらす
この心は本来人乃性なり

性ハ人生の根本なれば貴きも賤きも智あるも愚なるも人々具足乃ものなり
衆人ハ利欲におほれて本性をうしなひ魏乃慈母ハ利欲のけかれなく本性明らかなるものなり
志かれは平人乃及ぬ事なりとミつから残悪に身をすつへからす

されは子共多く繁昌せんことハたれもねかハしき事なれハ魏乃慈母慈善によつてうまぬ子を五人までまうけ其徳に
よつてわか子三人もろともに福報をうけいみしくさかへぬるためしをかゝみて魏の慈母の心をもて人々具足乃本
性を觸發すへし

○徐甲が妻乃許氏男子一人をまうけて鐵臼と名づく

そのゝちいくほとなくて身まかりぬ

徐甲また陳氏を娶て后妻となす

この陳氏あきまで残悪の心行たくましかりき

陳氏男子をうめり

鐵杵と名く

まへはらの鐵臼ハくろかねうすとよむ文字なれば陳氏かうめる子をはくろかねぎねと名つけて思ふさまに繼子をつ
かんとのたくみなり

鐵杵はくろかねぎねとよむ文字なり

徐甲ハ本より智恵くらく氣よハき男なるにあまつさへ旅にのミありて家に在ことまれなれハはゝかる所もなく心
にまかせて残悪をはたらきぬれハまま子の鐵臼をつれなくさいなむことあけてかぞへかたし

かくさいなむこと年ありて鐵臼十六のとし終にかつやかころしてけり

陳氏まゝ子をころして今ハ思ひのまゝなる世中なりとよろこふところに鐵臼死して十日あまりしてにハかに家の中
に声あり

おとろきければ陳氏が坐にならんで語りけるはわれハ鐵臼か怨霊なりわれ罪なきに繼母に殘害せられぬればわか母
うらミを天帝へ奏聞申すでに天曹乃符を得てそのむくひに鐵杵をとりころさんためにきたるなり
今日より鐵杵をさいなむ事われをまゝ母のさいなミけるやうになやましいためて終にころすへし

いかにまゝ母おもひ志り給ふへしとかきくとく

その声鐵臼世にありし時乃ものこしに露たかハす

家内乃人おとろき見れともそのすかたハ見えさりけり

そのゝちハつねにそのこゑうつハリ乃うへにとゝまりぬ

陳氏肝をけしいろいろのそなへものをまうけ巫をよび僧をかたらひてさまさまわびぬれともたゝあさわらふ声のみ
してうけつけす

或時はこの家をくづさんと云声しておがを引ことく屋なりすさましくすでに家くつるゝかと家内乃人はしり出けれ
は又おともせずミれはすこしも破るゝ所なし

或時はまゝ母われをころしてこの家にらくらくとおらんとやたゞやきはらふへしといふ声すればたちまち火もえ出

てミなやけぬと見ゆれとも又もとのことくすこしも損する所なし

かくすさましく奇特なる事をあらハしその間にハ継母かさいなミけるやうすをいちいちかぞへあけてうらミを云のゝしる事いくものたましゐをけす

このとき鉄杵六歳になりけるか腹はり五体うづきてなきさけふありさま目もあてられすあハれなり
怨灵たゝくと見えしところは青くはれてくさりぬ

かくなやます事一月あまりして鉄杵身まかりし日より怨灵の声も志つまりてけり

継子とわか子と本来一体乃理りなればまゝ子をさいなむハわか子をさいなむなり継子を愛するハわか子を愛するなり

これ定れる天理なるによつて陳氏か残悪かくその子にむくひぬめつらしきことゝ思ふへからす

本来継母のまゝ子につれなきはわか子を愛することのはなはたしきよりおこりぬれはむくひあるへきことをすこしにてもわきまへなは陳氏貪欲無慙なりともかくつれなかるましき事必定なり

よくかゝみてわか子を大切に思ハん人はかりそめにも継子をおろそかにすへからす

○張一清か妻乃廖男子一人まうけて早世しぬ

一清又陳氏をめとりて室ぬつぐ

陳氏姑につかへてきハめて孝行なるうへにまゝ子を愛する事わか子にまされり

かく孝行慈善の徳そなハるむくひによつて陳氏乃うめる子聰明人にすぐれ学問世にこへければ終に翰林学士と云大官に乃ほり母の陳氏もいみしき封号をうけられけり

陳夫人乃孝慈まことに稀有の事なれ共人ことにこの心なきにあらす

いかんとなれハみどり子を愛せざる母は人にあらす

ミどり子を愛する心は無欲の慈悲なり

無欲の慈悲心を仁と名づく

この仁ハ人々固有のものなればもとむる志したにあれば得かたき道にあらす
問人々具足の仁なるにみどり子にのミあきらかにして他人にくらきハいかん

曰見とり子ハ一体の志たしミきハめてをもきゆへに私欲のへたてなく本性乃仁くらからさるなり

よの人倫は軀壳の差別に迷ひて一体の理をわきまへす姑にあふてハ他人なりわれにうとしと思ひまゝ子に対してハ他人乃うむ子なり吾に親ミなしと思へる一念乃私はや仁乃かゝ見をくらすくもりとなる

此くもりによつて種々の利欲をはかりくらふる貪心起るによつて嗔恚乃ほむらもえ出てつゐに仁のかゝミをくらまし慈悲無欲の本心變じて残悪貪欲の邪心となれり

一念乃私をはやくのそき仁性乃かゝみあきらかなれハ姑につかへてハかならず孝行まゝ子を育てハかならず慈善なるものなり

されは孝慈ハ一徳にして二乃名なり

この孝慈の仁性ハ天地の大徳百福乃源なるゆへに仁性をうしなハされは必ず陳夫人のことき福報いミしきものなり
福ひをもとむるとてハかなはぬわざをもつとむるハ常乃情なるに人々生付て心にそなハリてあなち修行に苦勞もなき仁をもとむることを志らざるはおろかなないたましきかな

○衛乃宣公の夫人宣姜ようぎすくれけれハ宣公の寵愛よのつねならず男子二人を儲く

兄をハ壽と名け弟をハ朔と名く

宣姜つくつくと思はれけるハいかにもしてまゝ子の太子伋をころしてわか子を世にたてんとたくミその子乃朔と談

合して太子伋の事を宣公へ讒言しぬ

宣公その讒言にまどひ太子伋を齊國へ使につかハし道に伏をきて強盜乃ころせるふりにてころすへしとたくミ道に伏をこしらへすましてのち齊國へ密談乃使あり太子伋志かるへしと下知有ければすてに立日限きハまりぬ宣姜乃長子壽此はかりことをきき付て父母弟を種々いさめられけれども終にうけひく方なし

せんかたなくて太子伋のもとへゆきて件乃はかりことありかならずゆき給ふへからすとかたりなげかれけり太子伋乃曰わきミ乃情はまことにうれしけれども父乃命を背ていのちをなからへんはわか心にあらすとてとまらへき気色なし

壽ハこれを見てあまりたへかたなきにかゝるつれなき世に生らんよりハ兄の身かはりに死せんにハ志かしとおもひ定て太子伋のまねをして伋にさきたつてかの伏乃ところを通られけれハ伏の兵ども太子伋なりと心得てをしよせころしてげり

そのあとへ太子伋いたり弟の尸を見て尸にいたきつき涙をなかつてわか身ハ父乃命なればとてものかれぬ道なりかく情ある人の此難にあへる事ハいかむそや

なけくにあまり有いふにことばなし

むくハんとするに道なしたゝ同じ道にいそくにハ志かすとて自害しぬ

宣公宣姜これをきゝた々あきればはてたるはかりにて太子伋をころしぬるよろこひハよそに成て愛子乃わかれせんかたなく涕乃淵にそしつまれける

そのゝち壽の弟朔を太子にさため國をゆつられけれ共いく程もなく國みたれつゝに朔の子懿公の代に成て種をつくして滅びてけり

其後國人太子伋の子孫を立て國主にいたゞきつかへにけり

兄乃難をすくハんとて壽の死をかるんじられけるハまことに有かたき悌弟なれハ神明の加護あるへき事なれとも角

ありしハ宣姜乃残悪をいましめんとの天意なるへきにや
いかんとなればわか身死すとも子をたすけんと思ふは親の心なれば壽の死は宣姜乃身の死せるに一きハマさりたる天罰也

まゝ子に毒をかハんとこしらへたるをその実子くひて死したるためしとこの宣姜のことゝ相似たり

これらのためしにてもまゝ子実子本来一体にして差別なき事をわきまへ残悪乃虺心をこらすへし

宣姜残悪乃本意ハわか子を世にたてゝ子々孫々國を志らしめんとなり

志かれとも壽ハすてにまゝ子にさきたちて死し朔ハ志はらく國を志るといへとも二代までつゞかすしてたえほるひぬ

種をたゝんとたくめる太子伋乃子孫は却て子々孫々國乃主たれば宣姜乃たくミ皆あだなるにのミならずわか子孫をたやすはかりことゝなりぬ

よくかゝ見て身乃ためをおもハんとならはかならず仁をもとむきことにこそ

○秦潤夫がおさなづれ男子一人をもふけてむなく成ぬ

そのゝち紫氏を娶て后妻とす

紫氏も又男子をまうく

いくほとなくて秦潤夫大病をうけ身まかりぬ

その臨終乃時妻の紫子にかりけるハ次男ハその方乃実子なればたのむに及ばず宗領は実子ならねハとりわきなきけをたのむといと深く云をきぬ

紫子本より慈善なるうへに亡夫に約したる事なればわか子継子の差別なく一味にいつくしミ深くそたてけり

或時まゝ子むほん人にくミしてとらハれと成すてにころさるへきに究りぬ

紫子あまりのかなしさにせんかたなくや思ひけんわか子をつれて奉行所いてゝこのものを兄の身がハリにたてゝ兄をはゆるし給へ兄なくてハ我世にすむ事あたハす兄をころし給はゝ罪なくとも吾をももろともにころし給へとひた

すらになげきけれども聞いるゝ人もなし
とらはれたるまゝ子これを聞て吾こそ罪ありて角ハ成ぬなんそ罪もなき弟をころし給はんやといとさたかに奉行所
へ申上けり

時の奉行この事をきゝていか様めつらしきやうすなり定て弟ハまゝ子にて兄ハ実子なるゆへにこそとうたかひその
里乃人にたつねられけれハ里人こたへけるハ兄ハまゝ子にして弟ハ実子なり

この母つねにまゝ子にいつくしみふかゝりけるか今度とらハれとなりしを聞て志たしき友にかたりけるハわか実子
かくなるをすておきたらんハ亡夫のうらみも有まし

継子の角なるをすておきなハ亡夫のうらみさこそと思へは夜もねられず食物もあぢハひを志らす

志よせん弟にかへば亡夫乃うらみもなくわか心も是程までハくるしかるましとくときけると承ると委く夫の死せ
る時の事までを語り

奉行是を聞て感涙をなかし角有難き継母の望ミなれば他にことなるへしとて具に奏聞ありけれハ天子も勅感あつて
死罪をゆるしてかへし給ハリそのゝち勅使をもて褒美をくたされ其門を旌し世の鑑となし給へり

紫氏に希代不思議の福二あり

國賊と成たるものゝ死罪をゆるされぬる福ひその一なり

まづしき寡乃身としてかたじけなくも勅使をうけたる福ひその二なり

紫氏慈善をなす時この福ひをもとむる心あらんや

たゝ仁性乃惻隠くからさるものなり

これまことに慈善ハ百福乃源なるによつて響の聲に應ずることくもとめさるに得たり

されハ残悪の継母乃まゝ子をころせるハわか子の福ひをもとめんと心の心なれとも残悪ハ禍ひの根なるによつてか
ならずわか子の禍ひもとめすしてきたる

よくよく天道自然の妙理をわきまふへし

○歙縣に商人あり

家とみて子なかりけれは子孫相続乃ためとて手かけをかゝへぬ

一年あまりして其手かけ男子を一人まうけぬ

商人よろこひ乃眉をひらき祖胤と名づけ寵愛よのつねならず

ほどありて外國へ商に出ぬ

家を出るときその妻にむかひこの子そたちて家の本となればその方乃腹より出されともその方乃子なりよくたいせ

つにそたつへしと云ふくめぬ

妻こたへてわれもさこそ存候へ心やすく思ひ給へと上にてハマことらしくけぬれとも心ハうけさりけり

夫いてゝのちハその手かけにもつれなくあたり祖胤をはつねに庭におかしむ

その母いだかんとすれハいかりのゝ志りてふせきけり

ものをくふほどに成けれハ食をまるめて犬ねこ乃ものをくふごとく口にてくひならハせり

手かけあさましくおもひよのつねのごとくそだてんとすれハはげしくいかりぬるゆへせんかたなく妻の下知に志た

かひぬ

よく志いれけるによつて手にとりて物をくふ事を志らす其ふり犬のものをくふによく似たればとて狗兒と名をあら

ためてよびけれハわか名ぞと心得てよくこたへてけり

狗兒ハいぬちごとよむ文字なり

かく犬乃様子に志いれそだてければ三歳に成ぬれともつねの子どものことくならずぬすまぬ物くひあたかも犬のこ
とし

夫家に帰りて祖胤ハいかにとどへはその妻眉を志かめていひけるはされハなにの罰にて候やらん祖胤ハそのまゝ犬
に似て侍へるあさましき事なりと語る

商人おとろきさハきてこれをこゝろむれハ云にたかはす

其父あまりにはらをたて先祖悪逆乃むくひにこそとてつゐにふみころしてけり

手かけこれを見てかなしき身にあまり妻の志わきなりとかたらんとすれとも妻たけくすきましきものなれハその威におそれて云事あたはず

あまりかなしひにたへかね終に縊れてむなしくなりぬ

妻ハにくしと思ふものを二人なからころしぬれハ志すましたりと思ひよろこひけるかいくほとなくて癩癩をやミ出して地にたをれあがきぬるありさま犬のたハふれあがくに似たり

さめたるとき飲食をくふり祖胤がていに露たかはす

夫これを見て涕をながしてわか子かくありしに妻又かくのことくなるハ何なる天罰そやとなけく事かきりなし

となりの友あハれにおもひくハしくそのゆへをかたりければ夫これによつて妻のわつらひ残悪ざんあくのむくひなる事をわきまへぬ

友だち此ことをかたり終ることとはの下にその妻いきたえにけり

子を犬にそたてなしぬる才覚まことにたくミなることなり

もしこのたくミを慈善に用ひてこの子をよくそたてなは実子じっしとなるへし

子なきものハ養子をするならひよのつね乃ことなり

養子じょうしは実子じっしよりもあいらしきなといひならハせり

然ハ他人をやしなハんよりハわか夫の子を養子とせんに何そや

この妻乃智恵にてこの理りハ心得かたき事ならねとも一念のあやまりにて才覚を用ゆるところちかひて人をそこなひ家をやふりをのれもあさましこむくひにあへり

されハ人たくミをもて悪をつくれハ天道もまたたくミをもてむくひをあらハしたまふ事かくのことくなれハかならず智恵才覚をたのミて悪をつくる事なかれ

○王益の後妻呉氏はおんななれとも学問をこのミ物おぼえよかりけるがその学問まことありて見ひろく徳盛にして貧瘠びんじやくの三毒きよくつきぬ

志かるゆへに二人乃継子まろこをいつくしミぬる事その実子じっしよりはなはたし

まゝ子二人ともに幸ひなくして世をはやうさりぬ

その婦いつれも節を守りて王氏乃家にありけるか此二人の婦をとりわき大切にいつくしミはこくまれけり

すへて何事につきても讒言をきゝいるゝ事なし

もしまことしきことあれハかくさすしてその実否を明らめぬ

わか身の衣食いしょく手道具などハきハめてそさうにもてなし儉約を守りもし親類他人によらすまつしくゆきつまりて合力をこひもとむることあれハかならずあたへてそのもとめをむなしうせず

王益の一門の中にまつしくして婦いりすへきたよりなきもの三人までとりたてよめいりさせられけるかわかむすめにことならず

まゝ子の母方乃一類へのあい志らひわか一門にすこしもたかはす

そのうむところ乃子王安石ハ宰相となり安礼安國ミな高官に乃ほりその身夫人乃封号をうけめてたくさかへぬ

世間乃男子学問をこのめる方多しといへとも呉氏にはづる事なき人はまれなり

これ呉氏の得道脩福の根本なり

まゝ子と実子じっしとよめとわか子と前妻の一門とわか一類と他人乃むすめとわかむすめとみな一味に恩愛厚き事いはゆる万物一体乃仁なり

この仁吳氏乃ひとりわたくしにうるところにあらず吾も人も人々にうまれつきてあるところなり
志かれとも常乃人は一念乃あやまりによつて貧唄痴のまよひふかく仁徳のひかりくらきによつてわか子をは愛すれ
どもまゝ子をは愛する事あたはず

わか一門にはあつけれとも他人にほうすく色々にへだて差別ありてかりそめの事にもあさましくすさまじ
吳氏ハ学問のみがきによつて三毒乃まよひなく仁徳乃ひかり明かなるゆへにいつれの人に逢ても仁愛の心明かに
してそのおこなひみしくまめやかなりぬ

志かるゆへに子とも乃大福をまねきその身も栄花をうけられき

その子を受せん人はかへりミ法るところを知へし

○晋乃獻公乃夫人驪姫にわかきミ二人あり

驪姫わか子を世にたてんと思ひて種々はかりことを用ひ機変をたくミにして讒言をかまへ終にまゝ子の申生をハこ
ろし重耳夷吾をは國を追出してけり

かく思ひのまゝに志すましてその子奚齊を世つき乃太子に立てよろこひかきりなしといへとも申生の死せし年より
六年めの九月に獻公薨せられぬ

そのとし乃十月奚齊いまた位につかさるうちに國人奚齊をころしぬ

驪姫荀息と云大夫をたのミ奚齊の弟悼子を位にたてければまた同し年十一月に國人悼子をころすのミならず驪姫
をは市にひき出しころして町にさらしてけり

驪姫まゝ子と実子と一体乃理りをわきまへまゝ子を受すれば必ずわか子の福ひとなる事を明らかにすその智恵才覚を
慈善に用ひなは其子とも晋國乃主とならずとも必ず公族の大夫となりその栄花はんじやういミしかるへし

然るにこの理をわきまへすた々まゝ子をだになくすれハわか子は栄花繁昌なりと心得てたくミなるはかりことを用
ひ残悪をすさまじくふるまへるによつてその子とも國ぬしとなる事あたはさるのミならず公族乃大夫となる事もあ

たハすして六十日乃うちに二人の子ともをころさるゝ上にその身もころされあさましく尸まで恥をさらしけり

まゝ子をころすとわか子をころさるゝとた々中四年の遅速あり

わか子のころさるゝ事をくれぬればそのころさるゝさまきハめてあさまし

これらの故事をもて見るにまゝ子実子一体にしてわが子乃栄んことをもとむる道ハたゝまゝ子を一味に愛するにあ
り

まゝ子をにくミそこなふはわか子乃禍ひをつくれる理りは分明なり

驪姫乃才智よのつねならずといへともこの理りをわきまへすわか子乃福ひをもとむる才覚とて却て其子をころす禍

ひをつくり出せり

おそるへしいましむへし

○石揆か妻家まつしくて子とものおほきことをいとひて二人までうむとそのまゝころしてけり

そのゝち懐妊しけるか一度に四人うミぬ

その産ことの外なんぎにてそ乃苦痛いふへからず

終にその身もうまれたる子も皆むなしくなりぬ

又元秀といへる人家とミて四十万のたからをもてり

本妻の子四人をは明月の玉ともてなし手かけのうむ子をは男女をいはす皆うつミころしぬ

元秀或時夢中に數十人來りて人をころすものをとらへんとひしめくと覺ておとろきさめておきあかりぬれば手足う
し乃ひづめとなりその苦痛はなはたしくまるひあがきて大こゑをあけてさけひけるか中三日ありてたちまち頸きれ
てむなしく成ぬ

そのゝち四人乃子とも四十万のたからをわけて栄花にふけりけるかほとなくとかにあひ闕所せられ其財のこらす皆
官府へいりぬ

とら狼たにもその子をはくらハす志かるに人としてその子をころせるハ虎狼よりもはなはたしき毒心なれば元秀
いきなから牛と変じぬる事奇特なるにあらす

名利乃欲心におほはれて親のおやたる本心をうしなひ石揆か妻のことくなる残悪はいにしへも今も世間にたえず
その残悪乃みなもとをたつめるにそのまよひ二あり

一つにハ不義乃淫乱にしてその子をそたてかたきゆへなり

二つにハ家まつしく子おほければ養育つゝきかたき故なり

されは淫念乃おこる始めに交るへき人なるか人にあらさるかを思案すへし

交るへき人にあらさる時ハ淫乱なり

淫乱は悪逆無道なればかならず浅ましき報ひあり

もし子ありてころせば罪の上のとなればその報ひはなハた重し

此つもりをもてその淫念をこらしけすへし

貧くして子をいとほんものは淫念乃おこるはしめにその時節を思案して懷妊すへき時をさくへし

その時に至て淫念おこらは子をころすむくひおそろしきことをおもひこりて淫念をけすへし

かく一念のおこるはしめによく思案工夫せば残悪乃虺心退治やすかるへし

元秀かことき残悪は退治きハめてやすし

いかんとなれば淫欲をこらゆるにあらすやしなひかたきにあらすたゞむくひあることをわきまへて利欲乃わたくし
たになけれハをのつからなき残悪なり

世上におほきまとひなればこまやかにいひのへぬ

心あらん人はよく思ひとるへし

○齊乃宣王の時に義継母とて名たかき慈善の人あり

義継母乃夫身まかる時に我子二人乃内一人ハ実子なれば云に及はず兄はその方の実子ならねとも我むなしくなりて
の後はその方より外に頼むかたなけれハ実子乃思ひをなしてたべと云けれハ妻こたへてそれハたのミ給ふに及す吾
子をばうとむともまゝ子におゐてハなをざり乃思ひをなすへからすとちきりにけり

夫世をさりて後はまへかとも一入にいつくしミふかくまゝ子実子乃隔なく一味に養育してけり

或時まゝ子町へ出て人と口論して終にあひてをころしてその身ハ難をのかれて家にかへりぬ

あひての方より跡をつけてかれか家をとぢめて奉行所へ訴へぬれとも志かとその人乃面をは見志らさりけり

奉行所よりとらへにゆきければ弟すゝみ出て人をころすものハ吾なりと云

兄またはしり出てそれハ実にあらず罪なきものをあやまり給ふな吾こそ人をころすものなりと云て兄弟互にあらそ
ひけれハめしとりに来たるもの共いつれを其人と定むへきやうなしとて兄弟ともにつれて奉行所へゆきぬ

奉行所にて始のことく兄弟あらそひけるによつて時の奉行もわけあぐミて宣王の批判をうかゞひけり

宣王きこしめして此兄弟の云分にてハ無道の喧嘩ハ有ましきことなれば罪乃うたかハしきをころさむよりゆるすに

ハ志く事あらじ

志かれとも先その母に二人の内いつれかたすけ度と問へし

二人の内悪人あらは必ず母にも不孝なるへし

一人不孝ならば必ず孝行なる子をたすけんとねがふへし

これをもてその罪を定むへしとありければ奉行うけたまハリ其母をよひて國王慈悲ふかくましませハ二人ともにこ
ろし給ふへきにあらす

志かれともその罪人いつれをと定めかたし母の心も不便なれば母のたすけたく思ふものをたすけよとの勅定なり
とても乃かれぬ事なれハ汝か願ひをつゝます申へしとぞ志めされける

母なみたをなかけてわか願ひをかなへ給ハんとならハ兄をたすけ給へと云

奉行また問ていハれけるか尋常のならひにて弟をいたはるに兄をたすけ度思ふいハれハいかん

母申けるハされは兄ハマ子にて弟ハわか子にて侍る

夫死せし時兄の事をふかくたのミけるを志さいに及はず固くちぎりしゆへなれはかく申なりと答ふ
奉行これを聞て感涙を流し宣王へ詳かに奏聞申されければ実子をすて、継子をたすけんと願ふほどの義継母なるに
よつて互に死にかはらんとあらそふ兄弟なり

かく有かたきものをころさんハ天乃責もおそろしとて兄弟ともにゆるされ母にハ義継母と云号をくたされその諸役
免許せられてけり

子を愛することの吾身よりふかきハおやのつねの情なれは子乃いのちをおしむ事吾いのちよりも甚じかるへし
志かるに死生の間にのぞんでその慈善のミさほをあらためさる事まことに君子の大義なれは義継母乃号よくかなへ
り

大義ハ万福の源なれは死禍を転じて福ひとなす事むべなるかな

されハよのつねの人ハ命をおしミ福ひをもとむる心ふかきのミにして命をたもち福ひを得る道の仁義乃心にある
事をわきまへさる故に命をたもたんとはかるわざ却て死をいそくみちとなり福ひをもとむるわざ却て禍ひをとるな
かたちと成ぬ

義継母乃ことく命をすて、かへつて死をまぬかれ禍ひをさけずしてかへつて福ひに転ずる君子の跡をかゝみてその
つとめはけますところを志るへし

仁虐報

家内にさしつかふもの奴婢雑人に至るまで何事につけても慈悲ふかくなさけあるを仁と云何事につけてもなさけな
くきつくあたるを虐と云

天地は萬物乃父母にして人は万物乃灵なれハ人として人を愛するものを天道のたすけ給ふ事たとへハ人の子をいつ
くしミぬれはその父母恩にむくふるかことし

人として人をそこなふものを天道乃わさハひし給ふはたとへハ人乃子をそこなひぬれハその父母うらみをむくふか
ことくなれは仁虐の報ひかけ乃形に志たかふかことくなる事必然乃理りなり

夫福分に貴賤ありて主人となり奴となるといへとも畢竟同しく人の生をうけたるものなり
主人も奴なけれハその用を達する事あたハす

諺にも下子なき上臍はならずとなん

奴も主人なけれハ衣食をとる所なし

奴は主人をたのミ主人は奴をつかひ互に相たすけて渡る世の中なり

その上主人なさけあれは臣下忠節を盡し主人無道なれは下人讐となる事そのためし多し
彼と云是と云下人なればとてあなどりかろしめつれなくあたるへき理なし

たとひ罪をおかす事ありともあはれふ心を本として戒めこらすへし

あはれふ心あつて罪をたゝせばその人悔あらたむる所あり

あはれふ心なくて罪を糺すときハ其人あらためくゆることなし

恩を施す事ハ常の例なれは云に及ばす

たゝなさけふかくあらん事下人をつかふ第一義なり

諺にも恩にハ命を捨されともなさけには命をすつるといへり

もし何事につきても虐悪乃念おこるときは道理をおもひ報ひにこりて虐念を変して仁愛となすへし
生とし生る人たれかその子を愛せざらん

奴といへ共皆人乃子なり

わか子そのくらゐにあらはわか心志のぶへからす

奴乃親たるもの同じくこの心あればよく思ひたくらべかならずあなとりかろしむる事なかれ

万物一体の心人々具足乃ものなれば奴なり他人なりとあなとりへたつる意念なくハたれも仁ならざるハあるまし
よくミつからかへりみて仁をほとこさん事その身の福ひにあらずや

○程子乃母公候氏孝順乃徳まめやかにして家を治むるに法あり

寛仁を本として何事につきてもはけしくせハしからす

奴とがありてもむちうつことをきらひ少々ことをハのどやかにをしへいましめてはけしくいかれることなし

これによつてその家よく和睦して正しく齊りけり

間に子達乃奴を志かり責る事あれば貴賤異りといへとも同しく人なれハさのミいやしミなやますへからすと深く戒
め給ひき

その子にをしへ給ふところ道あるによつて明道伊川もろともに大賢となり大官にのほり子々孫々に至るまでいみし
くさかへたまひぬ

程母は孝慈順仁そなへるによつて造化し給ふ清福なればさしていつれとも云かたけれとも貴賤一体乃心得君子もわ
きまへかたきところにしてこの心得功德無量なれば造福乃修行かならずこれを外にせず

人々此心なきにあらず

候氏を師とせは虐念の雲はれて仁徳乃ひかりあらはるへし

○王會師か母心たけくして家内の人につれなくあたりけるか身まかりてのちほどへて會師か家にかひける犬ひとつ
乃牝犬をうむ

此犬あまりにぬすミくらひをしけるによつて會師か妻つえにてたゞきければこの夫人乃ことくものいひてわれハ汝
か姑なるか吾世にありし時家人につれなくあたりしむくひによつていま畜生の形ちをうけぬ

汝われをうつは大ひなるあやまりなり

斯うたれて恥をかくうへハ此家をさるへしと云てはしり出ぬ

會師これを聞て涕をなかしいたきとゞめけれハ志ハ志ハとゞまりぬれともまたはしり出はしり出て終にとゞまるへ
くもみえず

會師その心を察してのきの下にへやを作ておしいれければよろこひはいりてさるへき気色なし

會師毎日食を饋て人をやしなふかことくその志し切なりければ常にこのへやにありて外へ出す人間の家にすむこと
くにそ有ける

一二年ありてのちゆきかた志らすうせぬ

まことに希代不思議なる事なり

主人乃奴につれなきは愚痴よりおこれり

いかんとなれハ愚痴なるときは貴賤一体乃理りを弁す得失利害の道理を志らざるゆへに奴をは犬いのこのことく思
ひあなとり得失乃念おもけれハそ乃苦勞をいたはりあはれますはげしくつかひなやましすこしあやまりあればすさ
ましくあたりぬ

されは愚痴は畜生の心なれば會師か母愚痴の心行たくましく家人につれなき報ひに狗と生れぬること宜なり

此狗のことく人間の舌根のこりてそのむくひをあらはすことはまれなりといへとも世間に愚痴の人たえされハ人間

の舌根ともに滅してつげあらはす事のあたハさる狗おほくあるへし
狗と生れん事ハ誰にもくミいとふへきことなれば戒めこらすところを志るへし

○楊誠齊乃夫人羅氏仁徳たかかりけるか年十七あまりなるときにも朝とおきて手つから粥を煮て奴とにくはせ
て乃ちさしつかはれけり

その子乃東山申されけるは斯寒きときなるにミつからひえくるしひ給ふ事もつたいなし
向後やめたまへといさめられければ羅夫人答て奴も又人の子なり

朝さむき時なればはらをあたゝめさせてその苦勞をゆるめんとの事也と云へり
東山また曰夫人年老たまひて斯いやしきわさをいとなミ給ふ事さかさまなる行ひなるへし

その上寒天にあさとくひえ給こと苦勞もいかはかり感冒乃病もはかりかたし
たゝ願はやめ給へと申されければ夫人答てつとめてこれをなすにあらず

我たのしふところなれハ寒きをも苦勞をも覚えす
もし志ゐてやめなは我心安かるへからすとて終にやめられざりき

年八十餘の時までもうミつむきのわさをつとめられぬ
男子四人女子三人もふけられるか皆位たかくいみしくさかへてけり

奴を愛して苦勞を覚えられさるハ慈母乃みとり子を愛する心をうしなハさるものなり
奴は常の人のあなとりかろしむるところなるにこゝにおめてこの心をうしなハされはその餘乃人倫におみて仁厚

の心をしはかるへし

されはかくすぐれたる仁徳なれば七子の福ひを作り出せり
朝とくかゆを煮る事をばのつとる事あたハすとも奴も又人乃子なりと思へる仁心たれもよくのつとり守るへきこと

にこそ

○胡泰か母性たけくして家人につれなかりけるか世を去てのち十年あまりすきて胡泰か父またつまを娶りぬ
或時泰が夢に亡母つげけるハわれ世にありしとき心たけく家人をなやましける罪によつて今鶏と生れぬ

明日軍士乃来る時かしハの雌を持来るへしこれ吾今乃すかたなりとさたかにきこえて夢さめぬ
胡泰あやしく思ひけれともさの心にもかけす夜明ぬれば用ありて外へ出ぬ

その跡に軍士乃来りて宿をとりけるかにハとりを一たづさへ来りぬ
その家このにハ鳥をうけとりてころし料理せんとはかりけれハ此にハ鳥人のことく言てわれをころす事なかれ志は

らく胡泰かかへるまでと云
家人おとろきあやしミて遅々しけるうちに胡泰かへりてけり

にハ鳥胡泰を見付てよろこひ母の世にありし時のことをつまひらかにかたりぬ
胡泰これを聞てありし夢乃告に思ひあハせなミたをなかしいだきとつてその父につげてよくこれをかひぬ

久しうしてのち此にはとり人間のうハなりをねたむことく胡泰か継母をのりことしてつゝきやまさりければ継母な
けかしく思ひ胡泰か留守をうかゝひて此にはとりをころしすてぬ

佛教に無明を生死輪廻乃種とす
無明はすなはち邪見妄執乃ことなり

心たけくつれなきは邪見妄執のはなはたしきものなれハ胡泰か母愚痴の妄執によつて畜生と生れぬ
然るに猶存生乃ねたミを忘れさるありさまあはれにあさまし

後乃妻かくあらたなる
むくひを見なからこれをころしぬる心一しほふかき妄執なれば身後さためて畜生の苦ミをうくる事いとふかかり

なん
かく眼前にむくひを見なからこり戒むる事なければ傳へ聞人のうたかひをなし惑をわきまへさるも宣まりとも云へ

きにや

然れども先覺この理を明しそのためし世にたえされハよくかんかへミつからかへり見て心中にたくハへぬる畜生乃種をたゝん事その人乃幸ひなるへし

今乃世間の畜生業報乃もの定て多くあるへけれとも人語をなさゝるによつてあらハれさるなるへしまことにあはれふへしおそるへし

○元寛乃妻孝悌の徳まめやかにして先祖乃祭祀に誠を盡し且文学もさとかりき

元寛世をはやうさられけれとも節を守りその二人乃子をそたてミつから詩書ををしへ学問をはけましければ兄の種も弟の積もともに学問成就して皆高第にあげられ官に入ぬ

奉公乃はしめ俸禄すくなうしてまかなひ成かたかりけるか常に衣食をあたふるに先孤弱なるものを始にしうとく賤しきものを次にす

何事も公にして情ふかゝりければ親きものハよろこひうときものハちかつきぬ

かく家を治ること二十五年家人ををしへ戒ることを専にして過ちありてもむちうつ事一度もなく顔色を正くして教へ戒るはかりなり

かく仁にしてはけしからされともその戒を受るものの恥おそるゝ事市町にてうたれたるかことし

家人ミなその徳に化し奴に至るまで互に怒り争ふ聲を聞人なし

後に元稹宰相乃位にのほりならひなくさかへてけり

一念乃仁愛すら福報あればかく有かたき寛仁乃徳によつて家内乃僕まで和睦しぬれば宰相の福ひその家に来る事必然の理りなれハ奇特と云へきにあらず

されハ人乃不仁なるは眼前乃小利を貪るより起れり

眼前乃小利と宰相の福ひといづれかねかハしかるへきや

よく思ひたくらへて眼前の小利を貪らす大ひなる清福を求めなは貪欲の毒心滅し元母の仁心たれも明かなるへし

いかんとなれば仁徳ハ人々固有のものにして元母のひとり得るところにあらざるゆへなり

鑑草卷之六 淑睦報

淑睦はよく親むとよめり

あひよめ小姑その外一族に仁愛乃誠あることなり

心の本体ハ万物一体乃仁具るものなれば惑ひなければ志たしミなき人をもよく愛する理りあり

ましてあひよめと成小姑となりぬれば骨肉同胞乃親ミあるをや

万物一体の仁心を明かにし人はいかやうにもあれ吾ハ何の心もなくひたすらに親ミ和ぎぬれば人も又岩木ならさ

れは感動するところありて仁愛をもて我を親むものなり

かくあれはあひよめ小姑その外一族に至るまで皆骨肉同胞乃志たしミと成て吾は人乃ためを思ひ人は吾ためをおも

ひあつまり居てハ兄弟和合のたのしひありわかれて家にある時はそかうの氣遣なく安堵の思ひをなせり

これまつ淑睦眼前の福報なり

かくのことく淑睦まめやかなれは家門和睦して卒に子孫の福ひ来れり

これ後來の福報なり

然れども世間に淑睦の人まれなるは兄弟ハ天属なれば互に意念なしあひよめ小志うとめは人合なるによつて互に他人なり心ゆるすへからすと思へる意念むねに塞がる上に互に才を争ひ容儀を争ひ利を争ふ我慢邪欲ましはるによ

つて一体乃仁おほひかくれて互にそねミ争ふ心根ありて上つらハ親しきふりなれともわたにはりをつゝしむといへる諺のことし

此心を種として色々見くるしきわきとも出来てはなはたしきはあたかたきのことく相争ひ相そこなひて互にかきりなき苦ひをうくるのミならず家門の恥をあらはし子孫の禍ひを基ひす

されは苦ひと禍ハたれもいとひさくるところにして樂みと福ひはたれもこのミねかふところなりといへとも吾心にて苦樂禍福を作り出す理りを志らす

間に粗淑睦の心ありといへとも人のあたりにさかたちて吾にハとかなけれとも人のつれなけれハなとゝ惑てとも本心をうしなひ同じくあさましき心行あり

よく禍福損益の理りをわきまへ淑睦の心行をはけミもし人のあたり道なき時は吾よきに人乃あしきハなき世なりたゝ己か仁愛のまことなきにこそとミつからとかめてかりそめにも人をとかめすいくたびも人にまけてたゝひたすらに淑睦をつとめ我慢のほのほをけし堪忍ふかく利欲あさくハいかなる悪人にも感動せざるハ有へからす

たとひ其人は感動なくともかたへ乃人は良知くらからさるゆへに我淑睦をほめうやまひかれか横逆をにくミきらふものなり

人乃よく思ひいるゝところはすなはち天道のくミし給ふところなり

天道人間もろともに吾にくミせん事まことにたれもねかハしき事なればこゝをおもひなくさミて人乃つれなきをわすれなハ淑睦の心行日々すす見なん

○王覽乃妻その兄よめに淑睦まめやかなる事たくひなし

その姑め朱氏のために兄の王祥は継子にして弟の王覽ハ実子なりければ王祥乃妻にはつれなくあたりて王覽の妻をハいつくしミたはれり

兄よめにつれなきあたりある時は王覽の妻なけきかなしびてふかくわび兄よめにやハざるわさをあてかハれぬる

時は王覽の妻もともといとなミぬ

朱氏王祥か妻につれなくあたんとすれ共王覽の妻のともになけきいとなむことをいとひていつとなくその心や

はらきのちにハふたりのよめにひとしく情ふかゝりけり

これより家内和樂し王祥王覽もろともに高官にのぼり子々孫々に至るまで富貴その家をはなれす今に至るまで家門めてたくさかへけり

朱氏乃虐悪よのつねならさるさへ淑睦乃徳にハやはらきぬ

ましてさもなき同輩の人をや

されハ王覽夫婦の悌睦によつて朱氏の灵明ひらけ家内和睦し代々乃富貴をもとひしひらきぬれば至誠乃功德無量なる事よくわきまふへきことにこそ

○章氏兄弟壯年をすくるまで子なかりしかバ一族の内をゑらひて兄一子をやしなひぬ

そのゝち程なく男子を一人まうく

弟申けるは兄に実子生れぬれば養子をは吾にあたへ給へやしなひたてんとこひうけけり

兄ミその妻にかくと語りけれハ妻うけこはすして云けるハ子なくして人の子をやしなひ子をまうけてすてなんことまことに道なき事也

かく道なき心行あらは生れたる子も冥加なぐしてそたちかたかるへしと云ければ夫も強ることあたはずしてやミぬ志かれとも弟つよくこふてやます

兄嫁やむことを得ずしてやしなへる子ハあたふへきことはりなければ今まうけたる子をあたへんといふ

弟したたいふかゝりけれともつゐにまうけたる子をあたへけり

狼子実子もろともによくそたち才徳すくれて官にのほりぬ

二人の子共に男子ふたりつゝまうけるかいつれも才徳人にこえて皆位たかくさかへてけり

子のかず多きだに我子にわたくしあるハ婦人の常つねのならひなり
いはんやまれにまうけたる子をや

此兄嫁淑睦乃心こころまめやかなるゆへに兄弟姉妹一体乃いつくしみくらからず

我うちにそたつると弟の家にそたつると同じく思ひなすによつてたまたまうけたるひとり子を弟にあたへわか身
ハ狼子をそたてぬ

まことに有かたき仁徳なれハなとかそのみくひなかるへきや婦人乃その子にわたくしするもわか子を愛する事の深ふか
きよりをこれり

わたくしなくしてわか子のさかへなん事をわきまへなはたれも淑睦くらかるへからず

よくよく思ひとるへき事なり

凡夫ぼんぶ乃ならひにて妻のことばに惑はさるハなし

されは父子兄弟一族の和睦せさるハミな婦人の云なしよりおこりぬれは一門の和合する事婦人乃云なしにて一入た
やすかるへし

婦人は三従の義あるによつてミつから善をなすよりハ夫をすゝめて善をなさしむるを第一とす

その功德のむくひも夫を善にすゝむるはミつから善をなすに一はいせり

人間の善行をたくらふるに父子兄弟一族乃間におゐて仁徳をおこなひ和睦するより大なるはなし

人乃妻たるもの淑睦のまことあれは夫にすゝむるところ皆淑睦の善行にあらずと云ことなし

夫は妻乃云なしにあやかるならひなれは必ずこれによつて夫の仁徳明かにして一門和睦すへし

その身の淑睦のミならず夫をも淑睦に勸化すればその功德無量にしてそのむくひをうくる事も又はかるへからず

淑睦乃本心をくらす魔障志な多しといへとも損得を計る貪心と勝ことをこのむ満心より大ひなるはなし

我慢の勝心をけして損得乃むさふり浅くは淑睦日々に進ミなん

よくかへり見てちからを用ゆるところを知へし

廉貪報

廉はむさぶらざるなり貪はむさふるとよめり欲ふかくきたなく財寶を忍しのごるをむさぶると云なり

夫財寶は天下の生民を養ハんために天地乃生したまふものなれはかりそめにも貪り私すへきものにあらず

廉なる時はきたなき貪心なし

貪る心こころなければ財寶を己おのれ一人乃私用にせんとの欲心なし

欲心なければたくハへるも施すも皆道理に志たかひをのれをも利し人をもすくふ公用となつて万物一体乃心味から
す

萬物一体の仁明にして財寶に私用の貪りなく人をすくふは天道のくミし給ふ所なるによつて必ずいみしきむくひあ
り

もし此本心をうしなひ財寶をのれ一人乃私用にせんとむさふるときは万物一体の仁おほひかくれてたゝ己おのれれか
身のためはかりを偏に慮て人をそこなふ事をかへりみす

わたつかの私欲さへ天道のいれさる所なるに財寶を私用にむさふり人をそこなふ心行ハ虎狼乃たくひなれはなとかお
そろしきむくひなからんや

されは小人乃貪るハをのれかためを思ふよりおこりてその得あるに似たり

志かれとも人間これをにくミ天道これをすてたまひてつゐにおそろしき報ひあれハその損すくなからずをのれか為を思はざるなり

君子の廉ハをのれかはかりことをろかにして損あるに似たり

志かれとも人間これを愛敬し天道これをにくミし給ひてつゐにいミしき福ひあれはその得はなはた多く我のため乃はかりことかしこきなるへし

貪るハ得に似たる損なり廉は損に似たる得なり

夫は陽に属して発散を主とすれば財寶をもつかひ施す職なり

婦人は陰に属して收斂を主とすれば財寶をもたくはへつむ職分なり

志かれとも陽中に陰あり故に夫は財を生ずる本をつとむ

陰中に陽あるゆへに婦人は家内に財用をほとこす

陰陽乃発散收斂みな大極に志たかふ故に財寶を施すもたくハふるも皆道理に志たかふを廉とす

廉なる者ハよく蓄るといへともおしむ心なきゆへに人にあたへ人に借に味ひよく人の感ずるところあり

むさふるものハたくハへふかけれハおしむ心はなはたしきゆへに人にあたへ人に借に味ひあしくして人乃うらみをうく

まことによくわきまふへき事なり

或曰道理はいつれのところにかあるや

曰わか心に万物一体の仁愛ありこれを道理の本とす

此心にて分別してあたふへしとるへしたくハふへし施すへしと志る心すなハち道理なり

此道理にしたかひて財を用ゆれば福分厚きものハ財用ともしからす福分うすきものも飢寒乃患なし

或曰むさふらすんハ財あつまりかたきに似たり

されは諺にも志ハくは心得よ富ハ心得とこそ

曰それハ財の本意をわきまへす妄りに金銀をあつめはこに入て富とおもひ得とおもへる惑よりおこるうたかひなり金銀をあつめてわれもつかハす人にもほとこさざるをは古人かねのやつこととおと志めり

夫金銀を重寶とするハ我用を達し難儀をすくハんとなり

志かるにむさふるものハ金銀をおしむ心ふかきによつて我用にもつかハすして箱に入蔵におさむ

この不義のたくはへによつて種々の難儀おこりぬれハ金銀の重寶たるところひとつも用にたゝすして石瓦にひとしかく聚りてもせんなき物をあつめんと願ひて貪心をすてさるハ愚痴の至極なるへし

且廉と貪とその得失わづかの事なれば廉にしてあつまるへからざる理なし

いかんとなれハ大抵すこしもとるましきものををしてとるハ盜賊なれば貪るものもとる事あたハす

かならずあたふへきものを興へされは忽ち世間のましハリならざるゆへに貪るものもあたへざる事あたハす

たとへは百錢とるへきをむさふれば百三錢五匁とり百錢興ふへきを貪れば九十七匁あたふることきの損得なり

此三五匁の内乃損得をちりつつもりて山となるとむさふり財寶につれて禍ひもまた山のことくあつまる事をわきまへす燭におもむく虫のごとくなるハまことにあはれにあさまし

○李群君は女なれとも賢徳あり

或時玉をあきなふすはひの媼

玉をたづさへて来り帰る時に玉をひとつおとして去ぬ

そのあとにて群君おとせる玉を見つけいそきおつかけさせられけれども行方志れす宿をも志らさりければかへすへき様なくして尋来る時にあたへんとてよくおさめおきぬ

久しくほとありて彼すハひ来りけれども玉の事をも云出さす

その姿をミれハやせおとろへ精神ほれほれと成て前かと来れるさまにあらず

群君あやしくおもひ語られけるはいかにして左様におとろへけるぞ

いつそや来りし時玉を一つおとしゆきぬ

かへさんとおひかけぬれともゆきかた志らされはわか手におさめおきぬ

今汝さいハひに来れりかへしあたふとて玉を指いだされけり

すはひおとろきよるこんで涙をなかし申けるハ此玉を失ひし所を思案すれともおもひ當る方なく了簡に及ばずして玉ぬしの方へ金子百四十めにて侘れともその主ゆるされす

あまりのかなしさにかくやつれ侍りぬ

いまさいはひに君のめくミありて此玉をたまはるハ我命を給ハる也

たゞに申うけんもあまりそらおそろしけれハ金子六十め奉らんとて金子をさゞけ玉をうけぬ

群君あさ笑ひて此金をうけんとならはいかんそ玉をかへさんやとて金子もかへし興へてけり

そのゞちほとありて群君病のゆかにふしぬ

病中乃夢に車にのりて廣き野を行すき大ひなる官府に至りけるか尋常にすくれてたけかたき人二人衣冠正しくして堂上に坐せり

群君を請する人ありて群君をひいて堂下にいたりぬ

事をさばく奉行とおぼしき人大張を持って座上にありける二人のまへにひろけおきて退く

衣冠乃人この張をよみてひとり官人汝ちすハひに玉をかへす事を覚えけるやと問

群君よく覚えぬと答ふ

又一人汝ぢが寿限この時にあたりぬれとも件乃陰徳あれハ二十年の命をのぶと云り

一人の曰二十年までハすぎましきやと一人の曰女人ハ貪欲とんよくふかきものなるに玉をかへしぬる廉徳すくれて奇特なる事なれば多しと云へからす

いそきかへすへしとの仰にてまた車にのり門を出ると覚えければおとろきさめぬ

病もほとなくいへてかく語りけるかそのゞち二十年にあたるとし身まかりてけり

何ほど貪心ふかき人なりとも一年の命を千兩にもかへなんや

寿命長遠乃ためとてそくはく乃財寶をつゐやすはよのつねの人乃習ひなり

此等のためしにて寿命長遠の祈禱廉直より大なるハなしとよく得心とんこころして貪欲とんよくをすて陰徳をはけむへし

○万年縣乃元氏か妻の謝氏身まかりてのち龍朔元年に至て或夜その娘乃夢に託して云けるハわれ存生の時小き升にて酒のはかりをわろくせし報ひに今北山下の人家の牛と生れ法界寺の夏侯師と云ものに買とられ城南の田を耕しぬ

その苦痛つねならずと語ると覚えて夢はさめぬ

娘めまことしくは思ハされ共さたかなる夢の告なれば深くなけかしく涙をなかしその夫に志か志かとかたりぬ

夫さのミ聞もいれさりけれハ娘めも何となくうち過あやまちぬ

その明る年正月に法界寺の比丘尼かの娘めの家へ来りぬ

むすめありし夢物かたりをして夏侯師と云人やあるその家に牛や有と問ければ比丘尼答へてげに夏侯師と云人あり志かも比家に牛も見えぬその牛乃来る所ハいつちとも志らすといふ

娘ふしきにおもひ彼比丘尼とともに夏侯師か家にゆきて牛の来りしところをとへはまさしく北山下より買来りいま城南乃田をたがやすと云

むすめゆめの告に露たがハさる事を思ひあたり涙をなかし牛を求め得てかへらんと請

夏侯師あやしき思ひて娘めを以て牛屋へゆきければ此牛すくれたる人つきにてつかふもの一人ならてハなかりしか此娘めを見てなれなつくのミならず涙をながしけれハむすめもあはれに思ひ立よりぬれハいよいよこの牛泪を流し娘めをねふりて只物をいはさる計乃有さま也

娘めすなハちあたひをもつて買とり家に帰りやしなひころしてけり

貪欲とんよく乃人は損得のくるしひ牛の田を耕すにひとし

よのつね乃世俗もきたなく貪るをは人畜生といひおとしめぬれば生をかへてはしめて畜生と成にあらず今生すでに人のかはをはりたる畜生なり

かくあさましき沈魂滞魄なればむすめに告るほどの通力ハ有ましけれとも禍淫の妙理をあきらかに志めさんために

神明しんめいのかれに代り告給ふなるへし

謝氏一人かくあるにあらす世間貪欲とんよくの人ハ皆一例なりきく人よく眼をつくへし

○崇文門のほりに商人ありけるか或夜乃ゆめに其母告けるハわれ存生の時そうめんやのかけをまけてすまさゝりけるが今その家の驢馬となりてこれを償ふ事数年今我を屠るものにうりなんとす

汝母をおもハゝすみやかに来りて命をあがなへ

其の町の其と云へるそうめんやなりとさだかに語りてゆめさめぬ

その子おとろき覺て件乃そうめんやをたつねゆきてゆめ見ること何を何となく問にすこしもたかはず

此驢馬一兩二銭にねなつてすでに渡すへきに究りぬと云

折ふし子の手に四銭ならでハかねなし

残りをは借状をして重て償んとこひぬれ共ゆるさゞりけれハゆめの告乃ありさまを一々かたりてなげきもらひけれどもそうめんやすこしもうけごハす

あたりの聞人もまことしからすと疑ひかのものに驢馬を見せけれハ驢馬此ものを見るとひとしく涙をなかしなげき告るふり有

見る人あはれに思ひ銭を出して合力しぬれとも一兩二匁にたらされハそうめんやゆるさす

この子再三なげきもとめてやまさるによつてそうめんや申けるハこの驢馬ひころひとつはしをわたらす汝これをひいてわたりなば汝にあたへんと云

此もの驢馬に向てかくとつげけれは驢馬をどりてよろこぶ色あり

このもの驢馬をひいて一つはしをわたりけれはなんなくこえてけり

陸錦衣この事聞て驢馬と人とをよひてこれを試みるに子のかしこまるを見て驢馬も蹄を伏してひさまづきてけり陸錦衣大ひに奇特なりとして銀一兩米一石あたへて驢馬を子の手へかひとらせけり

貪るものゝ習ひにて食れハをのれに益みきありと思ひ却て大ひなる損あることを志らす

飢饉の年餓死するもの皆貪欲とんよくのともからなれハその大ひなる損一つなり

貪欲とんよくの人をは衆人にくみあなとる事犬馬のことし

これその損二つなり

貪欲とんよく乃人一銭の損得にも焦熱凝氷乃苦痛あり

これその損三なり

存生の内かく損あるのみにあらす死してのち牛と生れ驢馬と生れて畜生道の苦ひをうく

これその損四つなり

廉直乃人には此損一もなくして益みきあり

よく損得をわきまへて貪欲とんよくをいましむへき事なり

○周才美か婦才徳すくれけるか才美家をわたさんとて升を二つとり出し此小き升にて八人にわたし大きな升にてとりおさむへし

そのうけとりわたしのてだてハかく

すべしといとねんころに教へけれハよめうけこハすして申けるハ左様にもちがたき所帯ならば我さいばんの及ふところにあらずいとまを給はりて家に帰らんと請

才美その意趣をとへは婦こたへて翁の兩升をつかひたまふところ天道にそむきぬれば必ず天の責ありて此家やふるゝのみにあらず子孫しそんまでもそのむくひおそろしく侍れハかく申なりと云

才美おとろきはちて左あらはその方の心こころにまかせて向後兩升を敗りすつべしと云

婦答て兩升をつかひ給ふ年数はいくばくそやと云

婦人申けるはいまより廿餘年の間ちいさき升にてとり大きな升にて出し今までの科をつくのひてのち升壹つにし給ハヽとヽまりて家をうけ取へしと云

才美悔悟て兎も角も汝かさいはんにかかすとて家を渡しければ婦うけとりて廉直に家をおさめぬれハその家日々にかかへ生る子二人まで少年にして及第にして高官にのほりてけり

よのつね乃人の心得にハ貪る時は財積り貪らされは財あつまりかたしと思へり

此習ひくかきによつてきたなく惑へり

廉直をいさきよしと好ミ貪欲をきたなしと惡むハ人ことにある心なればむさぼるもかならず財あつまりらす廉直もかならず財をうしなハす

そのうへ貪欲にハ餓死乃むくひあり廉直にハ富貴乃報ひある天理をよくわきまへなは誰も貪欲のけがれ有まし

才美はしめハ兩升の貪欲によつて財あつまると惑ハんすれとも婦の廉直にして家のいよいよ富るを見る時は兩升乃貪欲によつて福分のをとれることを悔ぬへし

されハ貪欲の人には金銀米錢をほしヽおしヽと思へる念々積り堅りて心中の積となるを錢癖となづく

この積いできぬれば聖人の教化も入かたし

才美にハこの積いまたなかりけるにやよく金言を信じ過を悔善にうつり終に清福を得たり

此故事を見聞人才美にほまれを専らにせしむることなかれ

正保丁亥曆仲秋

風月宗知行

凡例

1, 中江藤樹^{注4}編纂の『鑑草』は、全六巻で正保四年(一六四七)に刊行され、女子教訓書の一書であり、女子教育の重要性を訴える作品として当時、広く長く読まれたものである。『鑑草』は、女中方の勸戒・慰めの書であるのだ

が、意図されているのは「福善禍淫^{注5}」とその証拠となる事実を示すことで、修養への志を確かなものとして促すためであったとする。

2, 『往来物大系』影印資料をもとに、巻一・巻二は、本学の学生である齋木弓理さんが入力し、巻三・四・五・六は、私、萩原が入力作業を行った。次に、此を基に校正見直しを実施した。〔文責：萩原義雄〕